

山梨市文化財調査報告書 第13集

# 三ヶ所遺跡(第2次調査地点)

— 市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書 —

2011年3月

山 梨 市  
山梨市教育委員会  
財山梨文化財研究所

山梨市文化財調査報告書 第13集

# 三ヶ所遺跡(第2次調査地点)

— 市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書 —

2011年3月

山 梨 市  
山梨市教育委員会  
(財)山梨文化財研究所

## 序

本書は、市道小原東東後屋敷線改良工事に伴って行われた三ヶ所遺跡発掘調査のうち、平成21年12月21日から平成22年3月25日まで行われた第2次調査の成果をまとめた報告書です。

調査は、山梨県指定史跡連方屋敷の南側前面道路拡幅部分について行われ、屋敷の前面中央部分と南東隅東側が対象となりました。

連方屋敷に関連する遺構・遺物は残念ながら検出されませんでした。南東隅東側の調査区から平行する2条の溝跡が発見され、近世の道路状遺構であることが分かりました。他にも2棟の近代の掘立柱建物跡や多数の溝・土坑・ピットなどが発見され、連方屋敷にごく近い範囲の地下の状況が明らかになりました。

最後になりますが、車両の通行部分を確保しながら拡幅部分の半分の幅を交互に調査するなど物理的制約が多い中で調査に尽力いただいた(財)山梨文化財研究所の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。序といたします。

平成23年3月

山梨市教育委員会

教育長 堀内 邦満

## 例 言

1. 本書は、山梨県山梨市三ヶ所地内に所在する、三ヶ所遺跡（第2次調査地点）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、小原東東後屋敷線改良工事に伴う本調査（全3次のうちの2次調査）であり、山梨市の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が発掘調査および整理作業にあたった。
3. 発掘調査は、平成21年12月21日より翌22年3月25日まで実施し、整理作業は、平成22年度に実施した。
4. 本書の執筆・編集は、宮澤公雄が行った。
5. 本書に掲載した遺構写真は宮澤が、遺物写真については中川美治が撮影した。
6. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務について、以下の機関に依頼ならびに協力を得た。  
基準点・航空測量 テクノプランニング株式会社  
陶磁器類鑑定 藤澤良輔（愛知学院大学）  
堀内秀樹（東京大学大学院人文社会系研究科埋蔵文化財調査室）  
鉄器保存処理 財団法人山梨文化財研究所  
石材鑑定 河西学（財団法人山梨文化財研究所）
7. 本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、山梨市教育委員会が保管している。
8. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。  
山梨市教育委員会、山梨市役所建設課、雨宮弘聡、河西 学、榑原功一、藤澤良祐、堀内秀樹、松十一仁、三澤達也
9. 参考文献は、執筆者順に第4章末にまとめて記載した。

## 凡 例

1. 遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX = -34,170,000、Y = 18,270,000（北緯35度41分30秒、東経138度42分06秒）を基点（X = 0、Y = 0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度7分03秒となる。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

### 遺 構

掘立柱建物 — 1/60

土 坑 — 1/30

ピット — 1/30

焼土遺構 — 1/30

溝 — 1/50、1/100

不明遺構 — 1/60

### 遺 物

土 器 — 1/3

石・土・金属・ガラス製品 — 1/1、1/2、1/4

3. 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

 石  焼土

4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは北位ならびに垂直方向を基準としたものである。

また、マークに付した番号は、遺物図版中の番号を示している。

▲土器 ●陶磁器 □瓦 ○ガラス製品 ◇金属製品 △石製品 ◆貝

5. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

6. 遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務局監修 1990【新版 標準土色帖】（小山正忠・竹原秀雄）によっている。

7. 本書で用いた地図は、山梨市役所発行の山梨市全国その1（1:10,000）および都市計画基本図（1:2,500）、山梨市教育委員会発行の山梨市遺跡分布図（1:20,000）である。

# 目次

例言

凡例

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第3節 調査の方法	2
第4節 遺跡概要	4
第5節 基本層序	8
第2章 遺跡の立地と環境	9
第1節 遺跡の地理的位置	9
第2節 遺跡の歴史的環境	9
第3章 遺構と遺物	13
第1節 掘立柱建物跡	13
第2節 土坑・ピット	13
第3節 焼土遺構	14
第4節 溝跡	14
第5節 道路状遺構	19
第6節 性格不明遺構	19
第4章 まとめ	20
参考文献	20

## 表目次

第1表 土坑一覧表	21
第2表 ピット一覧表	21
第3表 出土遺物観察表（土器）	24
第4表 出土遺物観察表（金属製品）	26
第5表 出土遺物観察表（ガラス製品）	26
第6表 出土遺物観察表（石製品）	26

## 図版目次

第1図 三ヶ所遺跡の位置	3
第2図 三ヶ所遺跡調査区配置図	4
第3図 三ヶ所遺跡全体図	5
第4図 三ヶ所遺跡1・3・5区全体図	6
第5図 三ヶ所遺跡2・4・6区全体図	7
第6図 遺跡基本土層	8
第7図 遺跡の位置と周辺の遺跡	11
第8図 1号掘立柱建物平面図	27
第9図 2号掘立柱建物平面図	28
第10図 土坑平面図（1）	29

第11図	土坑平面図 (2)	30
第12図	土坑平面図 (3)	31
第13図	土坑平面図 (4)	32
第14図	土坑平面図 (5)	33
第15図	土坑平面図 (6)・ビット平面図 (1)	34
第16図	ビット平面図 (2)	35
第17図	ビット平面図 (3)	36
第18図	ビット平面図 (4)	37
第19図	ビット平面図 (5)	38
第20図	ビット平面図 (6)	39
第21図	ビット平面図 (7)	40
第22図	ビット平面図 (8)・焼土遺構平面図	41
第23図	溝平面図 (1)	42
第24図	溝平面図 (2)	43
第25図	溝平面図 (3)	44
第26図	溝平面図 (4)	45
第27図	性格不明遺構平面図	46
第28図	出土遺物 (1)	47
第29図	出土遺物 (2)	48
第30図	出土遺物 (3)	49
第31図	出土遺物 (4)	50
第32図	出土遺物 (5)	51
第33図	出土遺物 (6)	52

## 写真図版目次

図版 1	遺跡全景	5. 1号土坑 掘り方
図版 2	1. 1区全景	6. 2号土坑
	2. 2区全景	7. 5号土坑
図版 3	1. 3区全景	8. 6号土坑
	2. 4区全景	図版 7
図版 4	1. 5区全景	1. 7号土坑
	2. 6区全景	2. 8・9・11号土坑
図版 5	1. 調査開始前 (1)	3. 10号土坑
	2. 調査開始前 (2)	4. 12号土坑 焼土検出状況
	3. 調査開始前 (3)	5. 12号土坑 セクション
	4. 表土剥ぎ	6. 13号土坑
	5. 遺構確認作業 (1)	7. 15号土坑
	6. 遺構確認作業 (2)	8. 16号土坑
	7. 遺構確認作業 (3)	図版 8
	8. 標準土層	1. 17号土坑
図版 6	1. 1号掘立柱建物	2. 18号土坑
	2. 2号掘立柱建物	3. 19号土坑
	3. 1号土坑	4. 20号土坑
	4. 1号土坑 セクション	5. 26号土坑
		6. 27号土坑
		7. 1号ビット

- |      |              |        |               |
|------|--------------|--------|---------------|
|      | 8. 2号ピット     |        | 3. 127号ピット    |
| 図版9  | 1. 4号ピット     |        | 4. 128号ピット    |
|      | 2. 5号ピット     |        | 5. 131号ピット    |
|      | 3. 7号ピット     |        | 6. 132号ピット    |
|      | 4. 14号ピット    |        | 7. 焼土遺構       |
|      | 5. 23号ピット    |        | 8. 1～3号溝      |
|      | 6. 27号ピット    |        |               |
|      | 7. 39・40号ピット |        | 図版13          |
|      | 8. 45・46号ピット |        | 1. 4号溝        |
| 図版10 | 1. 47・48号ピット |        | 2. 5号溝        |
|      | 2. 51号ピット    |        | 3. 7号溝        |
|      | 3. 52号ピット    |        | 4. 9号溝        |
|      | 4. 76号ピット    |        | 5. 10号溝       |
|      | 5. 76号ピット    | 遺物出土状況 | 6. 12・13号溝    |
|      | 6. 77号ピット    |        | 7. 14号溝       |
|      | 7. 78号ピット    |        | 8. 14号溝       |
|      | 8. 84・85号ピット |        | 8. 14号溝 礫検出状況 |
| 図版11 | 1. 89号ピット    |        | 図版14          |
|      | 2. 90号ピット    |        | 1. 15号溝       |
|      | 3. 92号ピット    |        | 2. 19号溝       |
|      | 4. 93号ピット    |        | 3. 1号性格不明遺構   |
|      | 5. 93号ピット    | 遺物出土状況 | 4. 2号性格不明遺構   |
|      | 6. 100号ピット   | 礫検出状況  | 5. 調査風景 (1)   |
|      | 7. 120号ピット   |        | 6. 調査風景 (2)   |
|      | 8. 121号ピット   |        | 7. 写真測量       |
| 図版12 | 1. 123号ピット   |        | 8. 神輿石        |
|      | 2. 124号ピット   |        | 図版15          |
|      |              |        | 出土遺物 (1)      |
|      |              |        | 図版16          |
|      |              |        | 出土遺物 (2)      |
|      |              |        | 図版17          |
|      |              |        | 出土遺物 (3)      |
|      |              |        | 図版18          |
|      |              |        | 出土遺物 (4)      |

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

山梨市では、八日市場と東後屋敷を結ぶ小原東東後屋敷線という市道建設の計画を立てた（平成元年3月都市計画決定）。計画地内は周知の遺跡である三ヶ所遺跡が存在し、泉石跡である連方屋敷や国宝の仏殿をもつ清白寺なども隣接している。

その後具体的な実施計画に伴い平成19年7月文化財保護法第94条第1項による通知がなされ、平成19年8月に山梨県教育委員会からの通知に基づき、山梨市教育委員会では平成19年から21年にかけて断続的に予定地内の試掘・確認調査を実施した。その結果、平安時代及び中世の遺構・遺物の検出により発掘調査が必要だと判断され、平成20年7月から10月にかけて財団法人山梨文化財研究所によって発掘調査が実施された。

調査の結果、平安時代の竪穴住居4軒、掘立柱建物5棟、土坑、溝などが発見され、平成22年1月に「三ヶ所遺跡」として発掘調査報告書が刊行されている。

平成21年度は、さらに西側の地区の工事が実施されることとなり、連方屋敷の前面も対象地区となるため発掘調査の実施が必要となった。

山梨市では発掘調査事業を委託事業として、事業主体である山梨市と財団法人山梨文化財研究所の間において、委託契約を締結し事業にあたった。

整理作業ならびに報告書刊行業務は、平成22年10月に委託契約を締結し、事業にあたった。

### 調査体制

調査主体 財団法人山梨文化財研究所

調査担当者 宮澤公雄 財団法人山梨文化財研究所

発掘調査参加者 岩崎誠至、小幡敬一、河西町男、神田久美子、清水征二、菅沼芳治、武井美智子、角田勇雄、中川博子、中川美治、樋川芳久、保坂輝司

整理作業参加者 神田久美子、小林典子、斉藤ひろみ、崎田貴子、須田泰美、武井美智子、田中真紀美、中川博子、中川美治、永沢淳子、永田恵、平賀早苗、望月秀和

事務局 柳本千恵子、横田杏子

## 第2節 調査経過

調査地点は、連方屋敷の中央から南下する道路を挟んだ、東西の地点である。詳細な調査区ならびに調査方法は、平成21年12月21日の打ち合わせ会議により決定された。

発掘調査は、下水道敷設事業との重複を避けるために、調査対象地内を6区に分け、下水道敷設事業に支障の無いよう、順次調査を行った。それに伴い、2月2日より2月15日までは調査を中断した。

また、第3区の調査結果により、現地に於て山梨市教育委員会より指示があり、調査区の変更を行っている。

### 調査日誌

#### 2009年

12月24日 計画準備

12月25日 基準点測量、施工計画書提出

#### 2010年

1月5日 調査事務所設置・機材搬入、1区表土掘削

1月6日 1区遺構確認作業、2区表土掘削

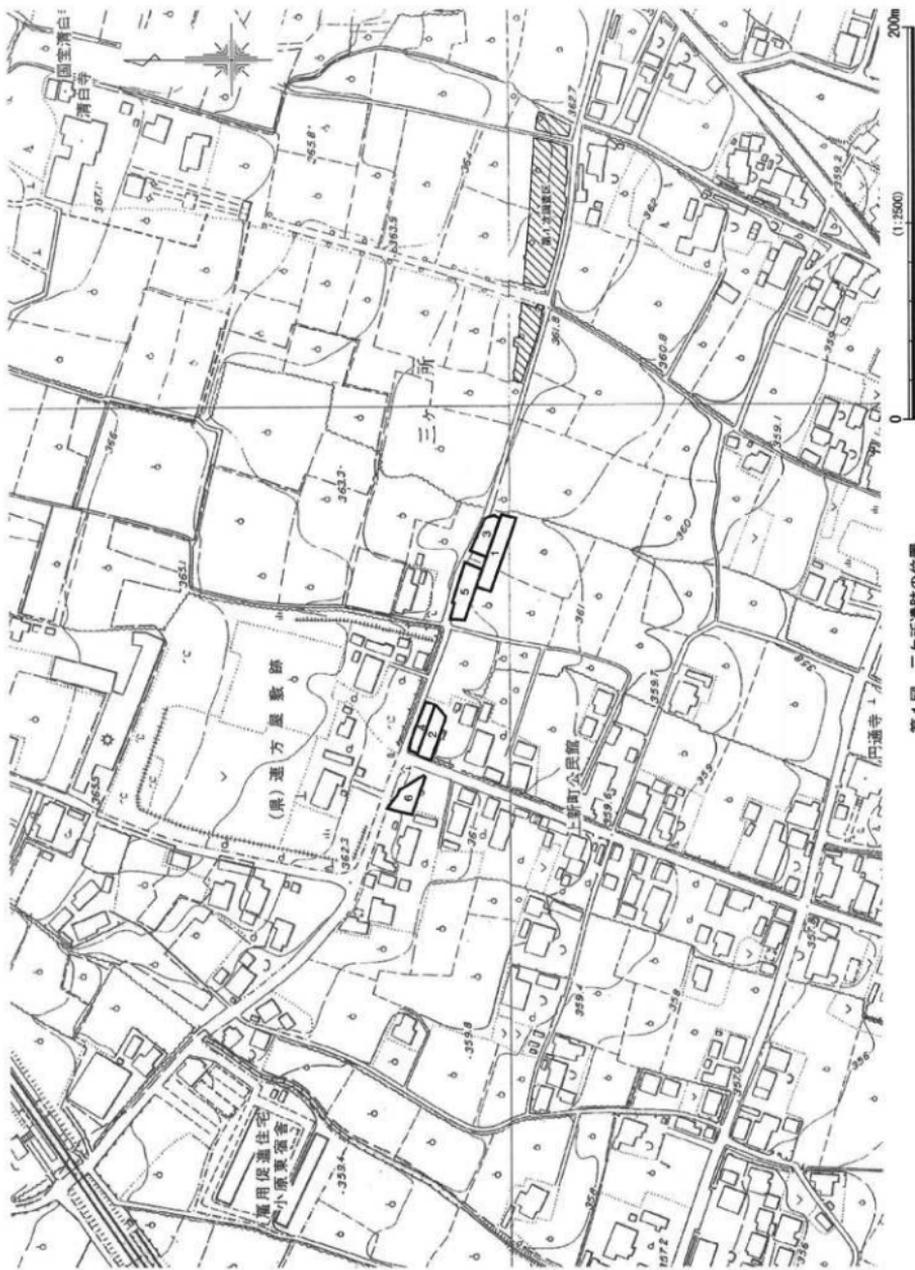
1月7日 1区遺構確認作業、6区表土掘削

1月8日 6区遺構確認作業、6区表土掘削

1月13日	1区遺構調査開始
1月14日	1区遺構調査
1月15日	1区遺構調査
1月18日	1区遺構調査
1月19日	1区遺構調査、2区遺構確認作業
1月20日	2区遺構調査開始
1月21日	1・2区遺構調査
1月22日	1・2区遺構調査
1月25日	1・2区写真測量、6区遺構調査・段階確認（遺構確認掘削厚）
1月26日	1・2・6区遺構調査
1月27日	6区遺構調査、2区埋め戻し
1月29日	6区遺構調査
2月1日	6区遺構調査・写真測量
2月16日	3区表土掘削・バリケード設置・段階確認（表土掘削厚）、6区遺構調査
2月17日	3区遺構確認作業
2月18日	3区遺構調査
2月19日	3区遺構調査
2月22日	3区遺構調査
2月23日	3区遺構調査、4区表土掘削・段階確認（表土掘削厚）
2月24日	3区遺構調査、4区遺構確認作業
2月25日	3・4区遺構調査
2月26日	3区写真測量、3・4区遺構調査
3月1日	4区遺構調査・写真測量
3月4日	5区表土掘削
3月5日	5区表土掘削・包含層掘削作業・段階確認（包含層掘削厚）、4区埋め戻し
3月6日	4区埋め戻し
3月8日	5区遺構調査
3月9日	5区遺構調査
3月10日	除雪作業
3月11日	5区遺構調査
3月12日	5区遺構調査・写真測量、発掘調査作業終了
3月15日	調査機材撤収作業
3月16日	残務整理・書類作成
3月17日	残務整理・書類作成
3月18日	5区埋め戻し、調査事務所撤去
3月19日	残務整理・書類作成
3月23日	残務整理・書類作成
3月24日	残務整理・書類作成
3月25日	完了届提出

### 第3節 調査の方法

山梨市より指示があった地点の調査区を設定の後、重機により表土を除去し、引続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係を判断した。



第1図 三ヶ所遺跡の位置

出土した遺物は、遺構内のものについては原則的にすべて、遺構外出土のものについても原位置が明らかでない遺物については光波測量機器を用いて個別に取り上げを行い、微細図が必要な場合には、デジタルカメラを用いた測量を実施した。

遺構図の作製は、光波測量機による測量と写真測量による成果を補完的に使用した。ポールによる写真測量もあわせて実施し、遺跡全体図の作成も行った。

現地における発掘調査は、1月5日より開始し、3月18日をもって終了した。

測量に用いた機器およびシステムは以下の通りである。

光波測量機器	TOPCON GPS-III
コンピュータ	Panasonic TOUGHBOOK
取り上げ・図化システム	Cubic 社製 遺構くん

重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように世界測地系平面直角座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。世界測地系第Ⅷ系のX = -34,170,000、Y = 18,270,000（北緯35度41分30秒、東経138度42分06秒）を基点（X = 0、Y = 0）とし、調査区内に5mメッシュのグリッドを設定した。

上記のように調査では光波測量機器を用いたため、1m単位でのグリッド表記とした。

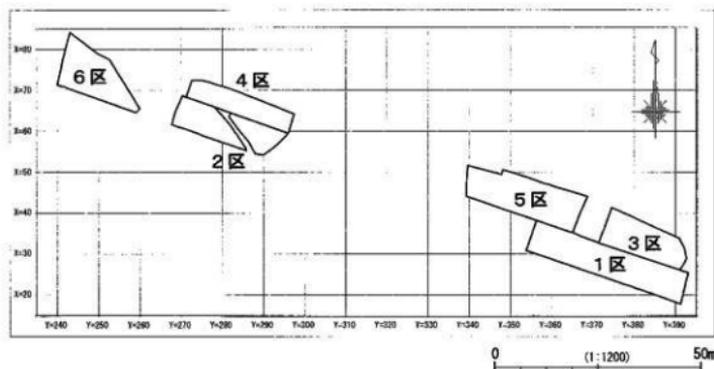
## 第4節 遺跡概要

本遺跡は、笛吹川左岸、ほぼ平坦な扇状地扇端部のJR中央線東山梨市駅東側に位置し、周辺にはブドウ畑が広がる。

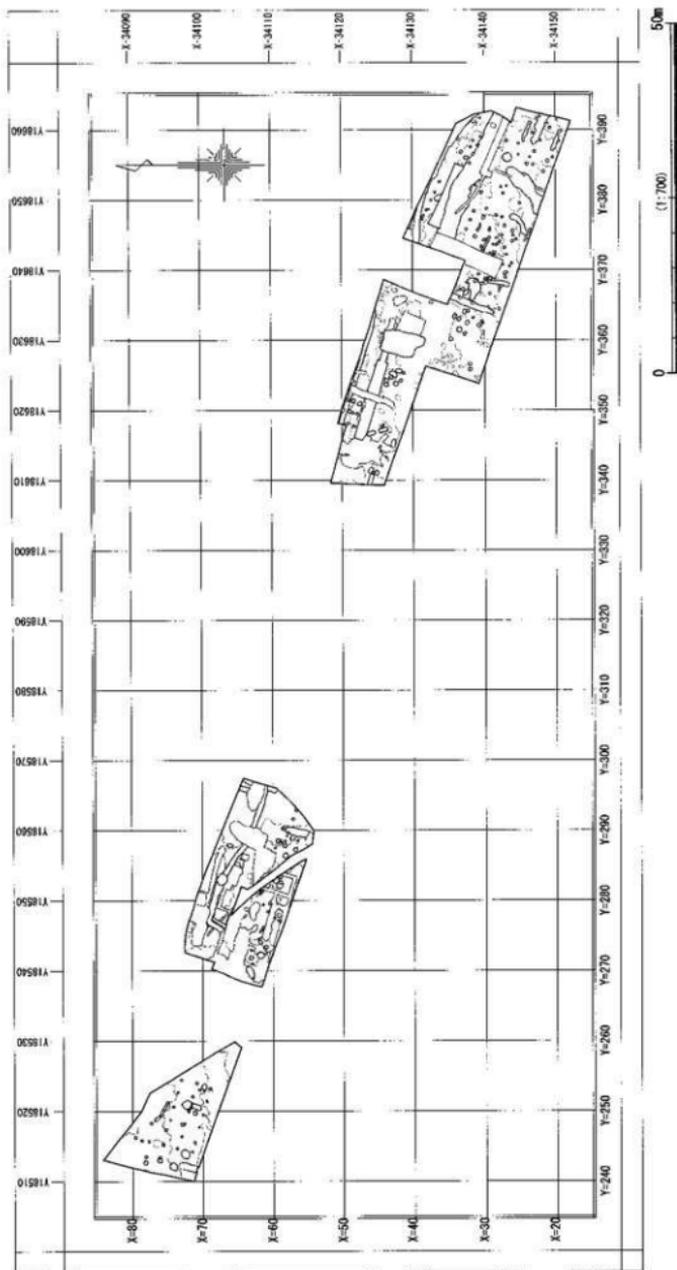
三ヶ所遺跡は、市の遺跡台帳には古代・中世の埋蔵文化財包蔵地として登録されており、径500mほどの広がりを持ち、遺跡内には中世の城館跡として県史跡に指定されている連方屋敷や国宝の仏殿をもつ清白寺も含まれる。

遺跡は、小原東東後屋敷線建設に先立ち、平成23年度末までに3次にわたる発掘調査が実施されている。平成20年に実施された第1次発掘調査は、清白寺参道付近の調査を行っているが、平安時代の竪穴住居4軒、掘立柱建物跡5棟、土坑42基、ピット106基、溝12条、池1基などが検出されている。溝のうち数条は並行して確認されたことから、道路状の遺構であろうと考えられている。

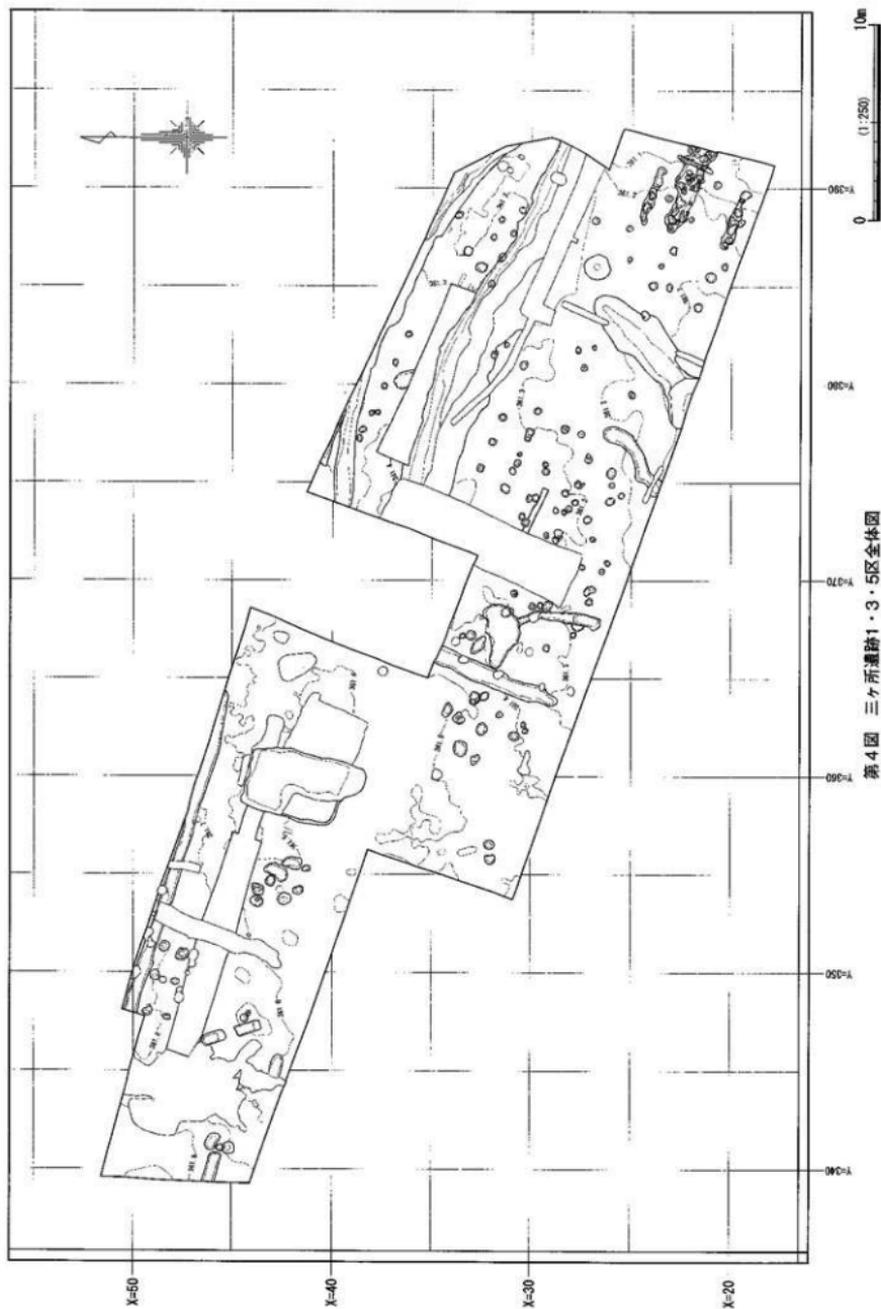
本報告の平成21年度の第2次発掘調査では、近世以降の掘立柱建物2棟、溝跡19条、土坑33基、ピット



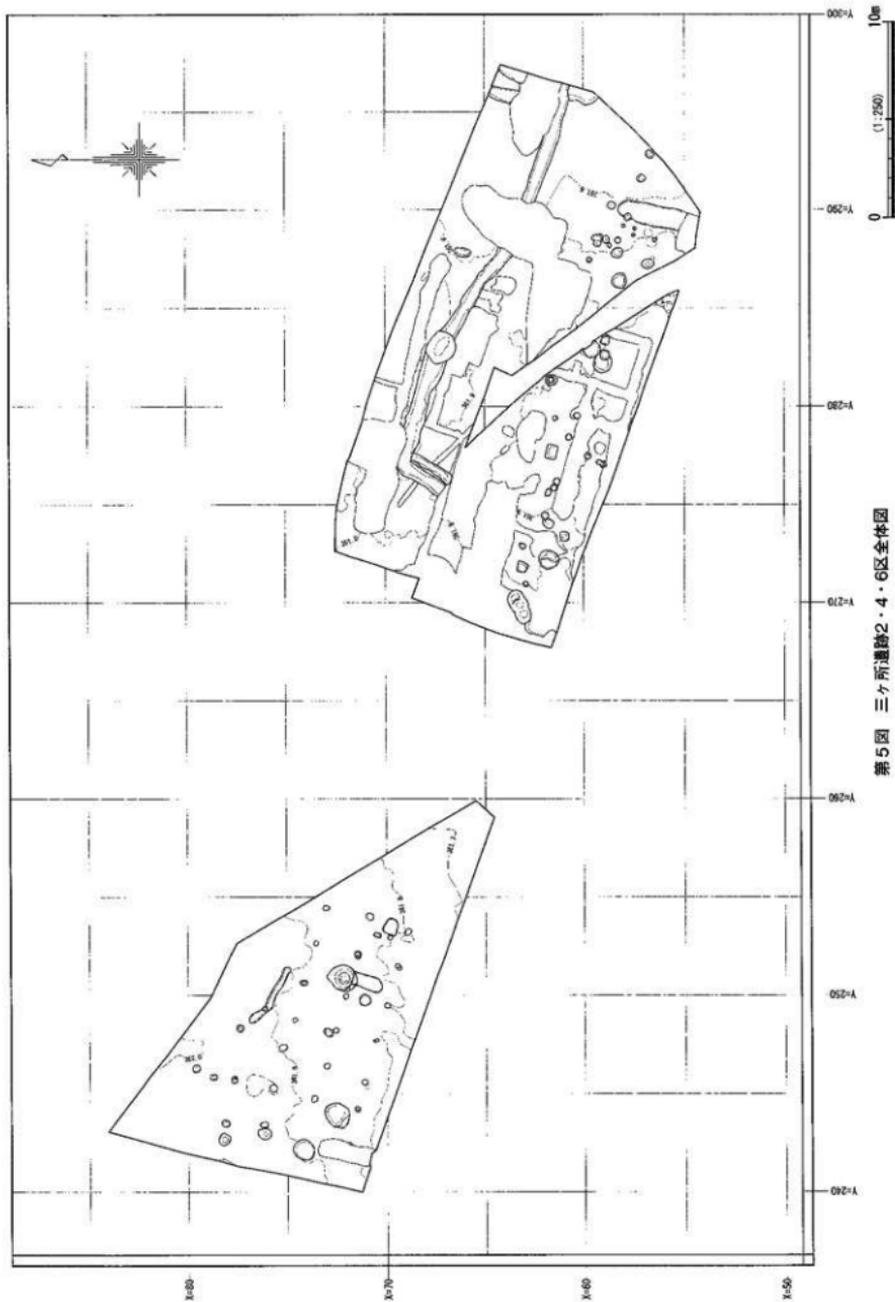
第2図 三ヶ所遺跡調査区配置図



第3図 三ヶ所遺跡全体図



第4図 三ヶ所遺跡1・3・5区全体図



第5図 三ヶ所遺跡2・4・6区全体図

ト 167 基、焼土遺構 1 基、不明遺構 2 基が発見された。第 1 次調査同様に並行する溝が確認されたことから、道路状遺構に伴う溝であると判断された。

第 3 次調査は、平成 22 年 8 月から 10 月にかけて第 1 次調査区の東側ならびに第 2 次調査区の西側の発掘調査を実施している。東側の調査区では、平安時代の竪穴住居 2 軒、掘立柱建物跡 5 棟などが発見された。竪穴住居は一辺 7 m ほどの大型住居で、柱穴底には礎板石をもつ。また、掘立柱建物のうち 2 棟は、三間×四間の規模で南面に廂をもつもので、柱穴の規模も大きく径 1 m ほどもあった。出土遺物もほとんどなく、遺構の性格を断定することは出来なかったが、清山寺に近いことから、前身寺院または村落内寺院などの可能性も指摘されている（山梨市教育委員会 2010）。

現況道路は、「オミユキミチ」とも呼ばれ、八幡北の窪八幡神社の神輿が西広門田の熊野神社まで巡行されていたといい、この道を通っていたという。5 区北側には、「お神輿さんの休み石」「神輿石」などと呼ばれる細長い自然石が建てられていた。近世の村絵図にもこの石が横倒しの状態で描かれおり、「八幡宮腰掛石」と記されている。いつごろからこの場に建てられていたのか明らかではないが、神輿が休憩した場所だと伝えられている。

## 第 5 節 基本層序

本遺跡は、扇状地上の緩斜面上に位置しており、表土から遺構確認面の深さは 0.2 m～0.5 m ほどであるが、地点によっては道路として碎石を敷設するなどして造成されており、0.7 m を超える地点もあった。

基本的には、耕作土直下の暗褐色土層が遺物包含層となり、赤褐色粒子・白色砂粒を含む褐色土層が遺構確認面となる。遺構確認面は、やや砂質の安定した土層であるが、地点によっては、礫を多量に包含する土層もみられた。

遺構内には、暗褐色土、黒褐色土などが堆積しており、遺構確認作業は比較的容易であった。



第 6 図 遺跡基本土層

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の地理的位置

山梨市は、山梨県のほぼ中央、甲府盆地の北東部に位置する。平成17年に東山梨郡牧丘町、三富村と合併し、現在の山梨市となる。北側は甲武信岳、崖坂峠などを境として埼玉県と接する。市域の北側は、山腹の傾斜地ならびに丘陵地帯となっているが、南側は、市域を南流する笛吹川および南側を流れる重川や日川によって形成された扇状地が広がっている。

本遺跡の所在する三ヶ所地区は、市域東端、笛吹川と重川に挟まれたほぼ平坦な複合扇状地扇端部に位置する。遺跡周辺は、水に恵まれなかった地域であるが、笛吹川を取水口とし、甲州市清水寺付近から甲州市との市境を南流する五箇村堰の開削によって、水田が営まれるようになったとされる。

昭和32年、市の農業構造改善計画によって、水田や桑園からモモやブドウを主体とする果樹栽培に転換が図られ、周辺は一大果樹地帯として知られるようになり、現在に至っている。

遺跡は、緩やかな南西傾斜の平坦地にあり、周辺にはブドウ畑が広がるが、一方、西側にJR中央線東山梨市駅があり、東側の甲州市域には商業施設が広く展開していることから、宅地化が進行している地域でもある。

### 第2節 遺跡の歴史的環境

市の遺跡分布図によると、三ヶ所遺跡の範囲は東西550m、南北500mの広範囲に及ぶ。遺跡内やその周辺には、山梨県史跡である遠方屋敷、同宝の仏殿をもつ清白寺、八日市場などが存在し、甲府盆地東部地域において中世以来重要な地として認識されてきたが、前代の古代においても重要な遺跡が分布する。

本遺跡の北西約1Kmのところには日下部遺跡がある(第7図42)。戦後間もない昭和24年、日下部中学校(現山梨北中学校)の校舎建設に伴って発掘調査が実施された。調査は、昭和48年まで5次にわたり行われ、竪穴住居28軒、倉庫1棟、溝4条などが発見され、古代集落遺跡の先駆的な調査例となった。竪穴住居からは、土師器・須恵器などの日常雑器とともに鈔帯(丸柄、鋭具、巡方)が出土しており、有力者が居住したことが考えられる。また、特殊遺物としてクルリ鉤が出土している。クルリ鉤は、倉庫などの扉に付けられた施錠装置をあける鍵であり、集落内に倉などが存在したことになり、鈔帯金具の出土とともに遺跡が拠点的な集落であったことがうかがえる(山梨市教育委員会1987)。

宮の前(旧七日子)遺跡は本遺跡から北へ2Kmのところにある(同24)。縄文時代中期から平安時代にかけての複合遺跡であるが、昭和22年から24年にかけて数度の調査が実施されている。平安時代の竪穴住居跡は4軒が調査され、土師器・土師器・土師、土師、金属製品では鎌・刀子などが出土している。その中で、カマド構築材に用いられたと思われる円筒形土製品が出土し、注される(山梨市教育委員会1987)。

宮ノ前遺跡の一角には、七日子廃寺が所在する。戦後間もなくまでは布日瓦が採集でき、礎石と思われる石も確認できたというが、現在は確認することが出来ない。山梨県埋蔵文化財センターによって、平成4年に試掘調査が実施されたが、寺院の痕跡を確認することは出来なかった。周辺に展開する集落の村落内寺院であった可能性も指摘されているが、詳細は明らかではない。

これらの遺跡を中心として、古代の加美郷が形成されていたと考えられる。

古代における遺跡周辺の土地利用の在り方については、地割にその一端をみる事が出来る。

市域の条里制について考察した中山誠二氏によれば、市域には軸線の異なる二つの条里地割が確認されるという(中山2005)。市域南部にみられる峽東条里と八幡地区に起源をもつ八幡条里である。

峽東条里は、地割の南北軸を東に約12度振るもので、甲府盆地東部地域に広くみられる条里プランで、市域では一町中、歌川、下栗原、上栗原など南東部地域に広くみられる。

一方、八幡条里は、地割の南北軸を東に24度振るプランで、下神内川、下石森、上石森、鴨居寺、三ヶ所、小原東、小原西、下井尻、七日市場、甲州市域の三日市場、上井尻、藤木などを含む地域で確認されている。

本遺跡周辺における両条里プランの接する地域は、清白寺東の小路辺りとなっており、調査によって発見された溝などからすれば、調査区は八幡条里に属していたことが考えられ、連方屋敷の南側を東西に走る道路ならびに南へ延びる道路もこの軸線上に乗っている。

本遺跡の範囲内にある連方屋敷は、四方に高さ2～3mの土塁と堀を巡らす不整形居館で、東西117～130m、南北120mの規模をもつ。北東隅の土塁が欠けており、鬼門除けの折郭だとする説もある。

この居館については、『甲斐国志』に「是モ古屋氏也今同族ノ者三人居之四圍ニ土手ヲ巡ラシ三四町歩ニ堺セリ里人今ニ連方屋敷ト呼 軍艦に蔵前衆ノ頭四人ノ内古屋道忠・同内匠・同文六郎モ同衆ナリ 起請文所載諸手同心古屋氏ノ者甚多シ 此辺ニ散在シテ同氏居址又少カラザレバ其党タルモ多カルベキナレドモ凡明提ナキトコトハ闕テ記セズ」とあり、国志編纂時に屋敷内に古屋氏が居住し、『甲陽軍鑑』にみえる「蔵前衆ノ頭四人」のうち二氏が古屋姓であることなどから、上記のような記述となっているものと思われる。

上野晴朗氏は、国志の記述に加え、八日市場の存在などから、「蔵前の庁所」と推定している。また、連方屋敷の由来については、八日市場名主文書の中に安田義定の九世安田孫左衛門射光泰が連峯入道と名乗り、足利尊氏に仕え、この屋敷に居住したため連峯屋敷と呼ばれたという記録があることを指摘している（上野1983）。

連方屋敷は、平成6年に敷地内の住宅建設に伴い南東隅の発掘調査を実施した。調査の結果、築石遺構に伴って常滑瓦、内耳土器などが出土している。

また、屋敷内北側の土地の寄贈を受けた山梨市では、教育委員会が、平成16年から継続的に整備を目的とした発掘調査を実施している。屋敷のほぼ中央において、掘立柱建物1棟、礎石建物2棟などの一部が発見された。建物跡と同じ確認面から13世紀中頃の高麗青磁梅瓶、中国竜泉窯青磁蓮弁文碗などが出土している。また、かわらけ類は14世紀中頃から15世紀前半に比定されるものである。また、屋敷南側からは近世の陶磁器類が出土している（三澤2007）。

以上のことから、屋敷は14世紀中頃に築造されたものの、15世紀後半から16世紀代には使用の痕跡を確認することが出来ず、近世になって以降、再び使用されたことが想定される。現状では、上野氏が想定した武田時代の庁所説は成立し難い状況となっているが、屋敷の性格を決定づけるには至っていない。

数野雅彦氏は、上記の発掘調査成果を踏まえ、連方屋敷を清白寺と密接な関係を築いた権力者の館であると、甲斐守護武田信武やその系譜に連なる信成・信春・信満クラスの人物をあてると、とくに信武は足利尊氏の信任が厚かったことからその可能性が高いものと指摘した（数野2007）。

屋敷の南のほぼ中央から下新町の交差点まで南に向かって一直線に道路が延びており、その両脇には町割り地形を遺している。数野氏はこの地割について、近世以降に一般的にみられる短冊形地割ではなく、正方形に近い地割がみられることから、短冊形地割が一般化する以前に設けられた地割を継承しているものと理解している。

遺跡の東寄りに位置する清白寺は、臨濟宗妙心寺派の寺院である。甲斐国志や寺伝によれば、正慶2（1333）年または観応2（1351）年の創建とされ、足利尊氏を開基、夢窓国師を開山とするが、実際の開山は二世清溪通徹であった。

天和2（1682）年に火災があり、本堂、庫裏などを焼失したが、仏殿は難を逃れている。国宝の仏殿は、大正6年の解体修理の際発見された墨書銘により、応永22（1415）年に再興されたことが明らかとなっている。仏殿は、千手観音を祀ることから観音堂とも称され、唐様建築の典型と言われ、石積基礎をもち桁行3間、梁間3間、一重もこし付入母屋造り、檜皮葺の小規模仏殿の代表とされている。

本遺跡の西側には、青梅街道と秩父往還とが合流する地点があり、八日市場の地名が残る。原八日市場とも呼ばれ、3と8のつく日に市が開催されたという。

八日市場の起源については明らかではないが、天正10（1582）年武田氏が滅亡すると、甲斐は徳川氏の所領となり、武田の遺臣たちは徳川氏に重用された。天正10年から翌年にかけて手康によって発給された所領安堵状は多く、その中の天正10年発給の文書に、「甲州原八日市場七貫文・手作前給三貫文・諸役西之原拾貫文」などとみえ、八日市場の古屋基五兵衛に安堵していた（数野ほか1969）。

古屋氏とは連方屋敷の居住者であると推定され、市場と連方屋敷の関連を強く伺わせるものである。



第7図 遺跡の位置と周辺の遺跡

## 遺跡一覧(番号は第7図に対応)

No.	遺跡名	時代
1	三ヶ所遺跡	平安・中世
2	市川西遺跡	縄文
3	植田遺跡	縄文
4	市川東遺跡	縄文
5	神明前遺跡	平安
6	於北南遺跡	平安
7	江曾原遺跡	縄文・古墳
8	大塚遺跡	平安
9	橘詰裏遺跡	平安・中世
10	西片山遺跡	中世・近世
11	大久保遺跡	縄文・平安
12	丸山遺跡	縄文
13	東山遺跡	中世・近世
14	中下西移籍	平安
15	荒神山窟跡	平安・中世
16	中島遺跡	縄文・平安
17	下河原遺跡	中世・近世
18	兄川河床遺跡	旧石器
19	トコブケ遺跡	縄文・平安
20	森八幡神社家坊中群	中世
21	清水陣屋跡	近世
22	窟八幡神社	中世
23	下弥勒遺跡	縄文・平安
24	宮ノ前(七日子)遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
25	天神原北遺跡	縄文・平安
26	天神原南遺跡	平安
27	西ノ窪遺跡	縄文・平安
28	中沢遺跡	平安
29	十王堂遺跡	奈良・平安
30	阿弥陀堂遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
31	宮ノ西遺跡	古墳・中世
32	榊原盛経塚	中世・近世
33	神明遺跡	奈良・平安
34	御屋敷北遺跡	平安
35	御屋敷南遺跡	縄文・平安
36	天神原遺跡	平安
37	狐塚遺跡	平安
38	相畑北遺跡	古墳
39	相畑南遺跡	中世
40	戒沢遺跡	中世・近世
41	立石遺跡	縄文・奈良・平安
42	日下部遺跡	縄文・奈良・平安・中世
43	下ノ原遺跡	縄文
44	八王子遺跡	縄文
45	安田義定館跡	中世
46	人塚遺跡	奈良・平安
47	西久保遺跡	縄文・平安
48	安田義定館跡	中世
49	上之割八王子遺跡	平安
50	唐土遺跡	古墳・中世
51	三ヶ所榊木道跡	平安
52	寺の下遺跡	縄文

No.	遺跡名	時代
53	樋口遺跡	古墳・平安・中世
54	連方屋敷	中世
55	榊木遺跡	平安
56	雁行堤	近世
57	日下部病院前遺跡	古墳
58	平塚遺跡	平安
59	塚越遺跡	古墳・中世
60	平塚古墳	古墳
61	稲荷塚古墳	古墳
62	松原遺跡	中世
63	宮ノ上遺跡	平安
64	城伊庵屋敷跡	中世
65	上手原遺跡	縄文
66	浅間遺跡	平安・中世
67	吉原遺跡	平安
68	大橋遺跡	平安・中世
69	河野氏屋敷	中世・近世
70	新町東遺跡	縄文
71	原遺跡	古墳
72	ふじ塚古墳	古墳
73	武田金吾屋敷跡	中世
74	東後屋敷遺跡	縄文・奈良・平安
75	鍛冶屋久赤遺跡	古墳
76	榊木遺跡	古墳
77	榊木田遺跡	平安
78	市道遺跡	平安
79	杉ノ木遺跡	古墳
80	前田遺跡	平安
81	宗高北遺跡	平安
82	屋敷添遺跡	縄文・平安・中世
83	宮ノ前遺跡	平安
84	上石森塚越遺跡	平安・中世
85	上黒木道跡	奈良・平安・中世
86	堀ノ内遺跡	平安
87	金山林遺跡	古墳・平安
88	大野岩跡	中世
89	高畑遺跡	縄文・古墳・平安
90	天神前北遺跡	平安
91	天神前遺跡	縄文・平安
92	宗高西遺跡	古墳
93	宗高南遺跡	弥生・古墳
94	宗高東遺跡	縄文
95	雲林遺跡	古墳・平安
96	西桑遺跡	平安
97	北川海遺跡	平安
98	西田遺跡	縄文・平安
99	上沼遺跡	古墳・平安
100	大林北遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
101	東小路遺跡	縄文・平安
102	栗原氏屋敷跡	中世
103	中塚無名墳	古墳
104	大林南遺跡	平安

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物（第8図）

位置 X = 71, Y = 251 グリット

主軸 N - 74° - W

遺構概要 内側に2号掘立柱建物跡が隣接する。擾乱等によって削平されていた柱穴もあったが、東西3間、南北2間の建物である。柱間は1.8mを基本とするが、中央の柱間のみ2.1～2.2mほどとなる。残存する柱穴は掘り込みが浅く、0.1～0.25mほどである。

2号掘立柱建物とはやや軸を異にし、別の建物と判断した。

遺物出土状況（第8図） 柱穴内から土器、陶磁器類が数点出土しているが、小破片のため図示できるものはない。いずれも近代のものである。

時期 近代

#### 2号掘立柱建物（第9図）

位置 X = 73, Y = 244 グリット

主軸 N - 77° - W

遺構概要 1号掘立柱建物跡の西側に位置し、南西端の柱穴は擾乱によって削平されている。中央列の西側の柱穴は確認することが出来なかった。

東西2間、南北2間の建物と判断されるが、北列、南列の柱穴主軸がN - 77° - Wとなるのに対し中央列はN - 70° - Wとなり、東西の中央柱穴列のみ主軸を異にする。西側の柱穴が未確認のため断定はできないが、中央列東側の柱穴が本遺構のものではない可能性もある。柱穴の深さは、0.08～0.18mと残存状況は良好ではない。

遺物出土状況（第9図） 確認された8本の柱穴のうち、北西側の2つの柱穴より陶磁器、鉄製品、ガラス、基石などが出土している。

出土遺物（第32・33図） 第32図1～4は鉄釘、5は銅版を折り曲げ、皮革などの有機物を挟んだものと思われる。両端には釘を打ち込むために円孔が開けられており、片側には銅製の釘も遺る。第33図10は、石製の基石である。

時期 近代

### 第2節 土坑・ピット

本調査によって、33基の土坑と167基のピットが発見された。土坑とピットの区分は、径50cmほどを境界として大きいものを土坑、小さい円形を基調としたものをピットとした。ただし、プラン確認の段階で遺構名称を付しているため、完掘状況が当初予想した規模と異なるものもあり、調査結果をもって厳密に区分したものではない。個々の遺構データについては、第1表にまとめたのでそちらを参照されたい。

#### 土坑

##### 遺構の概要（第1表・第10～15図）

発見された33基の土坑は、各調査区内において散在的にみられる。

1号土坑は、径1.2mほどの円形を呈し、底部付近に偏平な礫を敷き詰めていた。また、礫は焼け焦げ、覆土中には炭化物が多くみられ、火を焚いた痕跡が認められた。出土遺物はまったく見られなかったため、時期、性格ともに不明である。

13号土坑からは、19世紀から近代にかけての陶磁器、ガラス、金属器などが90点ほど出土した。調査区内

には、昭和30年代半ばまで民家が建っていたということであり、廃棄処分されたものの可能性が高い。

#### 出土遺物 (第28・32・33図)

土坑からは様々な遺物が出土しており、その多くは近代に属するものである。

7号土坑出土遺物のうち、第28図1は瀬戸・美濃産の片口鉢、同2は肥前系碗で18・19世紀代のもの。同3は8号土坑出土の筒型碗で、19世紀代のものである。同4は12号土坑出土の鉢で近代の所産。

13号土坑からは90点ほどの遺物が出土しており、瀬戸・美濃産の陶器や肥前系の磁器が主体を占める(第28図5～12)。いずれも、19世紀から近代にかけてのものである。金属製品では、鉄板を折り曲げた製品(第32図6)、フォーク(同7)、環状鉄製品(同8)、棒状鉄製品(同9)、「昭和二十三年」銘の五十銭硬貨(第33図1)などが出土している。

15号土坑からは、30点ほどの陶磁器が出土しているが、近代のものが主体を占める。

#### ピット

##### 遺構の概要 (第1表・第15～22図)

発見された167基のピットは、土坑同様に全調査区に広がっている。ピット状の遺構のうち、調査区6区に位置するものが建物配置を示すような配列であったことから、掘立柱建物跡として報告している。

5区北西で発見された149～154号ピットは、東西に約1.8m間隔で3基が、南北は約0.9m間隔で2列の配置となる。北側は調査区外になり、建物と断定するには至らず、ピット群として調査した。時期は不明である。

遺物を出土した遺構は少ないが、その中において93号ピットは径0.58mほどの円形を呈し、覆土中より、陶磁器類、鉄製品などが15点ほど出土している。陶器は瀬戸・美濃、京・信楽産、磁器は肥前系のもので、18～19世紀代に比定されるものである。

##### 出土遺物 (第28・29・32・33図)

93号ピット出土遺物には、瀬戸・美濃産の陶器碗で、17世紀代に比定されるもの(第28図25)、肥前系の磁器筒型碗で、19世紀に比定されるもの(第29図1・2)などが出土している。金属製品では、環状鉄製品(第32図19)、板状鉄製品(同18・20・21)などがある。

## 第3節 焼土遺構 (第22図)

### 1号焼土遺構 (第22図)

位置 X = 61、Y = 277 グリット

主軸 N - 86° - E

遺構概要 東側に94～96号ピット、西側に97～99号ピットが隣接する。

長径0.73m、短径0.53m、深さ0.03mの不整隅丸方形を呈する。覆土中に焼土の堆積がみられたことから、掘り窪めたあと、火を焚いたものと考えられる。

出土遺物はなく、性格不明である。

時期 不明

## 第4節 溝跡

### 1号溝 (第23図)

位置 X = 20、Y = 387 グリット

主軸 N - 67° - W

遺構概要 北側には2号溝が隣接する。

長さ3.21m、幅0.5m、深さ0.13mほどを測る。溝底部には掘り起こされたような痕跡が多数みられ、耕作による掘り込みの可能性も残る。

遺物出土状況(第23図) 鉄製品が1点出土しているのみである。

出土遺物(第32図) 第32図23は鉄釘である。

時期 不明

#### 2号溝(第23図)

位置 X = 22, Y = 390 グリット

主軸 N - 68° - W

遺構概要 南側には1号溝、北側には3号溝が隣接する。

長さ4.58 m、幅1.07 m、深さ0.2 mほどを測る。1号溝同様に、溝底部には掘り起こされたような痕跡が多数みられ、耕作による掘り込みの可能性も残る。出土遺物はない。

時期 不明

#### 3号溝(第23図)

位置 X = 23, Y = 389 グリット

主軸 N - 70° - W

遺構概要 南側には2号溝が隣接する。

長さ3.1 m、幅0.41 m、深さ0.21 mを測る。1、2号溝同様に、溝底部には掘り起こされたような痕跡が多数みられ、耕作による掘り込みの可能性も残る。

遺物出土状況(第23図)

土師器と瓦質土器の小破片が2点出土しているのみである。

出土遺物(第29図) 第29図4は、土師質土器の底部小破片であるが、時期は不明。

時期 不明

#### 4号溝(第23図)

位置 X = 22, Y = 379 ~ X = 26, Y = 384 グリット

主軸 N - 48° - E

遺構概要 西側に5号溝が隣接する。東側で16号ピットと重複し、切られる。南側は調査区外へと延びる。

現在長7.05 m、幅1.33 ~ 2.79 m、深さ0.73 mを測る。南へ向かい徐々にその深さを増し、幅も広がる。

遺物出土状況(第23図) 土師器の小破片が1点出土しているのみで、図示できない。

時期 不明

#### 5号溝(第23図)

位置 X = 23, Y = 374 ~ X = 26, Y = 377 グリット

主軸 N - 55° - E

遺構概要 東側に4号溝が隣接する。南寄りで上層が擾乱を受け、南側は調査区外へと延びる。

現在長4.25 m、幅0.72 m、深さ0.19 mを測る。出土遺物はない。

時期 不明

#### 6号溝(第25図)

位置 X = 29, Y = 373 グリット

主軸 N - 64° - W

遺構概要 北側に45 ~ 48号ピットが隣接する。そのうち48号ピットと重複し、48号ピットを切る。西側は擾乱によって削平されている。

現在長2.45 m、幅0.3 m、深さ0.03 mを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。出土遺物はない。

時期 不明

7号溝 (第24図)

位置 X = 28, Y = 363 ~ X = 34, Y = 366 グリット

主軸 N - 22° - E

遺構概要 東側に1号不明遺構、10号土坑、西側に3号土坑、65号ピットが隣接する。北側は、調査区外に延びている。

現存長 6.65 m、幅 0.92 m、深さ 0.18 m を測る。

遺物出土状況 (第24図) 陶器碗の小破片が出土している。

出土遺物 (第29図) 第29図5は、瀬戸・美濃産の陶器碗である。17世紀代に比定できる。

時期 近世か

8号溝 (第24図)

位置 X = 26, Y = 367 ~ X = 30, Y = 367 グリット

主軸 N - 7° - E

遺構概要 東側に2号土坑、56・59・60号ピットが、西側に61号ピットが隣接する。南西で53号ピットと重複し、ピットを切る。北側では攪乱によって一部を掘削され、1号性格不明遺構に切られる。

現存長 4.2 m、幅 0.55 m、深さ 0.19 m を測る。溝は直線ではなくやや弧状になる。出土遺物はない。

時期 不明

9号溝 (第26図)

位置 X = 57, Y = 289 グリット

主軸 N - 13° - E

遺構概要 東側に77号ピット、北側に78号ピット、西側に79~83号ピットが位置する。そのうち、79号ピットとは重複し、ピットに切られる。南側は攪乱により削平されている。

現存長 3.28 m、幅 1.02 m、深さ 0.08 m を測る。出土遺物はない。

時期 不明

10号溝 (第24図)

位置 X = 74, Y = 251 ~ X = 76, Y = 248 グリット

主軸 N - 59° - W

遺構概要 北西に115号ピット、南側に1・2号掘立柱建物が隣接する。114号ピットと重複し、切られる。

長さ 3.45 m、幅 0.31 m、深さ 0.04 m を測る。

遺物出土状況 (第24図)

土器、瀬戸・美濃産の陶磁器が5点ほど出土しているが、いずれも小破片で近代のものが多数を占める。

出土遺物 (第29図) 第29図6は、土師質の焙烙である。

時期 近代

11号溝 (第24図)

位置 X = 71, Y = 250 グリット

主軸 N - 17° - E

遺構概要 西側に18号土坑が隣接する。北側に13号土坑と重複し、切られる。

現存長 1.35 m、幅 0.68 m、深さ 0.02 m ほどを測る。

遺物出土状況 (第24図) 陶磁器類が3点ほど出土している。

出土遺物 (第29図) 第29図7は、瀬戸・美濃産の陶器碗である。18世紀代に比定される。

時期 近世

#### 12号溝 (第25図)

位置 X = 35、Y = 374 ~ X = 28、Y = 392 グリット

主軸 N - 67° - W

遺構概要 北側に21・22号土坑、南側に1号土坑が隣接する。119・126・130～134号土坑と重複し、いずれにも切られる。西側は攪乱により削平され調査区外へ、東側も調査区外へと延びている。

現存長21.17 m、幅2.93 m、深さ0.4 mを測る。

北側に掘削されている13ないし14号溝とはほぼ並行しており、道の脇に掘られた側溝と考えることが出来るかもしれない。

遺物出土状況 (第25図) 土器、陶磁器類が40点ほど出土している。

出土遺物 (第29図) 第29図8～15は土師質の坏ないし皿であると思われる。16は鍋、17は火鉢か。18は土師質の播鉢。19は瀬戸・美濃産の磁器碗である。多くの遺物が近世であると思われるが、19は近代のものである。

時期 近世

#### 13号溝 (第25図)

位置 X = 40、Y = 375 ~ X = 37、Y = 382 グリット

主軸 N - 63° - W

遺構概要 南側には139～145号ピットが隣接する。溝上には121～124・127・146号ピットが掘られている。西側では14号溝と交差し、切られている。北側の立ち上がりならびに東側は調査区外へと延びている。

現存長19.2 m、現存幅0.45～1.29 m、深さ0.41 mを測る。東側では溝の掘り込みが深くなり、2段状の掘り込みとなる。

遺物出土状況 (第25図) 中近世の陶磁器類が3点ほど出土している。

出土遺物 (第29図) 出土遺物のうち、第29図20は、小破片ではあるが瀬戸・美濃産の天日茶碗の胴部破片で、16世紀代に比定されるものである。

時期 中～近世

#### 14号溝 (第25図)

位置 X = 39、Y = 373 ~ X = 37、Y = 382 グリット

主軸 N - 85° - W

遺構概要 南側に141～145号ピットが隣接する。東側で13号溝と交差し、切っている。東西とも調査区外へ延びている。

現存長9.35 m、幅0.85 m、深さ0.16 mを測る。溝内からは10～20 cm大の礫が多量に発見された。

遺物出土状況 (第25図) 土器、陶磁器類が6点ほど出土しているのみである。

出土遺物 (第29図) 第29図21は、土師質の坏、同22は瀬戸・美濃産の徳利で18世紀代に比定されるものである。

時期 近世

#### 15号溝 (第26図)

位置 X = 66、Y = 276 ~ X = 60、Y = 296 グリット

主軸 N - 66° - W

遺構概要 北側には23号土坑が隣接する。西側で並行する16号溝に切れ、東側で直交する17号溝を切る。また、中央付近で34号土坑と重複する。東側は調査区外へ延び、西側で直角に折れ、南下する。

現存長23.5 m、幅0.78 m、深さ0.25 mを測る。中央付近に34号土坑が掘られているが、土層観察からは切り合いの状況もなく、覆土にグライ土の堆積がみられたことから、同時に機能していたものと判断した。

遺物出土状況 (第26図) 土器、陶磁器類が50点余り出土している。

出土遺物 (第30・32図) 第30図1～5は、土師質の鍋。陶器碗には、瀬戸・美濃産と肥前系のものがある(同6～10)。磁器碗は肥前系のものである(同11～13)。同14は肥前系の皿。同15は京・信楽の碗、同16は肥前系の瓶である。いずれも17～18世紀の所産である。第32図24は鉄釘である。

時期 近世

#### 16号溝 (第26図)

位置 X = 66, Y = 275 グリット

主軸 N - 34° - E

遺構概要 15号溝の南北に主軸をとる部分と並行し、15号溝を切って掘削している。南北ともに攪乱を受け削平されているが、南側の攪乱は幅が狭く、それほど南側には延びていないようである。

現存長 3.0 m、幅 0.7 m、深さ 0.3 m を測る。

遺物出土状況 (第26図) 磁器の小破片がわずかに1点出土したのみである。

時期 近世以降

#### 17号溝 (第26図)

位置 X = 59, Y = 295 ~ X = 64, Y = 297 グリット

主軸 N - 24° - E

遺構概要 西に18号溝が並行して掘削されている。中ほどを攪乱によって大きく削平され、南側で直交する15号溝に切られる。溝東側の立ち上がりは調査区外にあたり、北側も調査区外へ延びている。

現存長 4.95 m、現存幅 0.28 m、深さ 0.29 m を測る。溝北側では、人頭大ほどの裸で隙間なく埋められていた。

出土遺物はない。

時期 近世以前

#### 18号溝 (第26図)

位置 X = 64, Y = 296 グリット

主軸 N - 17° - W

遺構概要 東側に17号溝が並行して掘削されている。北側は調査区外へ延び、南側は攪乱により削平されている。南側で東西に走る15号溝と重複していたかは不明。ただし、15号溝より南まで掘削はされていない。

現存長 1.35 m、幅 0.27 m、深さ 0.09 m を測る。

出土遺物はない。

時期 不明

#### 19号溝 (第24図)

位置 X = 55, Y = 289 ~ X = 58, Y = 290 グリット

主軸 N - 72° - W

遺構概要 南側に150・152・154号ピットが隣接する。5区北側に位置し、東西ともに調査区外へ延びている。

現存長 11.05 m、幅 0.68 m、深さ 0.09 m を測る。

遺物出土状況 (第25図) 磁器1点、鉄釘1点が出土したのみである。

出土遺物 (第32図) 第32図25は鉄釘である。

時期 不明

## 第5節 道路状遺構

### 1号道路状遺構(第25図)

位置 X = 37, Y = 356 ~ X = 29, Y = 392グリット

主軸 N - 68° - W

遺構概要 12号溝と13号溝ないし14号溝が幅3.5mほどをもって並行して掘削されており、その間に位置する平坦面を道路状遺構として調査した。前節で触れたとおり、13号溝からは16世紀代の遺物が出土し、近世の遺物を出土した14号溝によって切られている。12号溝からは近世の遺物が出土していることから、12・14号溝が対をなすものかもしれない。

ただし、調査範囲も限られていたことから、これら並行する溝のほかには調査区北側に溝が存在することも考えられ、ここでは可能性のみを指摘するに留めておく。

遺物出土状況(第25図) 12・14号溝に挟まれた平坦面からは、土器、陶磁器類が散在的にわずかながら出土している。

出土遺物(第30図) 第30図17・18は土師質土器、同19は瀬戸・美濃産の碗、同20は肥前系の皿、第32図26は板状鉄製品である。

時期 近世

## 第6節 性格不明遺構

### 1号性格不明遺構(第27図)

位置 X = 31, Y = 367グリット

主軸 N - 83° - W

遺構概要 西側には7号溝が隣接する。南側で8号溝と重複し、切っている。また、東側で58号ピットと重複し、切られる。

長径3.29m、短径1.8m、深さ0.1mを測る、不整形の掘り込みが確認された。

出土遺物もなく性格不明のため、性格不明遺構として調査した。

時期 不明

### 2号性格不明遺構(第27図)

位置 X = 42, Y = 359グリット

主軸 N - 15° - E

遺構概要 西側に31～33号土坑、160～164号ピットが隣接する。

長径5.85m、短径3.41m、深さ0.36mを測り、隅丸長方形に近いプランを呈するが、南西側はやや突出する。南西側の底部は長軸2.2m、短軸1.2mほど地山を掘り残し、一段高くなっている。

遺物出土状況(第27図) 土器、陶磁器類が10点ほど出土している。図示できたものは近世の所産であるが、小破片の多くは近代のものである。

出土遺物(第30図) 第30図21は瀬戸・美濃産の播鉢、同22は肥前系の磁器碗である。いずれも18世紀代に比定される。

時期 近代

## 第4章 まとめ

今回の発掘調査は、山梨県史跡である連方屋敷南側に接して東西に延びる道路の拡幅工事に伴うものであった。

連方屋敷の前面を調査対象地としており、屋敷に関連する遺構の発見も期待された。連方屋敷は、四方に土塁と堀をもった方形半郭の居館であり、土塁外側まで含めると、東西117～130m、南北120mの規模をもつ。南側と北側の土塁は並行しているが、西側土塁は5度、東側土塁は13.5度偏西しており、菱形のような平面プランとなる。土塁の外側に巡る堀は、北側と西側に残存しており、現状で5～6m、一部調査された堀底は、2～3mの幅をもつ。東側と南側は、水路として使用されており、現状では堀の痕跡を確認することは出来ない。

今回の調査では、屋敷南側において堀の痕跡が確認されることも期待されたが、なんら確認されなかった。屋敷に隣接して東西に敷設された道路は、生活道路でもあるため通行を遮断して調査を行うことが出来なかったために、調査の対象外とした。おそらく、南側の堀の立ち上がりは、道路下に存在するものと思われる。

また、屋敷前面の4・6区では、個人住宅が建てられており、昭和35年頃に火災にあったようである。特に4区では、火災に伴う建て替えや、今回の道路建設に伴う移転工事においても掘削がなされるなど、再三にわたり地下まで攪乱が及んでおり、調査状況は良好ではなかった。そのためか、中世段階の遺構・遺物を確認することは出来なかった。

しかし、4・6区において、中世段階に遡る遺物がまったくみられない状況からすれば、むしろ中世段階においては、土地利用されていない空間地であった可能性もあろう。

3区で発見された並行して掘削された12～14号溝は、湘荆年代の特定も出来ない状態ではあるが、13号溝から中世段階に遡る陶器片が出土しており、現況道路に先行する連方屋敷前面を貫く道路に関連した遺構であることも推察された。

本調査区の東側における第1次発掘調査においても、調査区西端で並行する溝跡が発見された。1号溝は、主軸をN-65°-Wにとり、幅0.9～1.9m、深さ0.3mを測る。覆土中には礫を多く含んでいた。2号溝は、主軸をN-71°-Wにとり、幅1m、深さ0.3mを測る。

本調査区で発見された12～14号溝は、主軸をそれぞれ、N-67°-W、N-63°-W、N-85°-Wにとる。

両調査区の溝は、主軸をほぼ同じくしているが、位置が異なるため同一の溝ではない。現況道路の主軸もN-70°-Wとなり、ほぼ同一である。溝の主軸にやや幅があるがこれらの溝は、南北の軸線を24度東に振る八幡糸目の軸線に沿っているものとしてよい。

第1次調査区の溝は中世段階の掘削とされており、13号溝からも16世紀代に遡る陶器片が出土していることから、中世段階の道にかかわる遺構であることも十分考えられる。屋敷内の発掘調査では、14世紀代の遺物はみられるものの、15、16世紀代の遺物が全くみられず、近世になって再度使用されたような状況を示している。この空白期を埋める資料として重要な意味をもつ可能性もある。

今後の調査の進展によって、この問題が明らかにされることを期待したい。

### 参考文献

- 上野晴剛 1983 『武田信玄 城と兵法』 新人物往來社
- 荻野三七彦・齋藤俊六 1969 『新編 平川古文書』 第3巻 角川書店
- 荻野雅彦 2005 『連方屋敷』 『山梨市史』 資料編 考古・古代・中世 山梨市
- 荻野雅彦 2007 『連方屋敷と上野氏屋敷』 『山梨市史』 通史編 上巻 山梨市
- 佐野勝広 1980 『甲斐の古瓦の様相』 『丘陵』 第8号 甲斐丘陵考古学研究会
- 中山誠二 2005 『高尾』 『山梨市史』 資料編 考古・古代・中世 山梨市
- 三澤達也 2007 『連方屋敷』 『山梨考古』 第106号 山梨県考古学協会
- 山下孝司 2007 『奈良・平安時代』 『山梨市史』 通史編 上巻 山梨市
- 山梨県教育委員会 1995 『山梨県古代官衙・寺院詳細分布調査報告書』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第106集
- 山梨市ほか 2010 『三ヶ所遺跡 一市道小原東東尾屋敷線改良に伴う発掘調査報告書一』 山梨市文化財調査報告書 第12集
- 山梨市教育委員会 1987 『山下部 日下部遺跡調査報告書 付 七日子遺跡 江物原遺跡』
- 山梨市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所 2010 『三ヶ所遺跡現地説明会資料』
- 山梨市史編さん委員会 2000 『山梨市史民俗調査報告書 一後屋敷の民俗一』

第1表 土坑一覧表

道標名	グリッド	形態	上層		下層		深さ	主軸	出土遺物	備考
			長径×短径	長径×短径	長径×短径	長径×短径				
1号土坑	20-385	平盤円	1.28×1.21	0.315×0.79	0.54					
2号土坑	29-388	平盤楕円	0.595×0.4	0.255×0.25	0.235	N-62°	→			8号溝を切る
3号土坑	32-383	平盤楕円	0.68×0.5	0.485×0.465	0.14	N-80°	→			6号土坑を切る
4号土坑	33-361	平盤円	0.75×0.68	0.62×0.5	0.1	N-61°	→			
5号土坑	58-286	平盤円	0.783×0.77	0.63×0.49	0.29	N-63°	→			
6号土坑	59-282	平盤円	[0.825×0.6]	[0.7×0.51]	0.3					12号土坑を切る
7号土坑	61-272	円	1.02×0.945	0.615×0.27	0.295			土葬1、陶器1、磁器1		
8号土坑	63-269	平盤円	[0.88×0.68]	0.385×0.29	0.63	N-7°	E	磁器1		9号土坑に切られる・11号土坑を切る
9号土坑	63-589	平盤円	0.78×0.77	0.41×0.35	0.36	N-71°	→	土葬2、陶器1、磁器3		8号土坑を切る
10号土坑	32-366	平盤楕円	1.09×0.56	0.825×0.51	0.185	N-51°	→			
11号土坑	63-270	平盤楕円	[0.82×0.576]	0.48×0.219	0.49	N-11°	→			8号土坑に切られる
12号土坑	58-282	平盤円	[0.96×0.95]	0.825×0.63	0.21			土葬3、陶器3、青銅1		6号土坑・11号土坑に切られる
13号土坑	72-250	平盤円	1.3×1.285	0.3×0.285	0.55			土葬7、陶器11、磁器38、鉄1、 銅高0.5、ガラス16、瓦8		36号土坑を切る
14号土坑	72-243	平盤楕円	1.34×1.18	0.81×0.773	0.21	N-27°	→	陶器2、磁器4、瓦2		
15号土坑	74-241	円	1.11×0.965	0.94×0.855	0.25	N 46°	→	土葬7、陶器5、磁器29、青銅1、 鉄1、ガラス2、瓦8		
16号土坑	76-242	平盤楕円	0.985×0.565	0.74×0.21	0.42	N 16°	E	土葬3、青銅2、磁器9、赤瓦1		
17号土坑	69-253	楕円方形	0.83×0.655	0.77×0.625	0.02	N-70°	→	磁器1		169号ピットに切られる
18号土坑	71-219	円	0.88×0.57	0.5×0.48	0.04			磁器3		
19号土坑	78-242	平盤円	0.585×0.545	0.275×0.355	0.285	N-63°	→	陶器2、磁器1、土葬2、ガラス1、 瓦4		
20号土坑	32-383	平盤円	0.6×0.405	0.36×0.3	0.23	N-22°	E	土葬1		
21号土坑	36-390	平盤楕円	[0.915×0.81]	[0.815×0.71]	0.09	N-18°	→			南平は横溝を受ける
22号土坑	32-383	平盤円	0.53×0.485	0.455×0.333	0.165	N-25°	→	磁器1		
23号土坑	65-287	楕円	0.82×0.465	0.755×0.585	0.06	N-14°	E	土葬4、磁器1		
24号土坑	45-399	長方形	1.36×0.69	1.485×0.39	0.93	N-72°	→			
25号土坑	46-341	平盤方形	0.605×0.545	0.39×0.25	0.19			赤瓦1		153号ピットを切る
26号土坑	18-341	平盤楕円	0.92×0.55	0.61×0.31	0.155	N-68°	→			
27号土坑	45-346	平盤楕円	1.205×0.565	0.73×0.395	0.23	N-16°	→			
28号土坑	44-347	平盤方形	1.085×0.548	0.885×0.41	0.57	N-16°	→			
29号土坑	42-344	平盤楕円	1.18×0.595	1.06×0.435	0.175	N 75°	→			西平は横溝を受ける
30号土坑	42-353	平盤円	0.965×0.615	0.45×0.22	0.145					
31号土坑	32-355	平盤円	[0.595×0.55]	0.45×0.395	0.095	N-11°	→			32号土坑に切られる
32号土坑	43-285	平盤楕円	0.835×0.675	0.68×0.48	0.105	N 47°	E			31号土坑を切る
33号土坑	42-355	平盤円	0.93×0.6	0.765×0.31	0.11	N 5°	E			
34号土坑	66-282	平盤楕円	1.73×1.72	1.085×0.48	0.71	N-56°	→			15号溝を切る
35号土坑	71-250	円	[0.96×0.24]	1×0.14	0.33					13号土坑に切られる・11号溝を切る

第2表 ピット一覧表

道標名	グリッド	形態	上層		下層		深さ	出土遺物	備考	
			長径×短径	長径×短径	長径×短径	長径×短径				
1号ピット	20-390	円	0.375×0.35	0.225×0.175	0.36					
2号ピット	23-299	円	0.39×0.335	0.18×0.17	0.235					
3号ピット	29-388	楕円	0.35×0.244	0.19×0.076	0.28					
4号ピット	27-384	円	0.355×0.335	0.185×0.175	0.345					
5号ピット	25-388	円	0.295×0.285	0.185×0.115	0.565					
6号ピット	22-385	平盤楕円	0.435×0.335	0.345×0.235	0.055					
7号ピット	20-386	円	0.345×0.305	0.215×0.175	0.29					
8号ピット	21-384	円	0.525×0.475	0.39×0.305	0.08					
9号ピット	25-379	円	0.25×-	0.139×0.13	0.108			20号ピットと重なり		42号ピットと重なり
10号ピット	28-372	楕円	0.34×0.266	0.218×0.115	0.13					
11号ピット	25-366	長楕円	0.305×0.21	0.14×0.115	0.05					
12号ピット	23-364	円	0.295×0.245	0.145×0.115	0.13					
13号ピット	23-385	円	0.435×0.425	0.365×0.285	0.075					
14号ピット	23-381	楕円	0.32×0.295	0.28×0.2	0.1					
15号ピット	21-383	円	0.445×0.395	0.38×0.3	0.06					
16号ピット	24-383	楕円	0.455×0.335	0.49×0.08	0.283					4号溝を切る
17号ピット	21-381	楕円	0.335×0.235	0.286×0.14	0.054					
18号ピット	26-381	楕円	0.25×0.19	0.175×0.085	0.06					
19号ピット	27-386	円	0.32×0.3	0.115×0.095	0.135					
20号ピット	24-379	円	0.305×-	0.115×0.11	0.095					9号ピットと重なり
21号ピット	29-378	円	0.375×0.345	0.24×0.23	0.14					
22号ピット	28-377	円	0.425×0.385	0.21×0.069	0.136					
23号ピット	27-377	円	0.33×0.32	0.095×0.07	0.21					
24号ピット	30-377	楕円方形	16.105×0.305	0.275×0.25	0.135					23号ピットに切られる
25号ピット	20-377	円	0.34×0.3	0.195×0.16	0.23					24号ピットを切る
26号ピット	27-376	平盤形	0.81×0.395	0.2×0.15	0.145					
27号ピット	25-375	楕円	0.595×0.325	0.325×0.285	0.15					
28号ピット	25-374	円	0.28×0.265	0.18×0.048	0.183					
29号ピット	26-374	楕円	0.48×0.365	0.23×0.225	0.113					
30号ピット	28-374	円	0.316×0.25	0.27×0.22	0.01					
31号ピット	30-375	楕円	0.23×0.195	0.125×0.11	0.095					
32号ピット	30-375	楕円	0.39×0.295	0.215×0.115	0.17					
33号ピット	20-375	楕円	0.386×0.28	0.415×0.31	0.086					
34号ピット	29-375	円	0.275×0.26	0.186×0.155	0.07					
35号ピット	29-375	円	0.385×0.335	0.235×0.185	0.215					
36号ピット	27-374	平盤形	0.415×0.35	0.265×0.105	0.15					

選種名	グリッド	形態	上端		下端		深さ	出土量	備考
			長径×短径	長径×短径	長径×短径	長径×短径			
37号ビート	27-374	円	0.375×0.34	0.35×0.226	0.08				
38号ビート	27-373	円	0.326×0.285	0.24×0.205	0.025				
39号ビート	28-373	円	0.345×0.325	0.13×0.14	0.17				
40号ビート	29-373	不整形円	0.275×0.205	0.185×0.135	0.06				
41号ビート	27-373	不整形円	0.42×0.375	0.323×0.299	0.115				
42号ビート	28-372	不整形円	0.495×0.365	0.245×0.22	0.22			10号ビートと交換	
43号ビート	29-372	楕円	0.31×0.275	0.133×0.118	0.125				
44号ビート	31-374	楕円	0.325×0.295	0.15×0.200	0.15				
45号ビート	30-374	楕円	0.395×0.27	0.25×0.152	0.08				
46号ビート	29-374	円	0.372×0.32	0.263×0.245	0.17				
47号ビート	30-373	楕円	0.345×0.276	0.21×0.165	0.11				
48号ビート	30-372	楕円方形	0.365×0.345	0.226×0.196	0.203			6号ビートと交換	
49号ビート	36-373	楕円	0.335×0.24	0.25×0.18	0.043				
50号ビート	26-372	不整形円	0.3×0.23	0.13×0.1	0.083				
51号ビート	27-370	円	0.29×0.268	0.185×0.165	0.09				
52号ビート	36-370	楕円	0.305×0.24	0.27×0.136	0.07				
53号ビート	27-367	円	0.49×0.325	0.335×0.265	0.05			※号標に切られる	
54号ビート	27-369	不整形円	0.445×0.425	0.245×0.195	0.04			36号ビートと交換	
55号ビート	27-368	不整形円	0.415×0.276	0.285×0.2	0.04			24号ビートと交換	
56号ビート	30-369	円	0.355×0.325	0.093×0.06	0.16				
58号ビート	31-368	円	0.525×0.465	0.395×0.335	0.07			1号生通線と交換	
59号ビート	29-368	不整形円	0.365×0.335	0.175×0.145	0.1				
60号ビート	29-368	不整形円	0.345×0.285	0.265×0.215	0.075				
61号ビート	27-367	円	0.295×0.265	0.235×0.165	0.03				
62号ビート	33-367	円	0.31×0.27	0.225×0.18	0.08				
63号ビート	33-367	円	0.505×0.475	0.32×0.27	0.135				
64号ビート	29-366	楕円方形	0.345×0.305	0.255×0.205	0.14				
66号ビート	33-364	楕円	0.635×0.395	0.435×0.305	0.035			3号土粒に切られる	
66号ビート	34-363	不整形円	0.725×0.45	0.445×0.31	0.136				
67号ビート	33-362	不整形円	0.545×0.485	0.185×0.113	0.18				
68号ビート	32-362	不整形円	0.655×0.625	0.503×0.205	0.11				
69号ビート	31-363	楕円方形	0.345×0.273	0.17×0.115	0.17				
70号ビート	30-362	楕円	0.65×0.435	0.315×0.235	0.12				
71号ビート	30-362	楕円	0.335×0.235	0.185×0.085	0.04				
72号ビート	30-362	不整形円	0.3×0.235	0.165×0.135	0.05				
73号ビート	30-360	不整形円	0.57×0.365	0.31×0.213	0.116				
74号ビート	32-356	楕円	0.53×0.435	0.365×0.235	0.160				
75号ビート	32-355	不整形円	0.525×0.45	0.415×0.295	0.115				
76号ビート	36-392	楕円	0.425×0.345	0.235×0.175	0.195			上層2、金具1	
77号ビート	37-291	円	0.405×0.365	0.295×0.23	0.16				
78号ビート	38-290	円	0.385×0.375	0.255×0.19	0.17				
79号ビート	37-289	円	0.4×0.355	0.275×0.21	0.095			上層1、中層1、中層2	
80号ビート	37-289	円	0.173×0.16	0.105×0.103	0.03			9号標を切る	
81号ビート	37-289	円	0.17×0.165	0.115×0.11	0.025				
82号ビート	37-288	円	0.16×0.155	0.095×0.09	0.035				
83号ビート	36-288	円	0.23×0.22	0.155×0.145	0.115				
84号ビート	36-288	円	0.39×0.37	0.225×0.193	0.11			85号ビートと交換	
85号ビート	36-288	楕円	0.24×0.42	0.375×0.29	0.165			84号ビートに切られる	
86号ビート	36-288	楕円	0.385×0.365	0.18×0.15	0.225				
87号ビート	36-288	楕円	0.285×0.195	0.195×0.11	0.09				
88号ビート	36-288	円	0.315×0.205	0.245×0.24	0.03				
89号ビート	36-287	不整形円	0.595×0.52	0.385×0.305	0.35			金具1、A1	
90号ビート	36-287	楕円	0.625×0.485	0.245×0.215	0.175			土層2	
91号ビート	36-287	円	0.395×0.295	0.235×0.115	0.075				
92号ビート	36-283	不整形円	0.515×0.415	0.44×0.31	0.1				
93号ビート	81-281	円	0.59×0.633	0.265×0.25	0.245			土層1、中層9、中層2、金具3	
94号ビート	61-279	不整形円	0.28×0.245	0.15×0.135	0.06				
95号ビート	60-279	円	0.335×0.305	0.275×0.25	0.065				
96号ビート	60-278	円	0.325×0.213	0.263×0.256	0.04				
97号ビート	61-276	円	0.395×0.343	0.3×0.265	0.06			98号ビートと交換	
98号ビート	61-275	円	0.345×0.31	0.295×0.225	0.015			97号ビートと交換	
99号ビート	61-275	不整形円	0.425×0.255	0.345×0.225	0.07				
100号ビート	61-274	不整形円	0.365×0.345	0.25×0.263	0.05			101号ビートと交換	
101号ビート	61-274	不整形円	0.495×0.46	0.385×0.215	0.325			100号ビートを切る	
102号ビート	63-272	不整形円	0.36×0.245	0.285×0.165	0.07				
103号ビート	62-271	不整形円	0.595×0.495	0.385×0.355	0.075			金具1	
104号ビート	60-270	楕円	0.27×0.265	0.21×0.12	0.034				
105号ビート	59-277	円	0.315×0.305	0.1×0.085	0.4				
106号ビート	59-277	円	0.26×0.225	0.14×0.08	0.24				
107号ビート	60-277	不整形円方形	0.345×0.335	0.135×0.115	0.215			107号ビートに切られる	
108号ビート	60-273	不整形円	0.63×0.605	0.34×0.218	0.115			106号ビートを切る	
109号ビート	60-252	楕円	0.295×0.22	0.195×0.143	0.02			17号土粒を切る	
110号ビート	76-253	楕円	0.36×0.215	0.295×0.133	0.033				
111号ビート	72-248	不整形円	0.513×0.365	0.41×0.235	0.099			中層3、ガラス1	
112号ビート	78-245	円	0.345×0.295	0.18×0.165	0.08			中層3	
113号ビート	79-246	円	0.385×0.375	0.285×0.205	0.215			中層1	
114号ビート	76-249	円	0.245×0.245	0.155×0.165	0.11			中層1	
115号ビート	77-245	円	0.355×0.33	0.233×0.168	0.083			ガラス1	
116号ビート	38-292	円	0.525×0.51	0.365×0.305	0.49				
117号ビート	77-243	円	0.39×0.318	0.233×0.195	0.17			土層1、中層2、中層3、水点1	
118号ビート	79-243	円	0.38×0.35	0.295×0.245	0.185			水点1	
119号ビート	29-388	円	0.315×0.295	0.263×0.195	0.04			13号標を切る	

通称名	グリッド	形態	上階		下階		高さ	出土量物	備考
			長径×短径	長径×短径	長径×短径	長径×短径			
120号ビレット	30-388	小楕円	0.325×0.305	0.216×0.16			0.105		
121号ビレット	33-389	不整形	0.435×0.35	0.295×0.2			0.165		13号溝を切る
122号ビレット	33-390	△	0.335×0.285	0.245×0.285			0.04		13号溝を切る
123号ビレット	34-389	楕円	0.365×0.295	0.2×0.165			0.13		13号溝を切る
124号ビレット	33-389	楕円	0.455×0.235	0.335×0.16			0.22		13号溝を切る
125号ビレット	31-388	不整形	0.315×0.275	0.15×0.155			0.05		
126号ビレット	36-387	楕円	0.395×0.27	0.255×0.165			0.05		
127号ビレット	24-388	円	0.325×0.325	0.175×0.145			0.2		12号溝を切る
128号ビレット	33-388	不整形楕円	0.455×0.345	0.26×0.195			0.135		13号溝を切る
129号ビレット	31-387	円	0.335×0.285	0.265×0.185			0.05		
130号ビレット	39-387	不整形楕円	0.325×0.25	0.185×0.135			0.09		
131号ビレット	31-386	△	0.365×0.335	0.155×0.145			0.14		12号溝を切る
132号ビレット	32-385	△	0.365×0.315	0.18×0.15			0.15		12号溝を切る
133号ビレット	31-382	円	0.275×0.24	0.165×0.135			0.06		
134号ビレット	31-381	不整形	0.395×0.295	0.185×0.135			0.155	試験1	12号溝を切る
135号ビレット	30-380	円	0.445×0.365	0.265×0.195			0.19		
136号ビレット	31-378	円	0.385×0.275	0.265×0.215			0.13		
137号ビレット	31-377	円	0.365×0.295	0.21×0.205			0.115		
138号ビレット	32-378	小楕円	0.37×0.325	0.195×0.185			0.17		
139号ビレット	36-382	円	0.325×0.29	0.235×0.175			0.06		
140号ビレット	36-381	不整形	0.39×0.305	0.265×0.13			0.06		
141号ビレット	37-379	△	0.335×0.285	0.2×0.195			0.9		
142号ビレット	38-378	不整形	0.315×0.265	0.185×0.145			0.1		
143号ビレット	37-378	円	0.25×0.215	0.175×0.155			0.07		
144号ビレット	38-377	小楕円	0.365×0.22	0.25×0.19			0.14		
145号ビレット	38-377	円	0.355×0.295	0.185×0.135			0.095		
146号ビレット	39-377	不整形	0.465×0.23	0.27×0.2			0.175		13号溝を切る
147号ビレット	△	△							
148号ビレット	33-386	円	0.475×0.425	0.465×0.38			0.06		
149号ビレット	46-347	不整形楕円	0.41×0.295	0.235×0.155			0.12		
150号ビレット	49-347	不整形	0.475×0.495	0.28×0.13			0.12		
151号ビレット	47-349	楕円	0.47×0.345	0.245×0.285			0.195		
152号ビレット	48-349	不整形	0.23×0.205	0.28×0.12			0.2		
153号ビレット	47-350	小楕円	0.61×0.585	0.3×0.195			0.236		
154号ビレット	46-351	不整形楕円	0.54×0.45	0.275×0.195			0.22	試験1	
155号ビレット	46-341	楕円	0.41×0.345	0.305×0.21			0.05		25号土板に切られる
156号ビレット	44-347	円	0.385×0.365	0.265×0.135			0.08		157号ビレットと接する
157号ビレット	44-347	不整形	0.27×0.22	0.085×0.065			0.08	試験1	156号ビレットと接する
158号ビレット	43-353	円	0.645×0.435	0.145×0.135			0.13		
159号ビレット	43-364	不整形	0.715×0.565	0.325×0.235			0.175		
160号ビレット	43-364	不整形楕円	0.555×0.455	0.44×0.345			0.12		
161号ビレット	41-344	不整形	0.52×0.385	0.325×0.21			0.245		
162号ビレット	41-355	小楕円	0.38×0.295	0.29×0.185			0.03		





第4表 出土遺物観察表(金属製品)

注( )は復元品、[ ]は現存品である。

遺物名	図録番号	種別	寸法			重量(g)	備考
			長さ・径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
2号銅立	32-1	鉄釘	[6.7]	0.4	0.4	[4.5]	
2号銅立	32-2	鉄釘	[4.1]	0.4	0.4	[2.3]	
2号銅立	32-3	棒状鉄製品	[2.9]	0.4	0.4	[1.7]	
2号銅立	32-4	棒状鉄製品	[2.1]	0.2	0.2	[0.5]	
2号銅立	32-5	小銅製品	1.6	4.1	1	5.4	
13号土坑	32-6	板状鉄製品	[4.4]	5.4	1	66.8	
13号土坑	32-7	ノブ	18	0.3	2	21.7	
13号土坑	32-8	棒状鉄製品	3.5	0.5	1.0	20.4	
13号土坑	32-9	棒状鉄製品	[7.6]	0.5	0.5	[3.1]	
15号土坑	32-10	板状鉄製品	[4.6]	1.4	0.2	[7.6]	
16号土坑	32-11	棒状鉄製品	[4.1]	0.4	0.4	[1.9]	
19号土坑	32-12	鉄釘	9.9	0.5	0.5	11.3	
19号土坑	32-13	鉄釘	7.7	0.4	0.4	4.8	
25号土坑	32-14	棒状鉄製品	[6.3]	0.6	0.6	[12.3]	
76号ピット	32-15	棒状鉄製品	[115]	0.5	0.5	[14.7]	
76号ピット	32-16	棒状鉄製品	[12.7]	0.5	0.5	[60.9]	
69号ピット	32-17	棒状鉄製品	9	1.2	1.2	31	
93号ピット	32-18	板状鉄製品	[5]	[3.6]	0.3	[16.5]	
93号ピット	32-19	棒状鉄製品	3	3	1	6.7	
93号ピット	32-20	板状鉄製品	[3.2]	[1.8]	0.3	[4.3]	
93号ピット	32-21	板状鉄製品	[2.8]	[1.2]	0.3	[6.5]	
109号ピット	32-22	純銀製り金具	1.5	1.2	0.3	0.3	
1号溝	32-23	鉄釘	[5.3]	0.3	0.3	[1.2]	
12号溝	32-24	鉄釘	[2.4]	0.5	0.5	[2.0]	
19号溝	32-25	鉄釘	[6.3]	0.5	0.5	[7.7]	
2号銅立遺構	32-26	板状鉄製品	[2.7]	[7.6]	1	[1.2]	
遺構外 69-269	32-27	板状鉄製品	16.2	0.5	0.5	[12.7]	
遺構外 45-345	32-28	棒状鉄製品	[6.1]	0.7	0.7	[3.4]	
遺構外 10-345	32-29	棒状鉄製品	[4.8]	0.5	0.5	[3.3]	
遺構外 47-345	32-30	棒状鉄製品	[4.8]	0.3	0.3	[2.8]	
遺構外 47-343	32-31	棒状鉄製品	[4]	0.5	0.5	[9.0]	
遺構外 71-249	32-32	棒状鉄製品	[24.5]	1.3	3	[100.0]	
遺構外 77-247	32-33	円筒状鉄製品	4.1	6.1	1.3	75.8	
13号土坑	33-1	銅鏡	6.8	9.8	0.2	2.7	
13号土坑	33-2	円筒状銅製品	(3.6)	(3.6)	0.2	[2.9]	
遺構外 74-241	33-3	銅鏡	2.3	2.3	0.2	4.1	玉1枚
遺構外 73-245	33-4	銅鏡	2.3	2.3	0.1	4.4	无銘文鏡
遺構外 46-345	33-5	金製製メダル	2	2	0.3	5.3	

第5表 出土遺物観察表(ガラス製品)

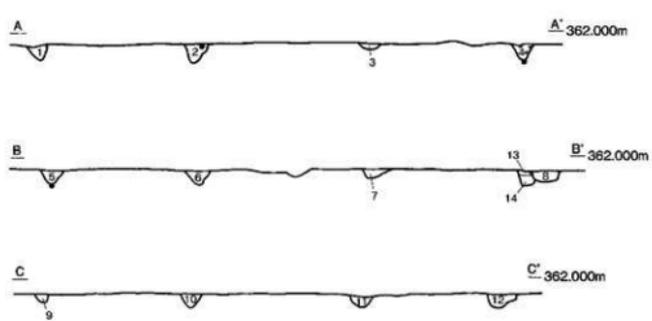
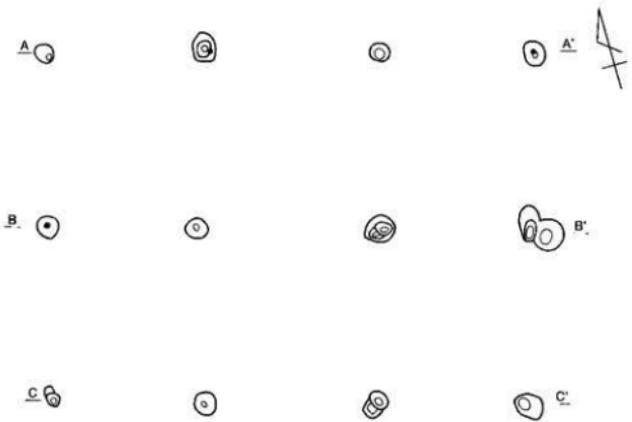
注( )は復元品、[ ]は現存品である。

遺物名	図録番号	種別	寸法(cm)			重量(g)	色調	備考
			口徑・蓋径	器高	底径			
15号土坑	33-6	瓶	1.8	6.6	3.2		琥珀色	
遺構外 79-248	33-7	瓶	1.3	6.0	1.9		琥珀色	
遺構外 76-252	33-8	おはじき	長2.0幅1.8			0.27	押成成形	山崎色
115号ピット	33-9	おはじき	長1.8幅1.7			0.41	押成成形	山崎色

第6表 出土遺物観察表(石製品)

注( )は復元品、[ ]は現存品である。

遺物名	図録番号	種別	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
2号銅立	33-10	斧心	粘土質	2.2	2.2	0.6	4.0	
117号ピット	33-11	水缶	水晶	[4.4]	2.2		[38.2]	
遺構外 49-344	33-12	石鏃	ろうご	[3.8]	0.9		[5.0]	灰白(S.278/2)
4号土坑	33-13	G片	輝石安山岩	[15.7]	[20.1]	8.5	[2200]	灰白(4/0)

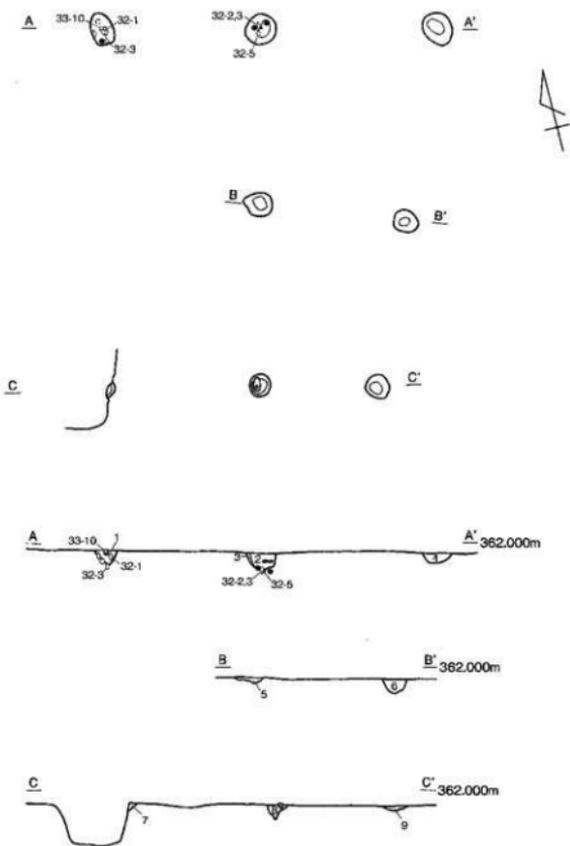


**1号掘立柱穴**

- |     |                |                               |
|-----|----------------|-------------------------------|
| 1層  | 黒褐色土層(10YR3/0) | 多量のカーボン、褐色土ブロックを含む5~2mm大の礫を含む |
| 2層  | 黒褐色土層(10YR3/0) | 少量のカーボン、褐色土層に5mm大の礫を多量に含む     |
| 3層  | 黒褐色土層(10YR2/0) | カーボン、3mm大の礫を多量に含む             |
| 4層  | 赤褐色土層(10YR2/0) | カーボンをわずかに、5~20mm大の礫を多量に含む     |
| 5層  | 赤褐色土層(10YR2/0) | 多くのカーボンおよび白色粒子、黒色土ブロックを多く含む   |
| 6層  | 黒褐色土層(10YR2/0) | 少量のカーボン、多くの黒色土ブロックを含む         |
| 7層  | 赤褐色土層(10YR3/0) | 少量のカーボン、黒褐色土層に多数の褐色土ブロックを含む   |
| 8層  | 黒褐色土層(10YR2/0) | 多量のカーボン、黒色土ブロックを含む            |
| 9層  | 黒褐色土層(10YR2/0) | 多くのカーボン、5mm大の礫を含む             |
| 10層 | 赤褐色土層(10YR2/0) | 多量のカーボン、黒色土ブロックを含む            |
| 11層 | 赤褐色土層(10YR3/0) | 多量のカーボンを含む                    |
| 12層 | 赤褐色土層(10YR2/0) | 少量のカーボンおよび多量の褐色土ブロックを含む       |
| 13層 | 黒褐色土層(10YR2/0) | 少量のカーボン、赤褐色土層を含む              |
| 14層 | 黒褐色土層(10YR2/0) | 褐色土ブロックを多く含む。L2942ない          |



第8図 1号掘立柱建物平面図

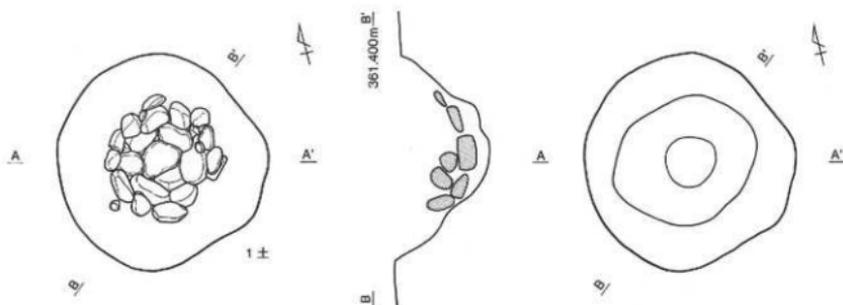


**2号掘立柱穴**

- 1層 赤褐色土層(10YR5/4) 多量のカーボンを含む
- 2層 赤褐色土層(10YR5/4) 白色粒をわずかに含む
- 3層 赤褐色土層(10YR5/3) 少量のカーボン粒及び磁土の塊を含む
- 4層 赤褐色土層(7.5YR5/3) 少量のカーボン、赤褐色粒を含む
- 5層 黄褐色土層(7.5YR5/4) 多量のカーボン、磁土の塊を含む
- 6層 赤褐色土層(10YR5/3) 少量のカーボン、褐色土の塊を含む
- 7層 赤褐色土層(10YR5/3) 多量のカーボン、白色粒を含む
- 8層 赤褐色土層(10YR5/3) 多量のカーボン、磁土の塊を少量含む
- 9層 赤褐色土層(10YR5/4) 少量のカーボン、赤褐色粒を含む

0 (1.60) 2m

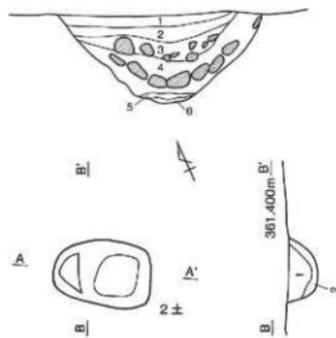
第9図 2号掘立柱建物平面図



1号土坑

- 1層 暗褐色土層(G5YR3/4) 少量のカーボン、褐色土の小アブロックを含む  
 2層 暗褐色土層(G5YR2/3) 多くのカーボン、褐色土の小アブロックを含む  
 3層 暗褐色土層(G5YR2/2) 10~2cm大の礫を多量に、褐色土のアブロックを少量含む  
 4層 黒色土層(G5YR1/1) カーボンを多量に含む

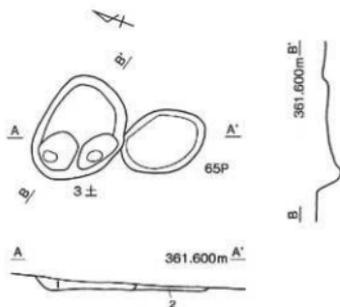
A 361.400m



2号土坑

- 1層 赤褐色土層(10YR3/3) 赤褐色粒子、白色粒子を多く含む  
 2層 赤褐色土層(G5YR3/4) 白色粒子をわずかに含む

A 361.400m

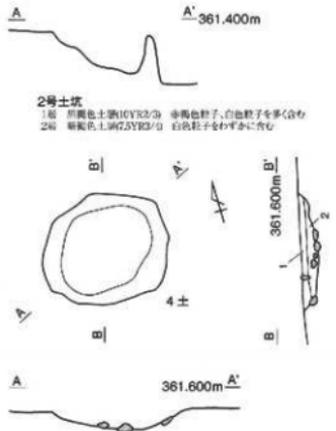


3号土坑

- 1層 赤褐色土層(G5YR3/4) わずかなカーボン、5mm大の小礫、赤褐色粒子を含む  
 65号ピット

- 1層 赤褐色土層(G5YR3/3) 褐色土アブロック、白色粒子を多く含む

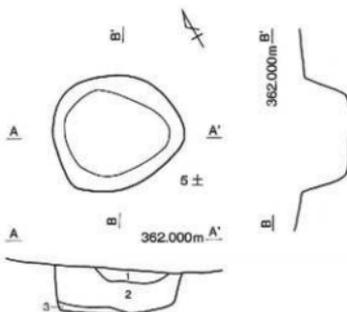
A 361.600m



4号土坑

- 1層 暗褐色土層(G5YR3/4) 多量の炭化屑、5mm以下の小礫を含む  
 2層 褐色土層(G5YR4/4) 5~2cm大の礫を多く含む

A 361.600m



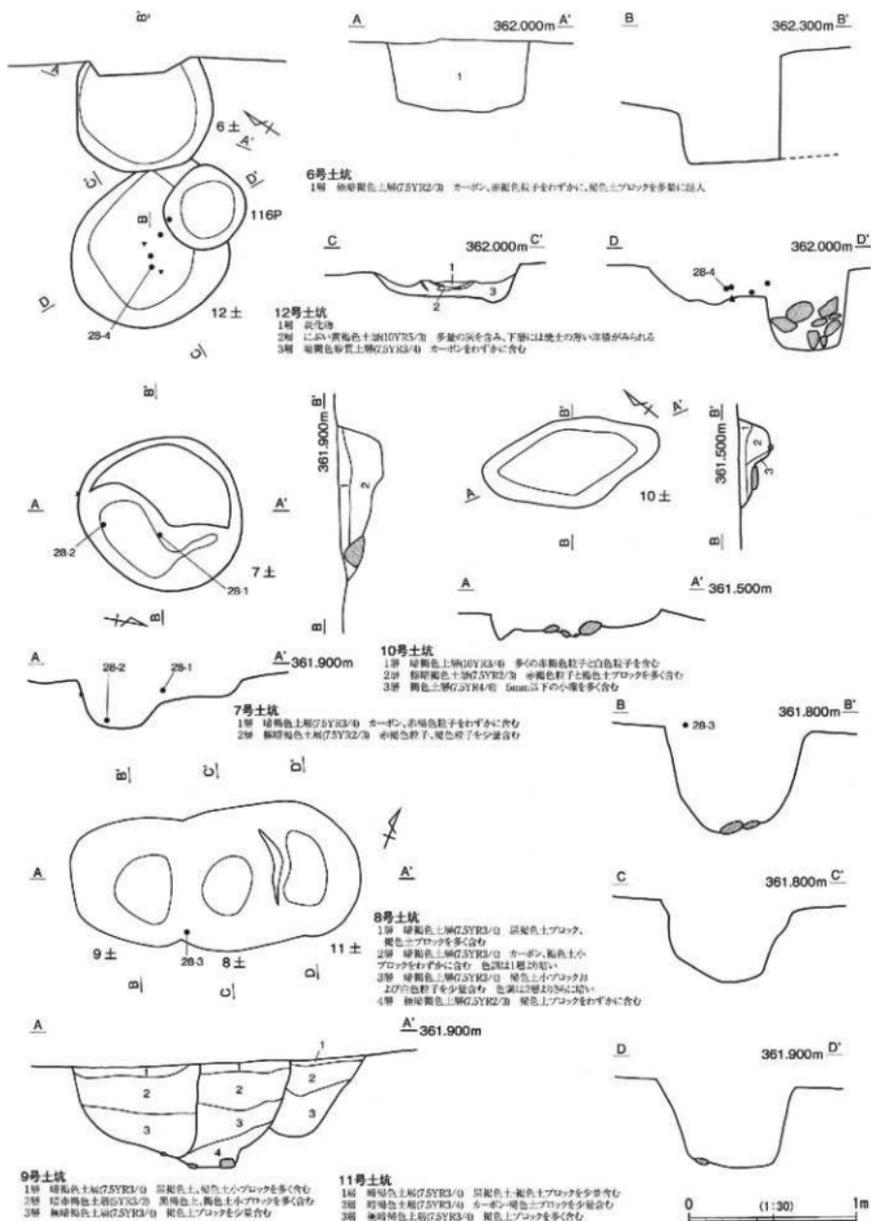
5号土坑

- 1層 赤褐色土層(G5YR2/2) 少量のカーボン、赤褐色粒子を含む  
 2層 暗褐色土層(G5YR2/3) 赤褐色粒子を多く含む 粘質土  
 3層 赤褐色土層(G5YR3/2) 黄色炭屑を多量に含む

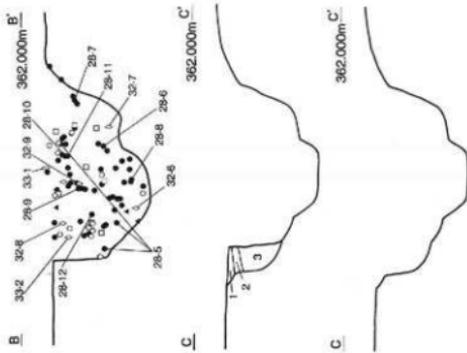
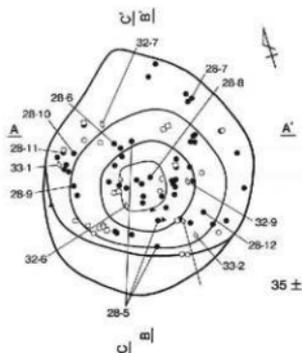
A 362.000m

0 (1:30) 1m

第10図 土坑平面図(1)



第11図 土坑平面図(2)

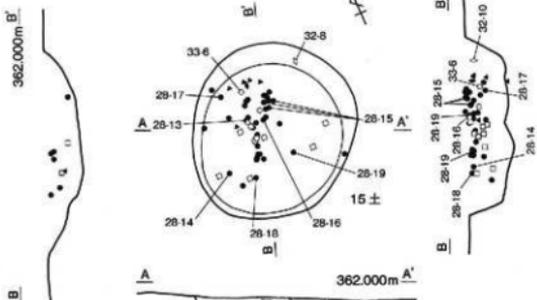
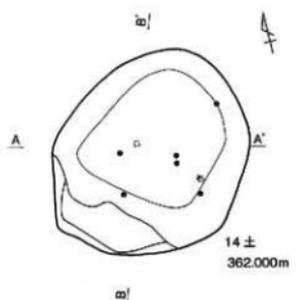
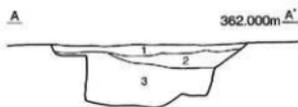


**13号土坑**

- 1層 黒褐色土層(10YR2/3) 多量のカーボン、褐色土ブロックを含む
- 2層 暗褐色土層(10YR3/4) 多量のカーボンを含む
- 3層 暗褐色土層(10YR3/3) 少量のカーボン、赤褐色粒子および多くの褐色土ブロックを含む

**35号土坑**

- 1層 暗褐色土層(7.5YR2/3) 多量のカーボン、白色粒子を含む
- 2層 暗褐色土層(7.5YR2/4) カーボンをわずかに含む
- 3層 暗褐色土層(10YR3/4) 多量のカーボン、褐色土ブロックを含む

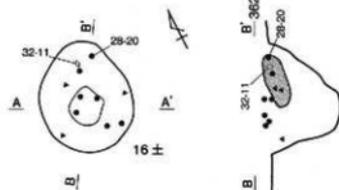


**14号土坑**

- 1層 黒褐色土層(10YR2/3) 多量のカーボン、褐色土ブロックを多く含む
- 2層 暗褐色土層(7.5YR2/4) 少量のカーボンを含む

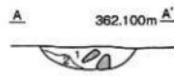
**15号土坑**

- 1層 黒褐色土層(10YR2/3) 少量のカーボン、褐色粒子を含む
- 2層 暗褐色土層(7.5YR2/3) 少量のカーボン、赤褐色粒子を含む



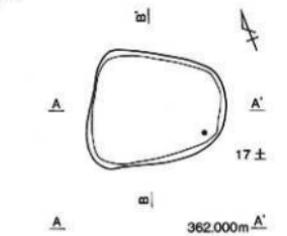
**16号土坑**

- 1層 黒褐色土層(10YR2/3) カーボン少量を含む
- 2層 暗褐色土層(10YR3/4) 白色粒子をわずかに含む



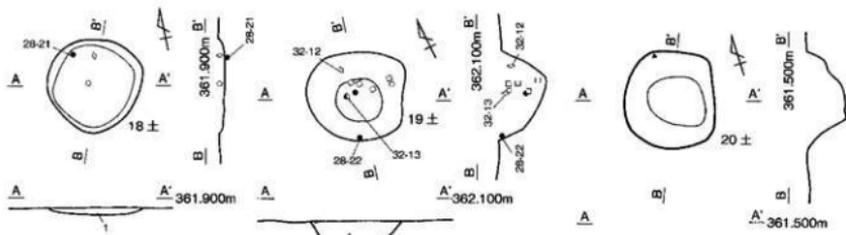
**17号土坑**

- 1層 黒褐色土層(10YR2/3) カーボン、赤褐色粒子、褐色土小ブロックを少量含む



0 (1:30) 1m

第12図 土坑平面図(3)



**18号土坑**

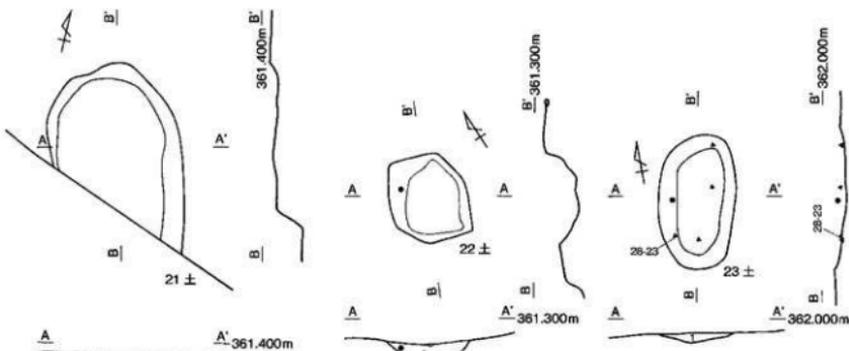
1層 暗褐色土層(SYR2/3) 少量のカーボン、  
1mm以下の鉄、褐色土ニアフックを含む

**19号土坑**

1層 暗褐色土層(SYR2/3)  
多くのカーボン、褐色土ニアフックを含む、155P

**20号土坑**

1層 暗褐色土層(SYR3/4)  
カーボン、赤褐色粘土、土内鉄を含む



**21号土坑**

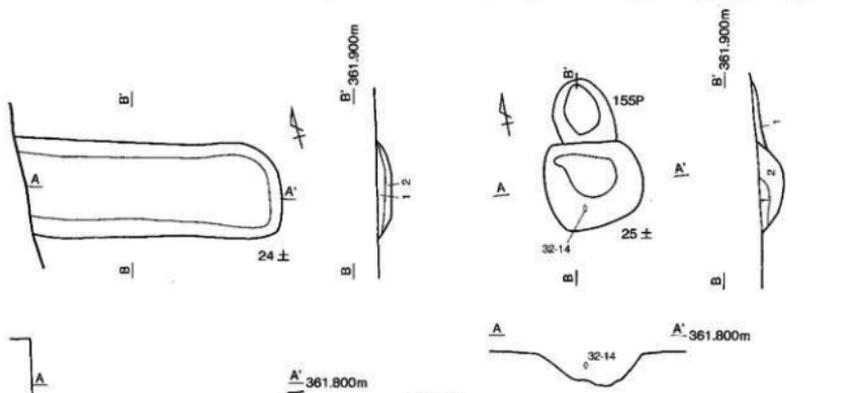
1層 灰褐色土層(SYR3/4)  
カーボン、赤褐色粘土を多く含む やや砂質である

**22号土坑**

1層 暗褐色土層(SYR3/4)  
多量のカーボン、褐色土ニアフック、5mm次の小礫を含む

**23号土坑**

1層 暗褐色土層(SYR3/4)  
少量のカーボン、多量の褐色土ニアフックを含む



**24号土坑**

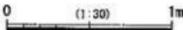
1層 暗褐色土層(SYR3/4) 多くのカーボン、褐色土ニアフックを含む

**25号土坑**

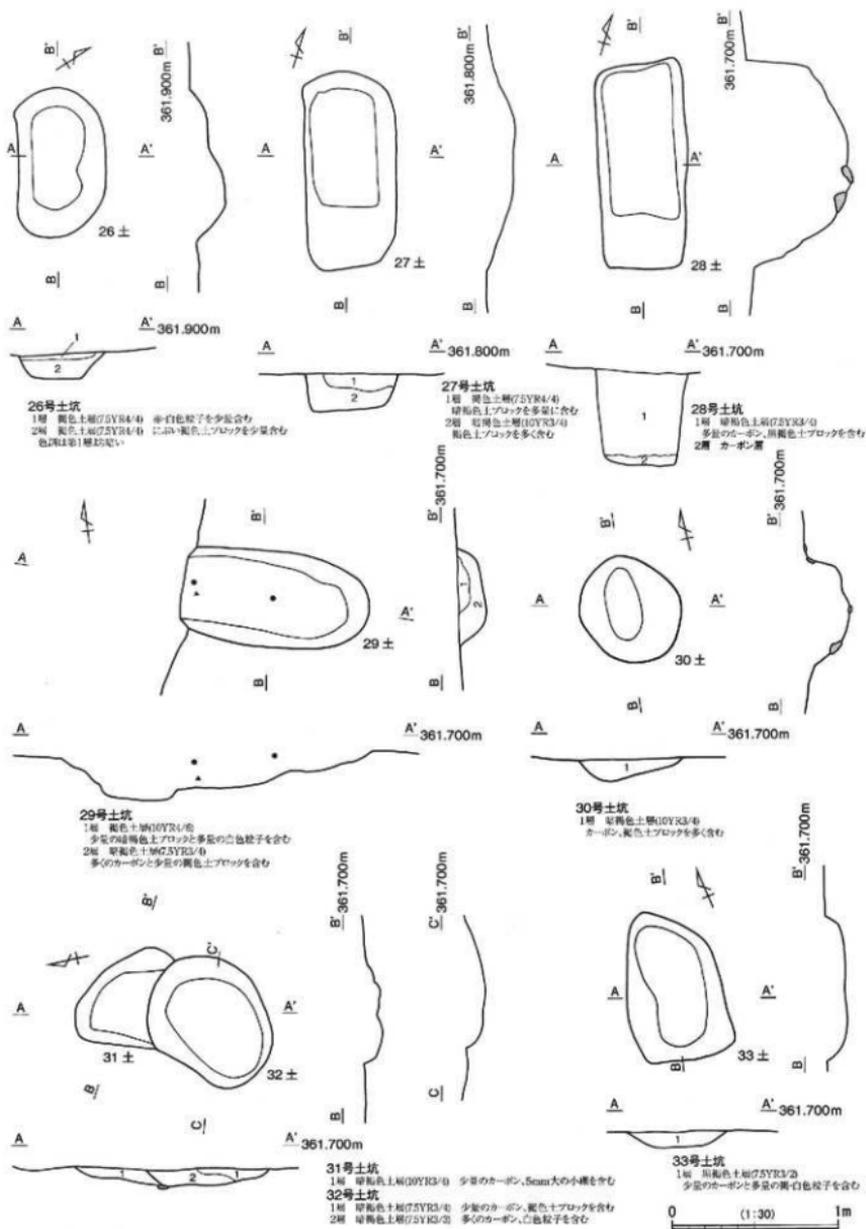
1層 褐色土層(SYR4/1) に多い黄褐色砂質ニアフックを多く含む  
2層 暗褐色土層(SYR3/4) 赤褐色粘土を多く含む

**155号ピット**

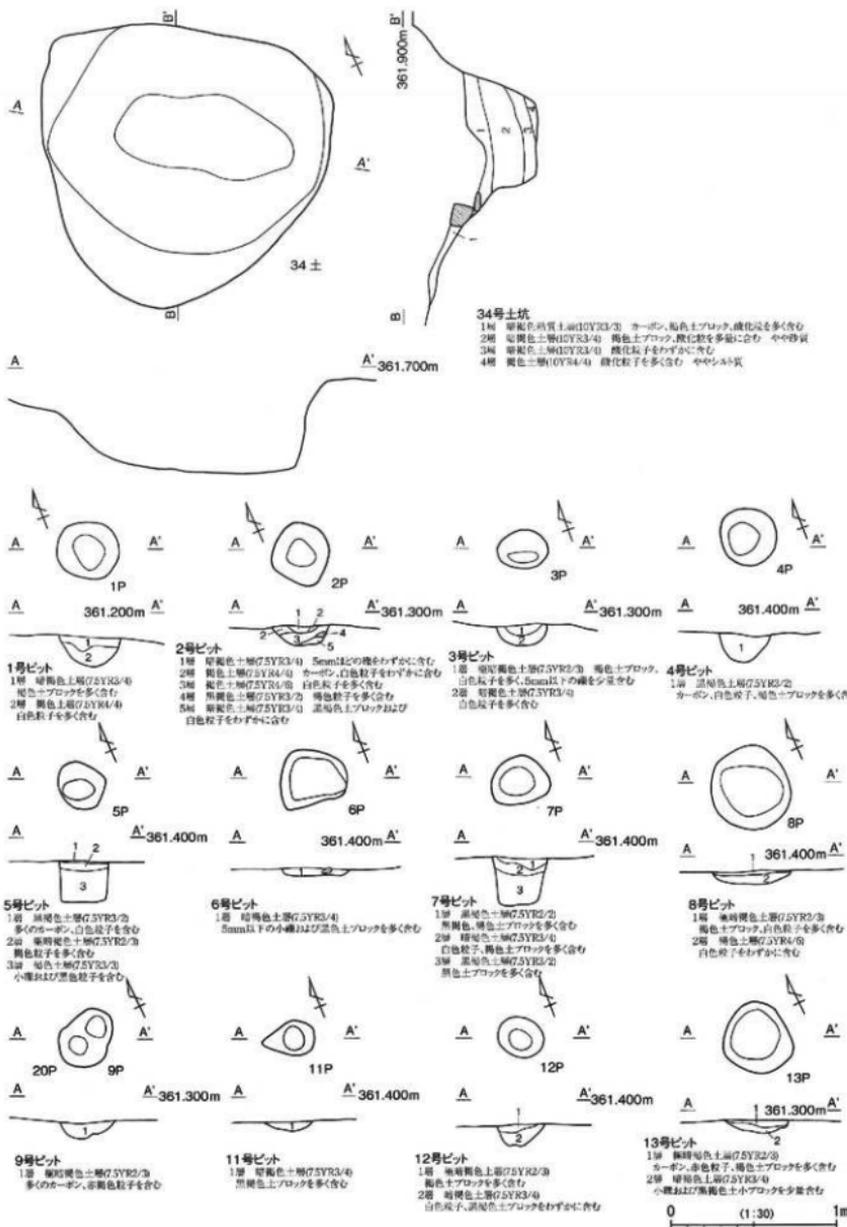
1層 灰赤、土層(SYR4/4) 多くの赤、白色粘土を含む



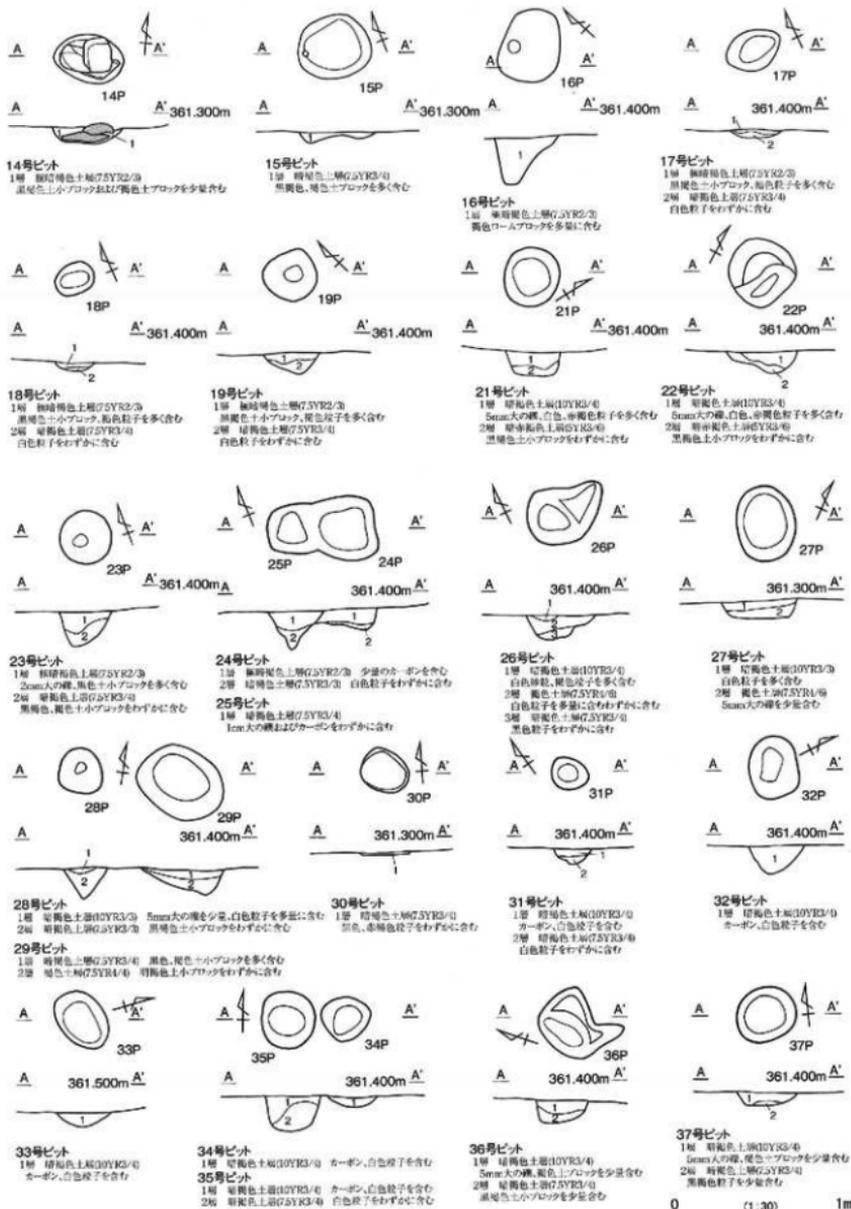
第13図 土坑平面図(4)



第14図 土坑平面図(5)

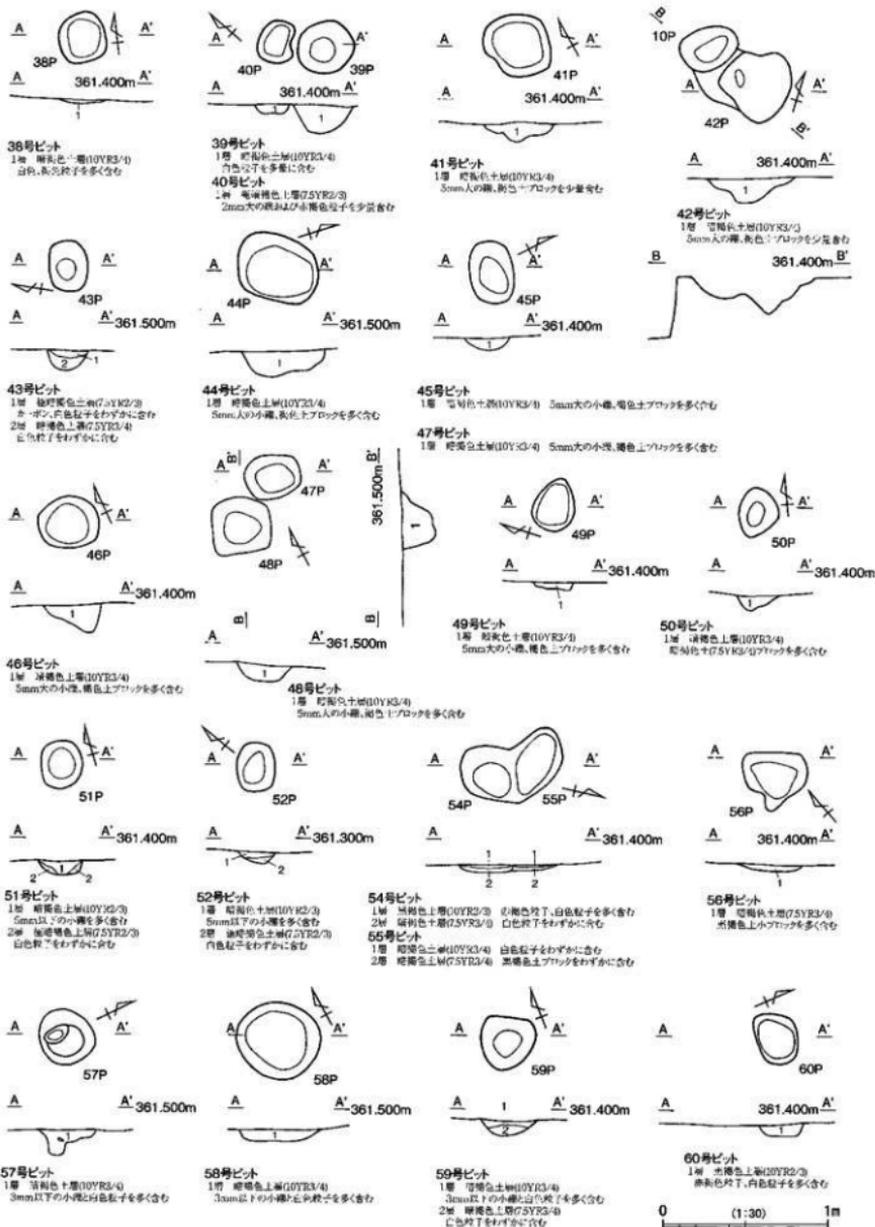


第15図 土坑平面図(6)・ピット平面図(1)

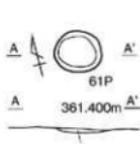


第16図 ビット平面図(2)

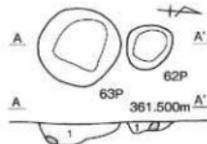




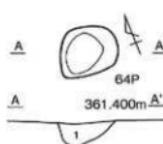
第17図 ビット平面図(3)



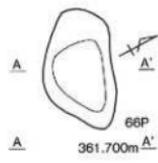
61号ビット  
1層 紫褐色土層(GYR3/4)  
3cm以上の小礫と白色粒子を多く含む



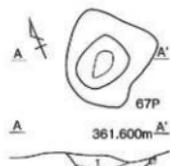
62号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3/4)  
5cm以上の礫とカーボンを含む



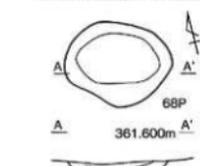
64号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/3)  
白色粒子を多量に含む



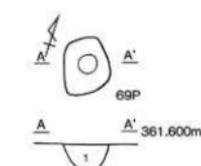
66号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/3)  
カーボン、2cm以上の小礫を多く含む



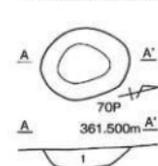
67号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/4)  
3cm以上の小礫を多量に含む  
2層 褐色土層(GYR4/4)  
白色粒子を多く含む



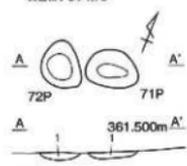
68号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/4)  
3cm以上の小礫、褐色土層を多量に含む  
2層 黒褐色土層(GYR3/2)  
褐色土小ブロックを少量含む



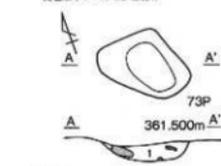
69号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
褐色土ブロックを多く含む



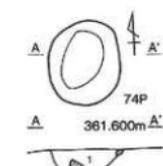
70号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/4)  
わずかなカーボン、多くの褐色土ブロックを含む



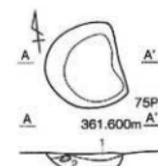
71号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
3cm以上の小礫、褐色土層を多く含む  
2層 暗褐色土層(GYR2/3)  
3cm以上の小礫、褐色土層を多く含む



73号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/4)  
5cm~1cm以上の礫を少量、褐色土ブロックを多く含む



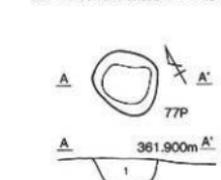
74号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/4)  
3cm以上の小礫、白色粒子を多く含む



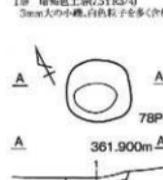
75号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR3/3)  
1cm以上の小礫および白色粒子を多く含む  
2層 暗褐色土層(GYR3/4)  
5cm以上の小礫、白色粒子を少量含む



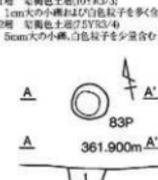
76号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
多量のカーボン、白色粒子を含む  
2層 暗褐色土層(GYR2/3)  
白色雲を多量に含む



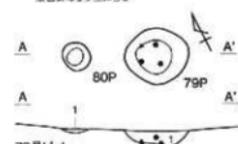
77号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
多量のカーボン、赤褐色粒子を含む



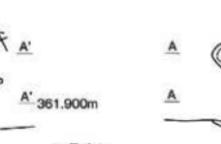
78号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
多量のカーボンを含む  
2層 暗褐色土層(GYR3/4)  
白色粒子、褐色土ブロックを多く含む



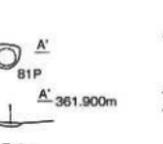
83号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
カーボン、白色雲をわずかに含む



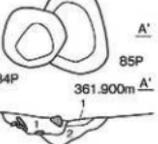
79号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
多量のカーボン、赤褐色粒子を含む



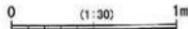
81号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
わずかなカーボンを多量の赤褐色粒子を含む



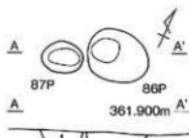
82号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
わずかなカーボンを多量の赤褐色粒子を含む



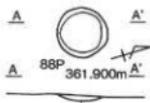
84号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3) 赤褐色粒子、白色雲を多く含む  
2層 暗褐色土層(GYR3/2) 褐色土小ブロックをわずかに含む  
85号ビット  
1層 暗褐色土層(GYR2/3)  
中程度の礫および5cm以上の小礫を多量に含む



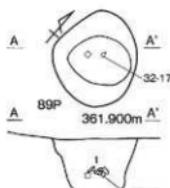
第18図 ビット平面図(4)



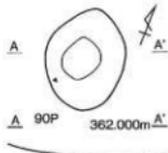
86号ビット  
1層 緑褐色土層(7.5YR2/3)  
赤褐色、白色粒子を多く含む



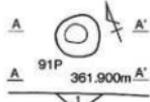
88号ビット  
1層 黒褐色土層(7.5YR2/3)  
赤褐色、白色粒子を多量に含む



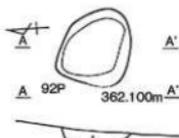
89号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
3cm大の塊を少量、赤褐色、褐色粒子を多く含む



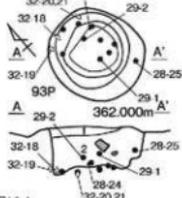
90号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3)  
2cm大の塊、白色粒子を多く含む



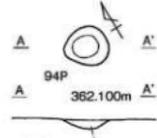
91号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3)  
カーボン、赤褐色粒子をわずかに含み、  
白色粒子を多量に含む



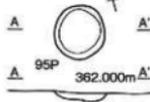
92号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3)  
カーボン、褐色土プロックを多く含む  
やが砂質である



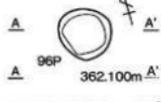
93号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3) 多くのカーボン、褐色土プロックを含む  
2層 褐色砂質土層(10YR3/4) に4A層褐色土のプロックを多く含む



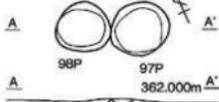
94号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
カーボン、赤褐色粒子をわずかに含む



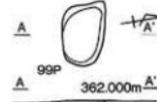
95号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
カーボン、白色粒子をわずかに含む



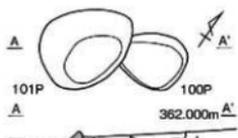
96号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
カーボン、白色粒子を多く含む



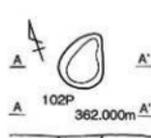
97号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
赤褐色、褐色土プロックを多く含む



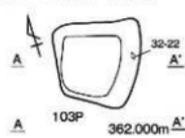
98号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
多量のカーボン、褐色土プロックを含む



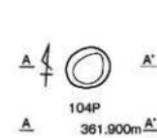
100号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
2層 褐色土小プロックを多く含む



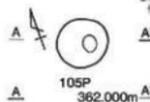
102号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
カーボン、褐色土プロックを多く含む



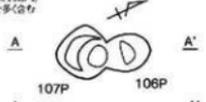
103号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3)  
厚大から5mm以上の塊を多量に混入する



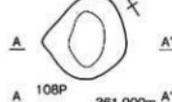
104号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
2層 褐色土小プロックをわずかに含む



105号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4) 少量のカーボン、赤褐色、白色粒子を含む  
2層 黒褐色土層(7.5YR3/2) 褐色土プロックを少量含む



106号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3) 多量のカーボン、褐色土プロックを含む



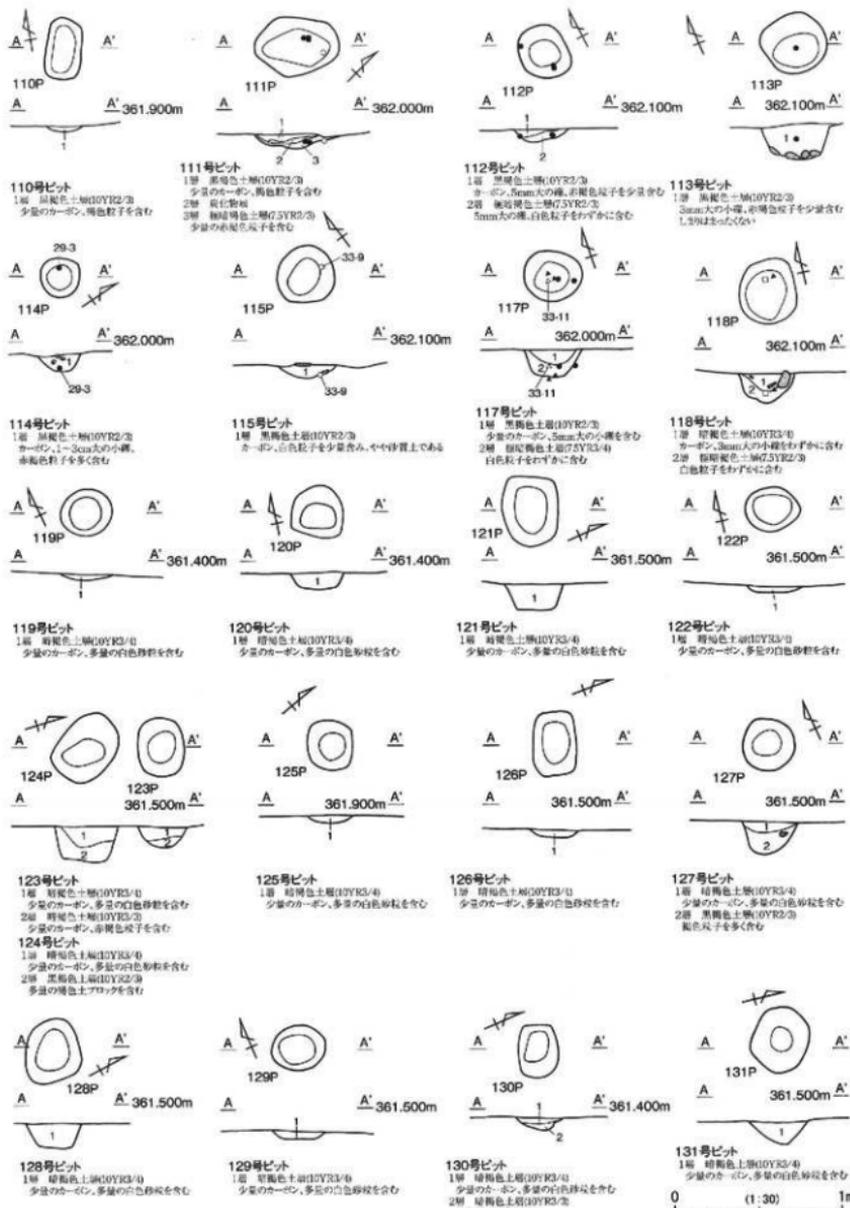
108号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3) 1層のカーボン、褐色土プロックを含む  
2層 暗褐色土層(7.5YR2/4) 白色粒子をわずかに含む



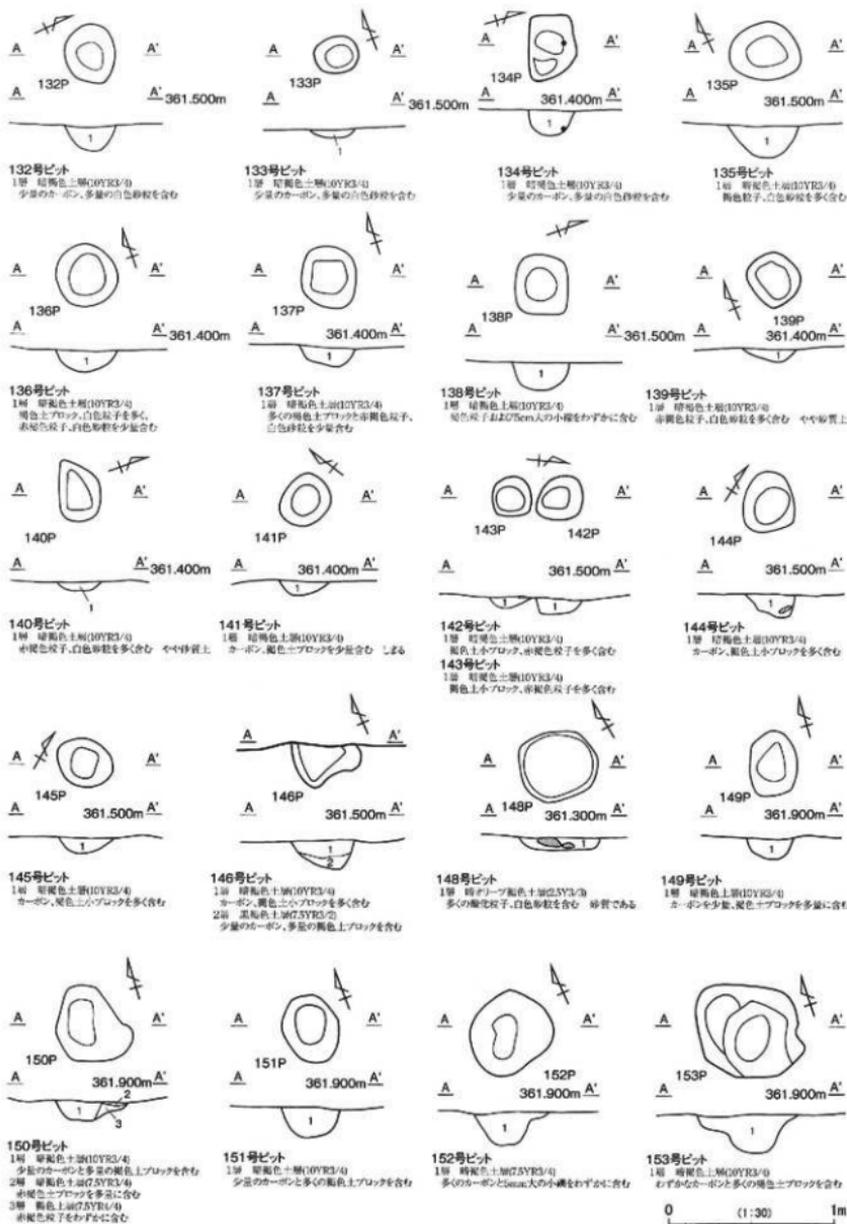
109号ビット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/4)  
少量のカーボン、褐色土小プロックを含む



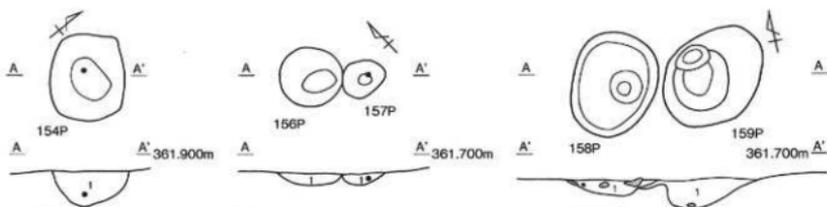
第19図 ビット平面図(5)



第20図 ビット平面図(6)



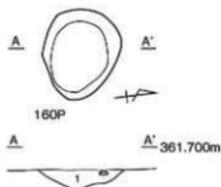
第21図 ビット平面図(7)



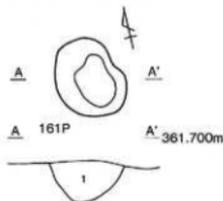
154号ピット  
1層 黒褐色土層(10YR3/4)  
多数のカーボン、褐色土ブロックを含む

156号ピット  
1層 暗褐色土層(10YR3/4) 多くの褐色土小ブロック、白色粒子を含む  
157号ピット  
1層 暗褐色土層(10YR3/4) 多くのカーボン、褐色土ブロックを含む

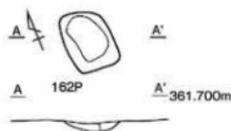
158号ピット  
1層 暗褐色土層(7.5YR2/3)  
少量のカーボンと多くの赤褐色粒子、褐色土小ブロックを含む  
159号ピット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/3)  
多くのカーボン、白色粒子、3mm径の小塊を含む



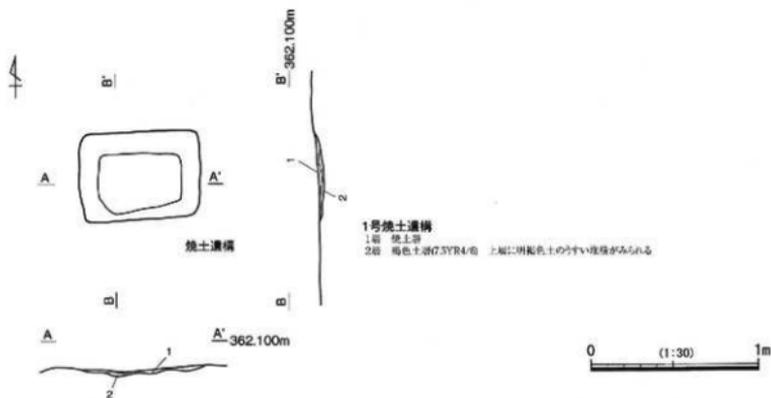
160号ピット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/3)  
褐色土ブロックを多数含む



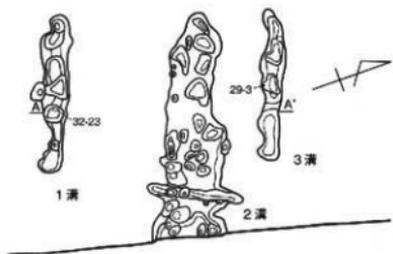
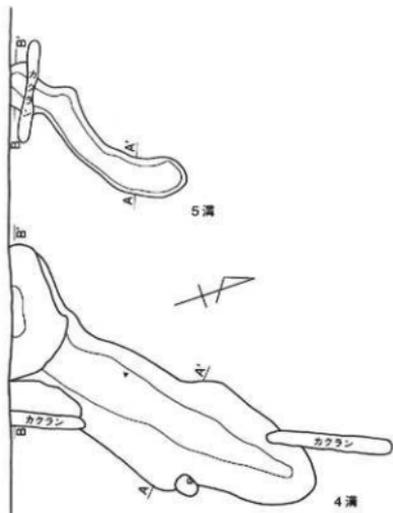
161号ピット  
1層 暗褐色土層(7.5YR3/3)  
少量のカーボン、白色粒子、多数の褐色土ブロックを含む



162号ピット  
1層 黒褐色土層(7.5YR2/3)  
多くの白色粒子、少量の褐色土小ブロックを含む



第22図 ピット平面図(8)・焼土遺構平面図



**1号溝**

1層 黒褐色土層(7SYR3/4) 黒褐色土ブロック、白色粒子を含む

**2号溝**

1層 棕色土層(7SYR4/4) 褐色土ブロックを多数に含む

2層 赤褐色土層(7SYR3/4) 褐色土ブロックを多数に含む

**3号溝**

1層 黒褐色土層(7SYR3/2) カーボンを含む

2層 棕色土層(7SYR4/4) 赤褐色、白色粒子を多く含む

3層 赤褐色土層(7SYR3/4) 褐色、土小ブロックを多く含む

4層 棕色土層(7SYR4/4) 白色粒子を多く含む



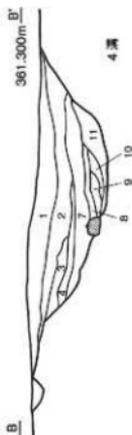
**5号溝**

1層 黒褐色土層(7SYR2/3)

棕色土ブロックを多数に含む

2層 赤褐色土層(7SYR3/4)

少量のカーボン、多くの白色粒子を含む



**4号溝**

1層 黒褐色土層(7SYR2/3) 多くの棕色土ブロック、赤褐色粒子をわずかに含む

2層 緑褐色土層(7SYR2/2) 5mm以下の小塊状の褐色土小ブロックを含む

3層 黒褐色土層(7SYR2/2) 褐色土ブロックを多く、赤褐色粒子を少量含む

4層 黒褐色土層(7SYR2/2) 褐色土小ブロックを多く含む

5層 緑褐色土層(7SYR2/2) 褐色土小ブロックを多数に含む

6層 緑褐色土層(7SYR3/4) 棕色土ブロックを多く含む

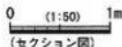
7層 褐色土層(7SYR4/4) 黒褐色土小ブロックを多く含む

8層 緑褐色土層(7SYR2/4) 赤褐色粒子、黒褐色土小ブロックをわずかに含む

9層 黒褐色土層(7SYR2/2) 褐色土小ブロックを多く含む

10層 緑褐色土層(7SYR2/2) 白色粒子、棕色土ブロックを少量含む

11層 黒褐色土層(7SYR3/2) 褐色土小ブロックを多く含む 粘性は強い

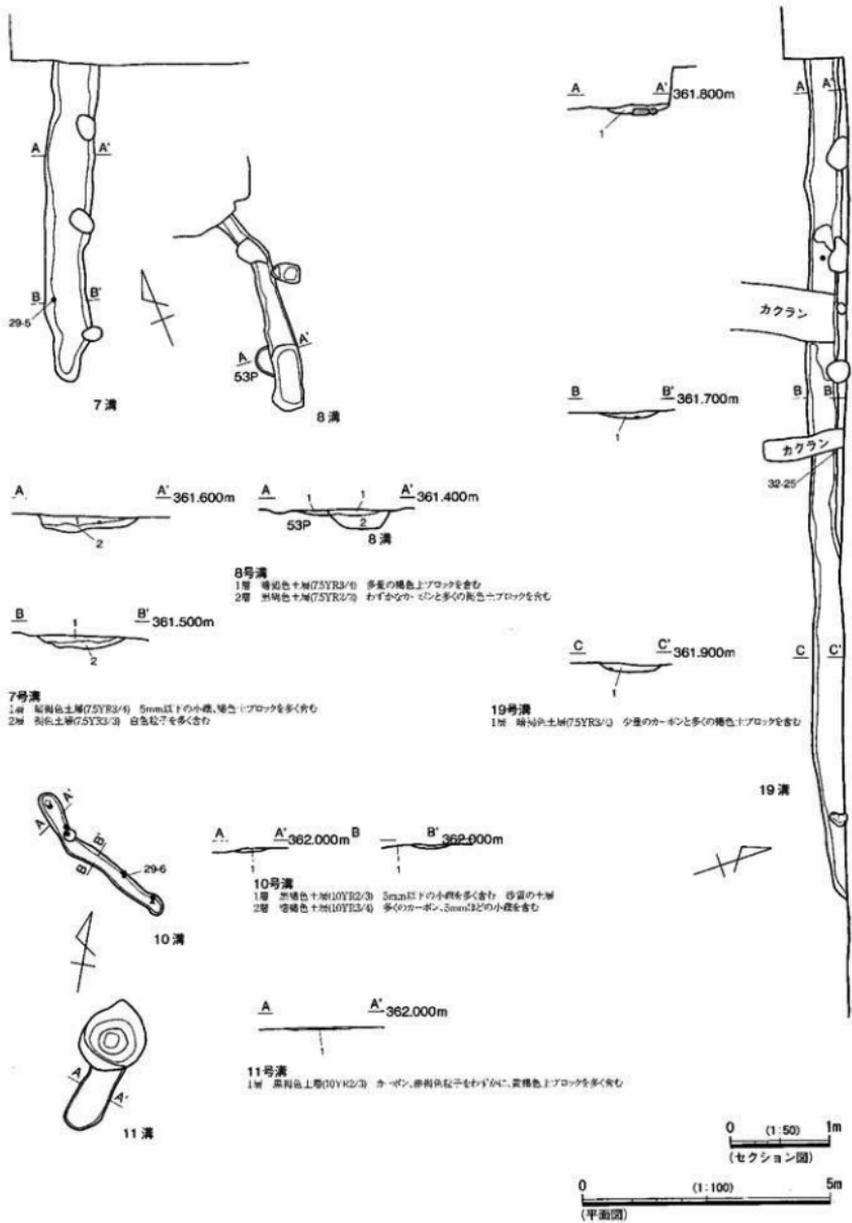


(セクション図)



(平面図)

第23図 溝平面図(1)



7号溝  
29.6

8号溝  
53P

A A' 361.600m  
A A' 361.400m  
1 1  
53P 2 8号溝

B B' 361.500m  
1 2

7号溝  
1層 暗褐色土層(7SYR3/4) 5mm以下の小粒、暗色(シブツク)を多く含む  
2層 褐色土層(7SYR3/4) 白色粘土を多く含む

8号溝  
1層 暗褐色土層(7SYR3/4) 多量の褐色土アブツクを含む  
2層 暗褐色土層(7SYR3/4) わずかなカーボンと多くの褐色土アブツクを含む

A A' 361.800m  
1

B B' 361.700m  
1

C C' 361.900m  
1

19号溝  
1層 暗褐色土層(7SYR3/4) 少量のカーボンと多くの褐色土アブツクを含む

19溝

10号溝  
29.6

A A' 362.000m B B' 362.000m  
1層 暗褐色土層(10YR2/3) 5mm以下の小粒を多く含む、砂質の土層  
2層 暗褐色土層(10YR2/4) 多くのカーボン、3mm以下の小粒を含む

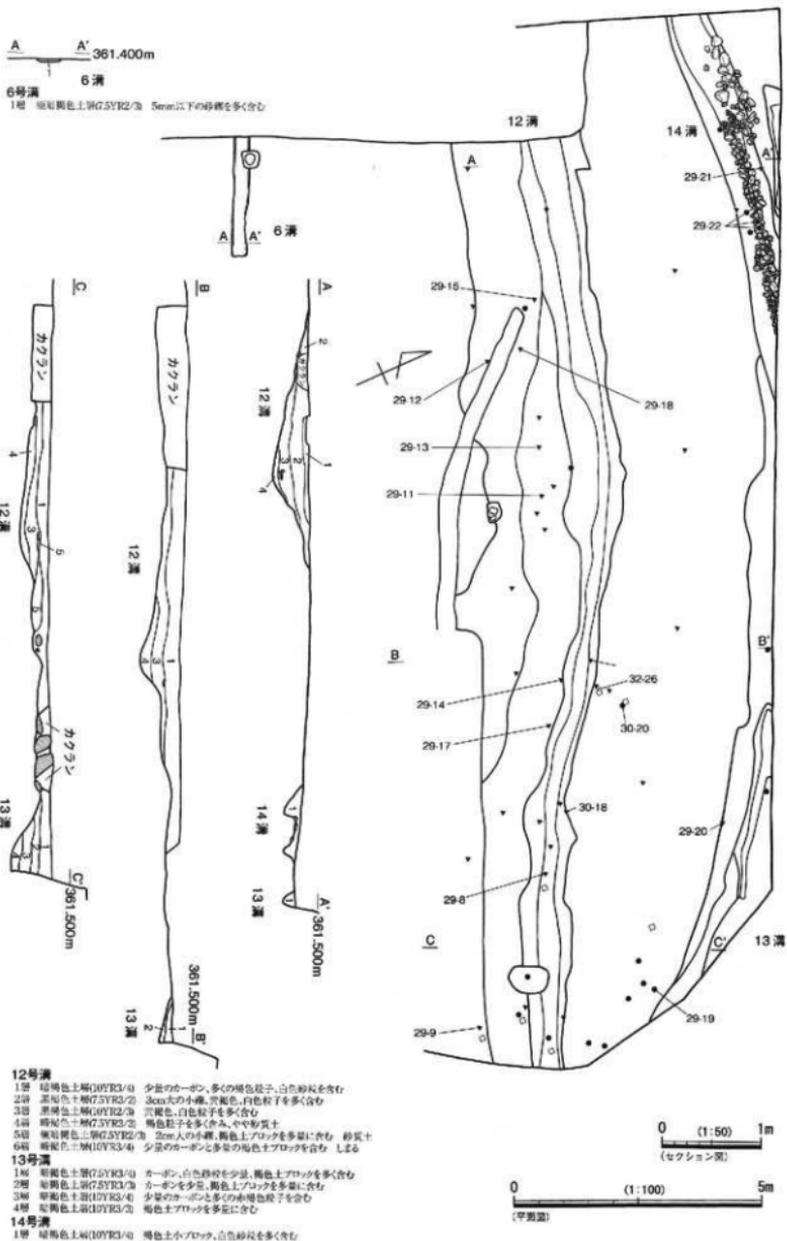
11号溝  
29.6

A A' 362.000m  
1層 黒褐色土層(10YR2/3) カーボン、赤褐色粘土をわずかに、暗褐色土アブツクを多く含む

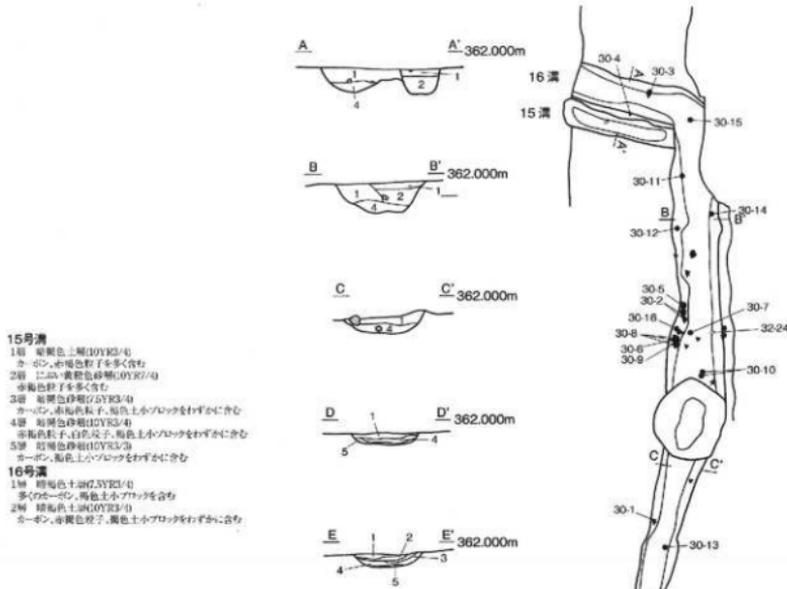
0 (1:50) 1m  
(セクション図)

0 (1:100) 5m  
(平面図)

第24図 溝平面図(2)



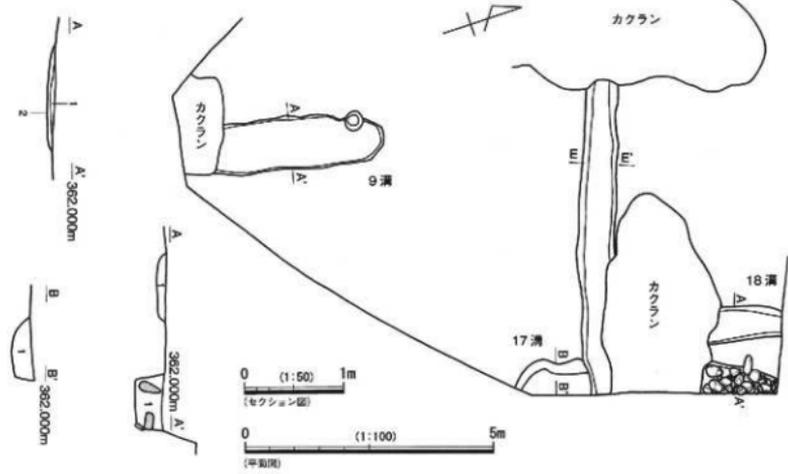
第25図 溝平面図(3)



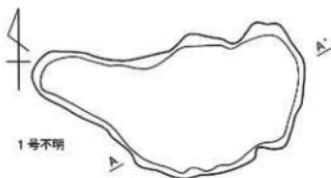
- 15号溝**  
 1号 紫褐色土層(DYK3/4)  
 2号 ソーレン、赤褐色砂子多く含む  
 2号 濃い黄褐色砂層(DYK7/4)  
 ※褐色砂子多く含む  
 3号 暗褐色砂層(DYK3/4)  
 ※ソーレン、赤褐色砂子、褐色土小ブロックをわずかに含む  
 4号 暗褐色砂層(DYK3/4)  
 ※褐色砂子、白色砂子、褐色土小ブロックをわずかに含む  
 5号 暗褐色砂層(DYK3/4)  
 ※ソーレン、褐色土小ブロックをわずかに含む
- 16号溝**  
 1号 暗褐色土層(DYK3/4)  
 ※ソーレン、褐色土小ブロックを含む  
 2号 暗褐色土層(DYK3/4)  
 ※ソーレン、赤褐色砂子、褐色土小ブロックをわずかに含む

- 9号溝**  
 1号 紫褐色土層(DYK3/4) 少量のソーレン、多くの赤褐色砂子を含む  
 2号 紫褐色土層(DYK3/4) ソーレン、金色雲母をわずかに含む

- 17号溝**  
 1号 暗褐色土層(DYK3/4) 入流口の端、褐色土ブロックを多く含む
- 18号溝**  
 1号 暗褐色土層(DYK3/4) 褐色土ブロック、白色砂層を多く含む 礫が混る

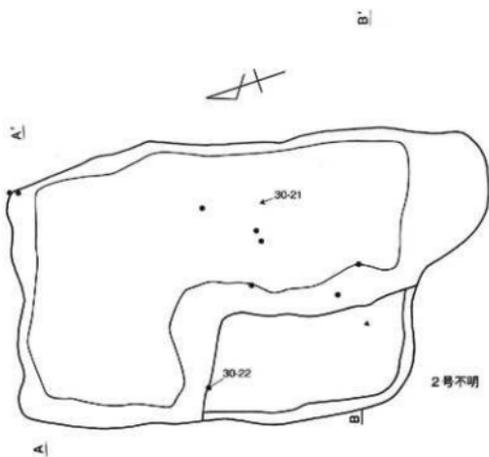


第26図 溝平面図(4)



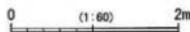
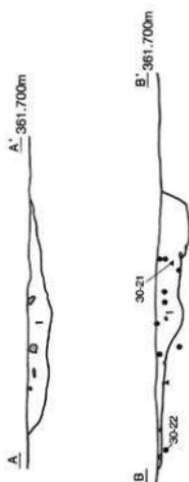
1号不明遺構

- 1層 砂褐色土層(TY32/3) 多くの白色灰子と褐色土フロックを含む  
 2層 褐色土層(TY34/4) 5cm以下の小礫を多く含む

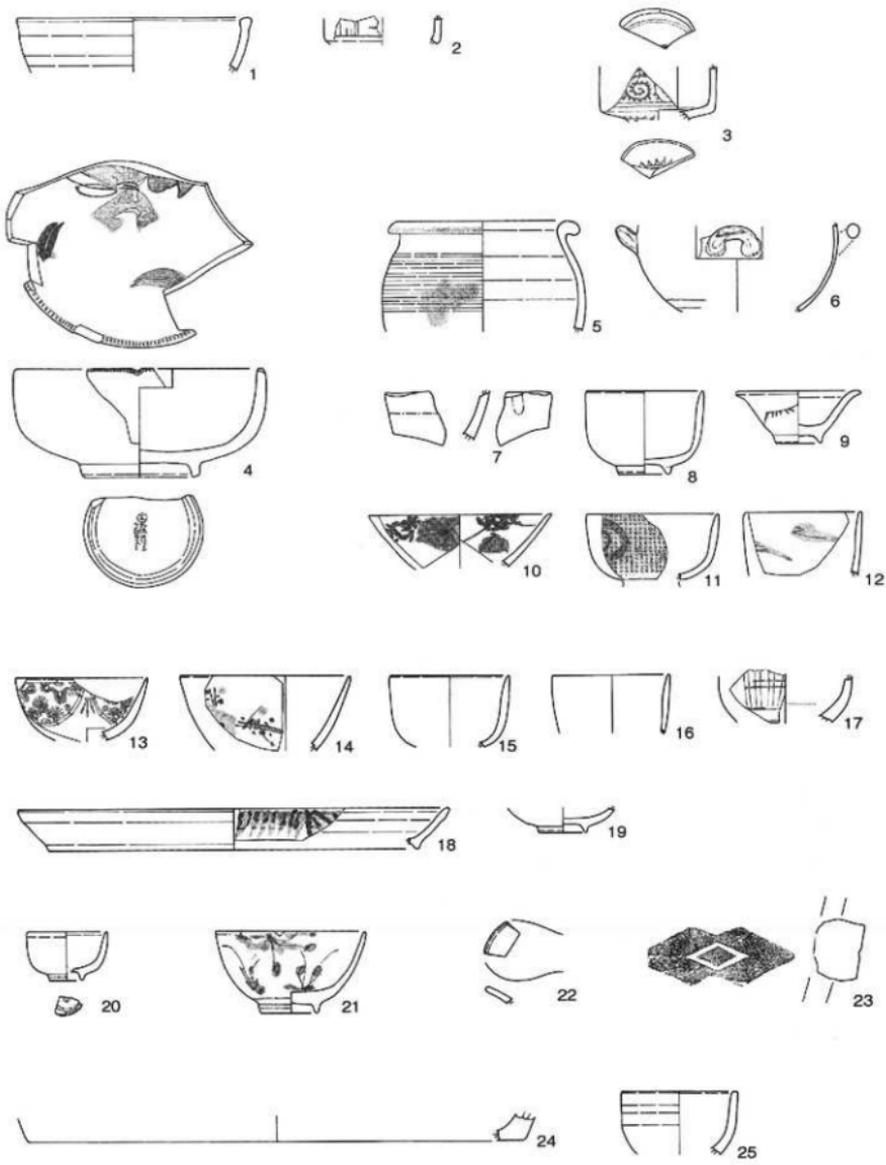


2号不明遺構

- 1層 赤褐色土層(TY32/3) 手大~2cm大の礫、白色灰子を多量に含む やや砂質土  
 2層 紅褐色土層(TY33/4) 5~1cm大の小礫、5~8%を少量含む

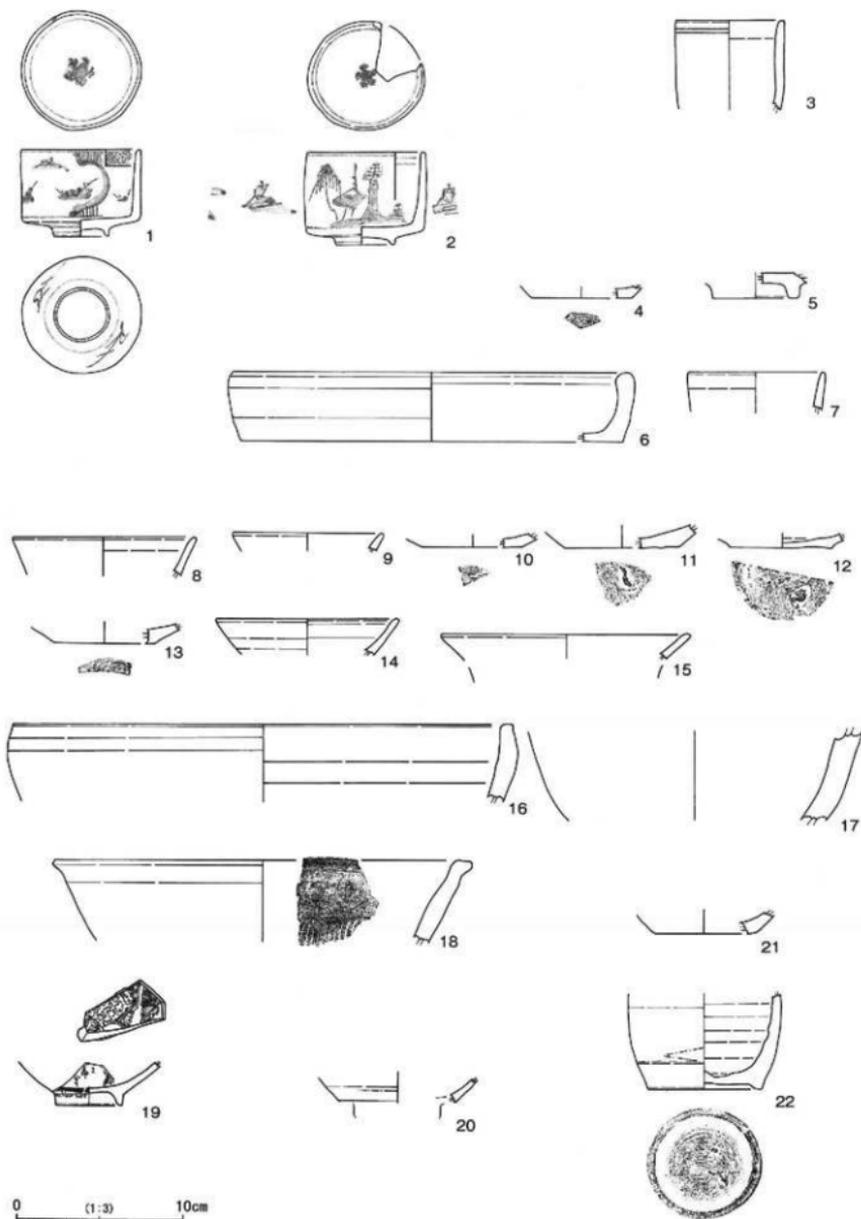


第27図 性格不明遺構平面図

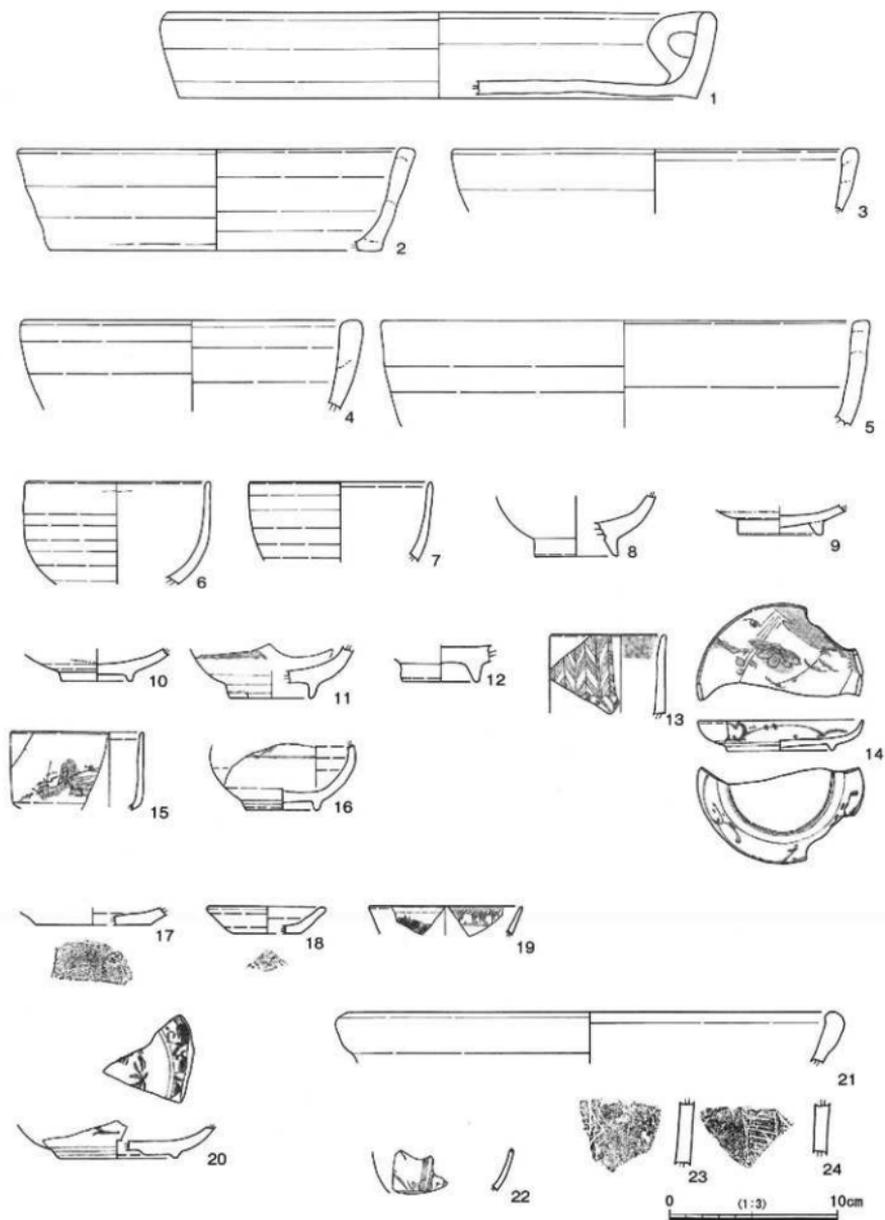


0 (1:3) 10cm

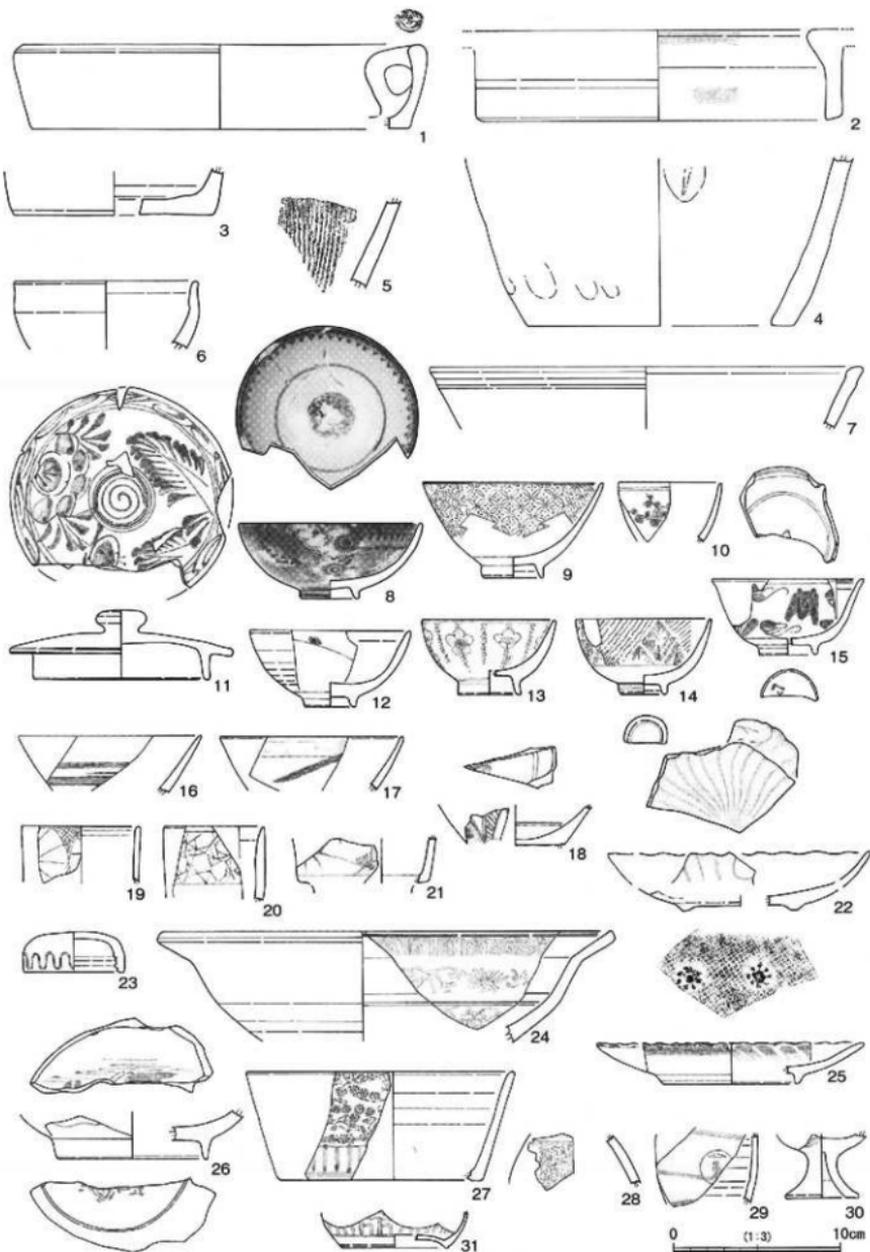
第28図 出土遺物(1)



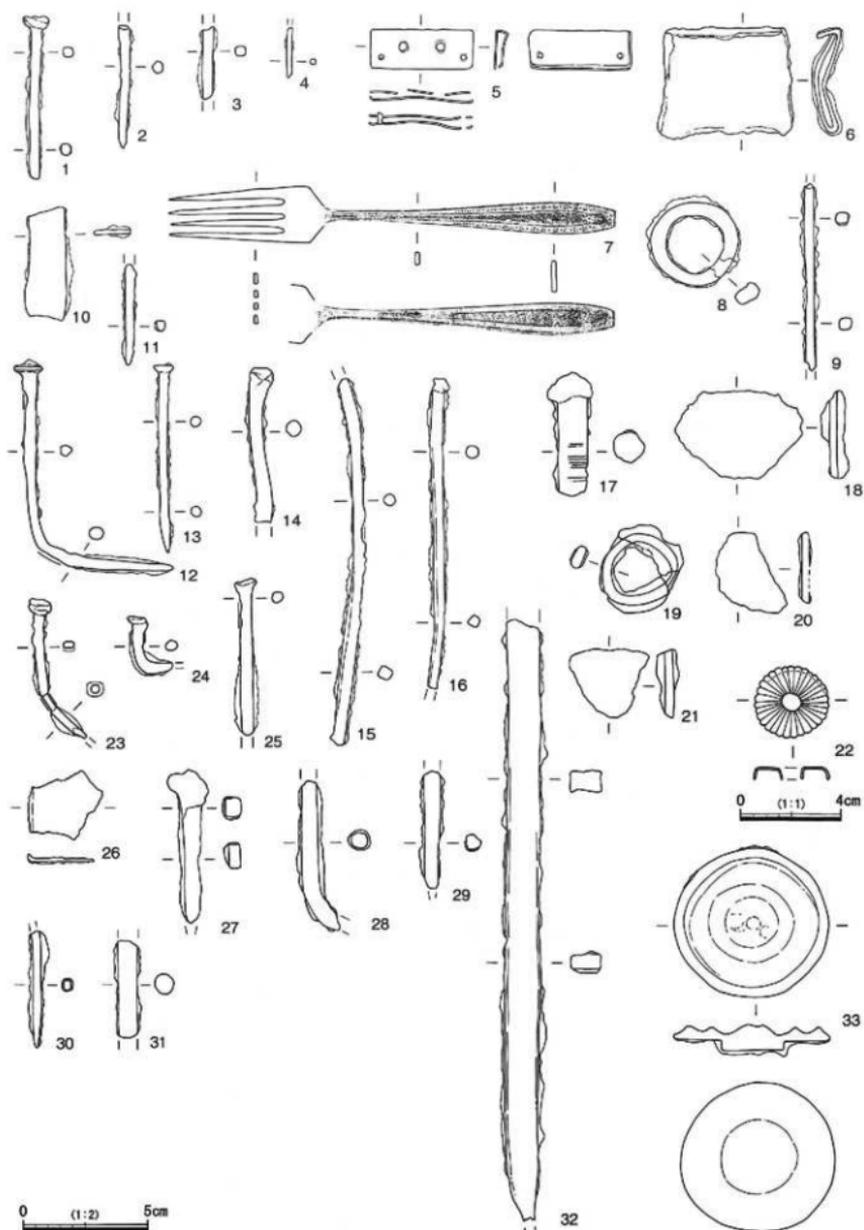
第29図 出土遺物(2)



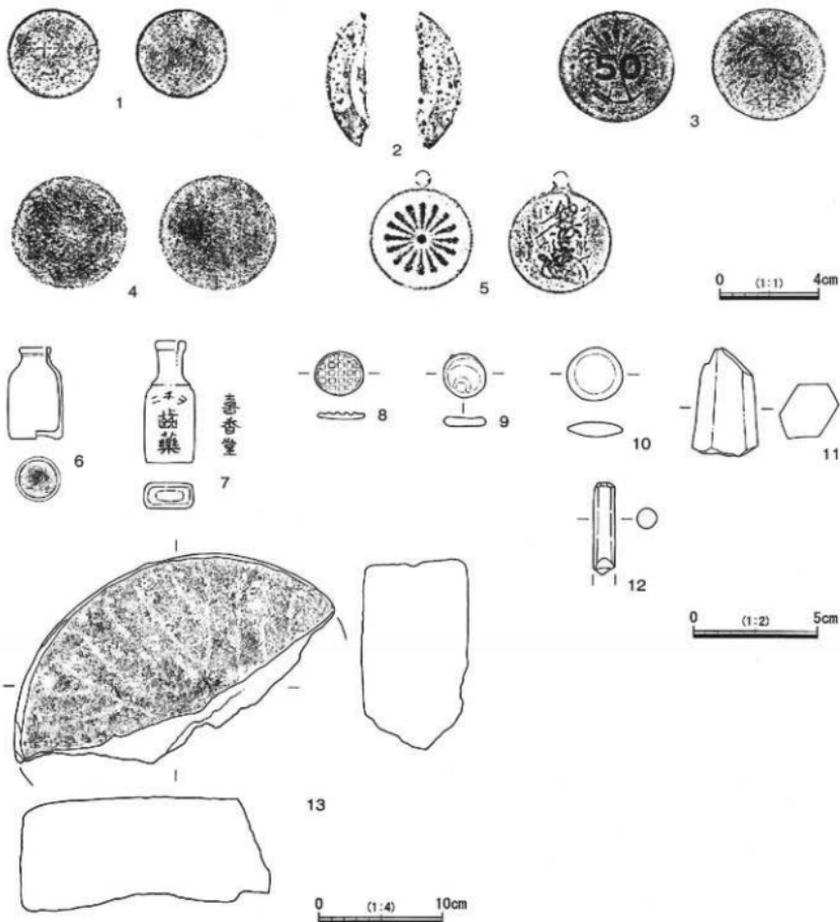
第30図 出土遺物(3)



第31圖 出土遺物(4)



第32図 出土遺物(5)



第33回 出土遺物(6)



遺跡全景



1. 1区全景



2. 2区全景



1.3区全景



2.4区全景



1.5区全景



2.6区全景



1. 調査開始前 (1)



2. 調査開始前 (2)



3. 調査開始前 (3)



4. 表土剥ぎ



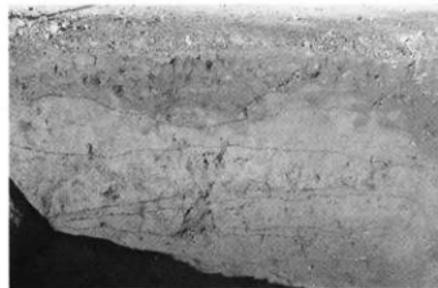
5. 遺構確認作業 (1)



6. 遺構確認作業 (2)



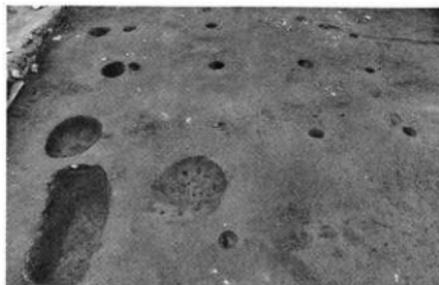
7. 遺構確認作業 (3)



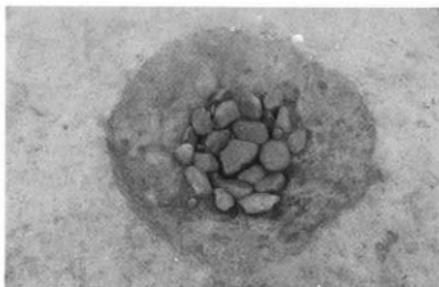
8. 標準土層



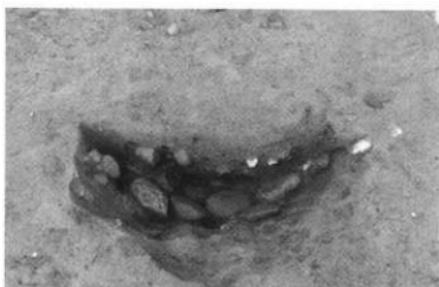
1. 1号掘立柱建物



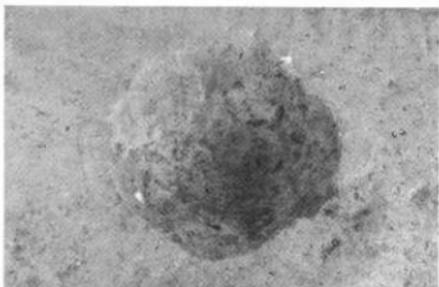
2. 2号掘立柱建物



3. 1号土坑



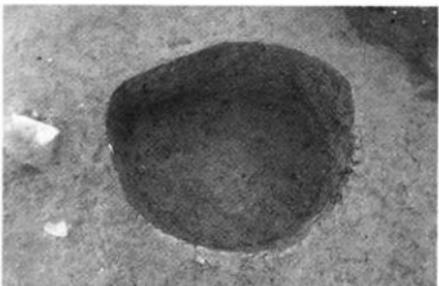
4. 1号土坑 セクション



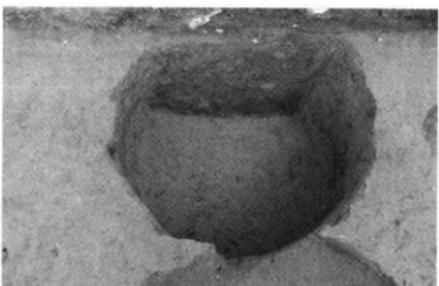
5. 1号土坑 掘り方



6. 2号土坑



7. 5号土坑



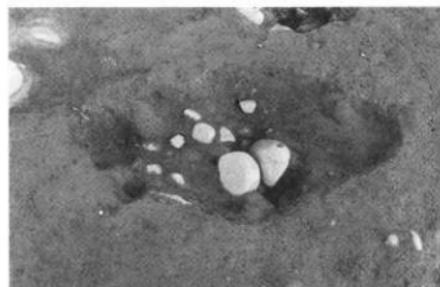
8. 6号土坑



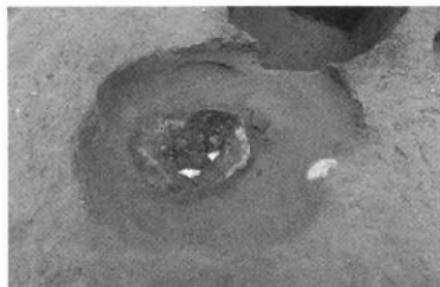
1. 7号土坑



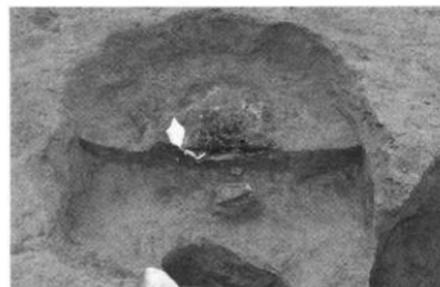
2. 8・9・11号土坑



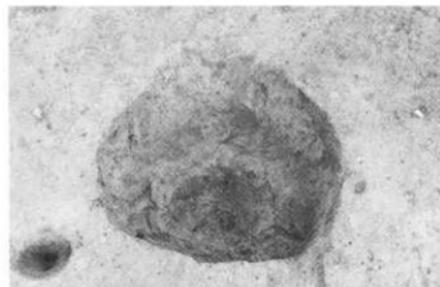
3. 10号土坑



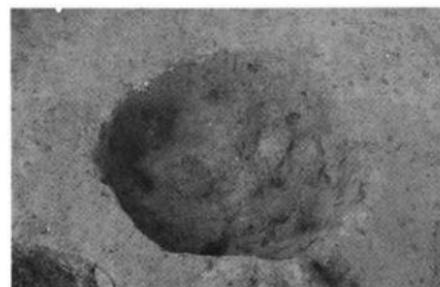
4. 12号土坑 焼土検出状況



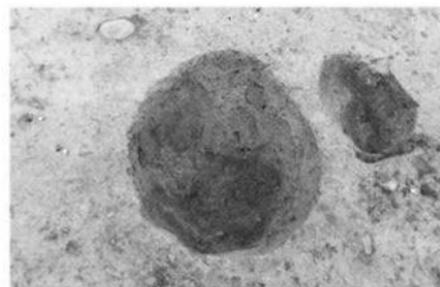
5. 12号土坑 セクション



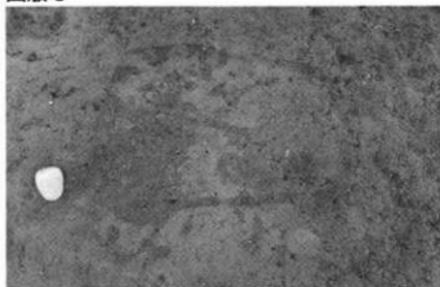
6. 13号土坑



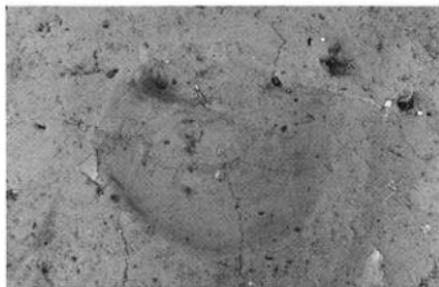
7. 15号土坑



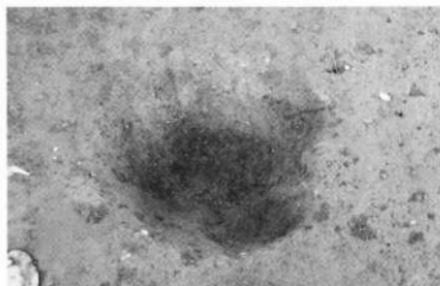
8. 16号土坑



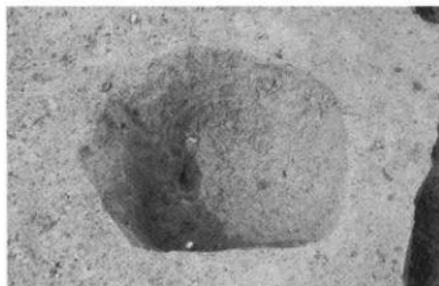
1. 17号土坑



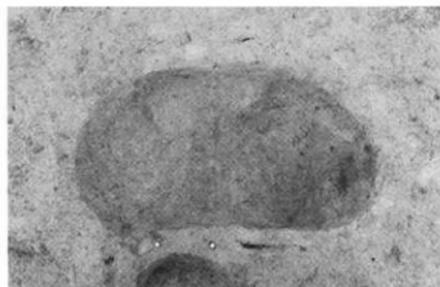
2. 18号土坑



3. 19号土坑



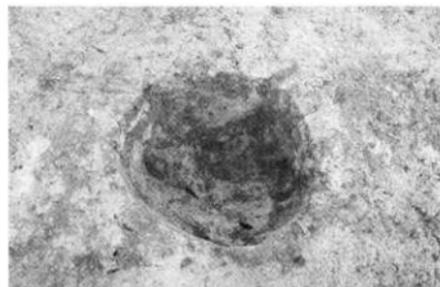
4. 20号土坑



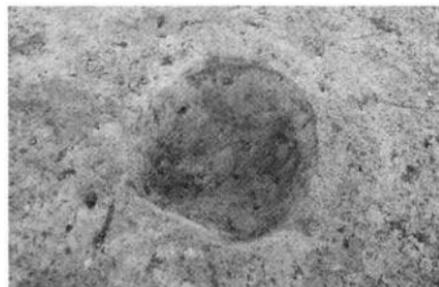
5. 26号土坑



6. 27号土坑



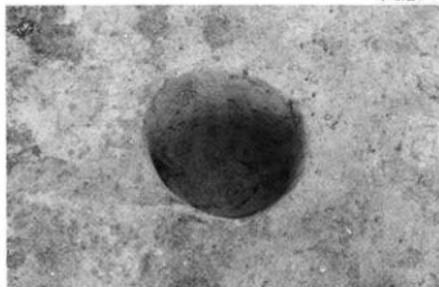
7. 1号ビット



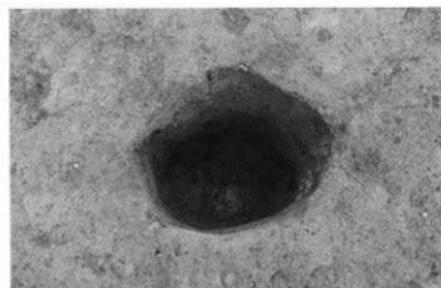
8. 2号ビット



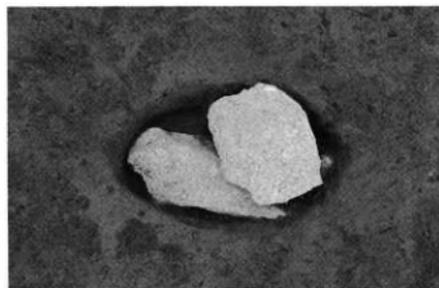
1. 4号ビット



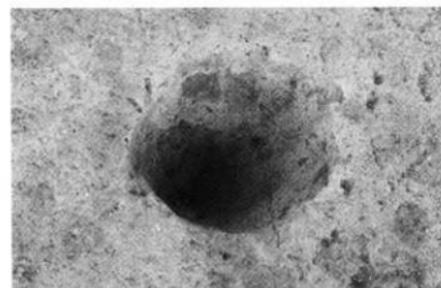
2. 5号ビット



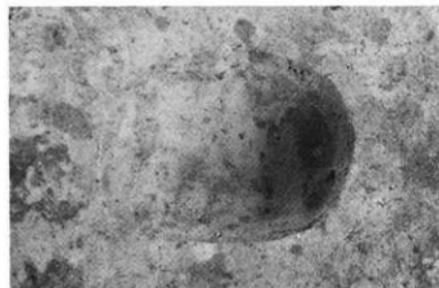
3. 7号ビット



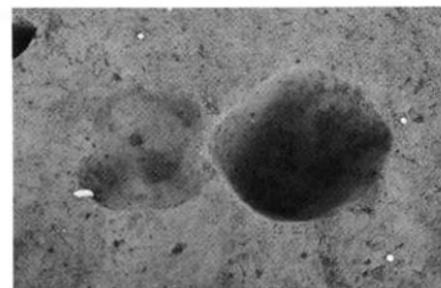
4. 14号ビット



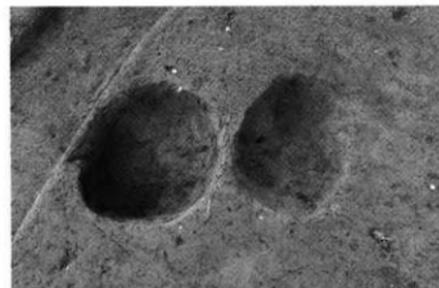
5. 23号ビット



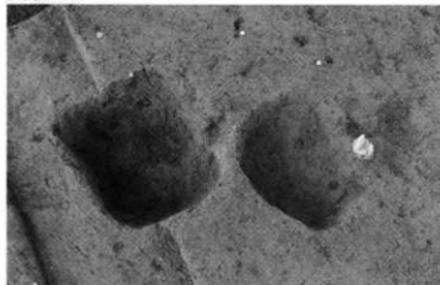
6. 27号ビット



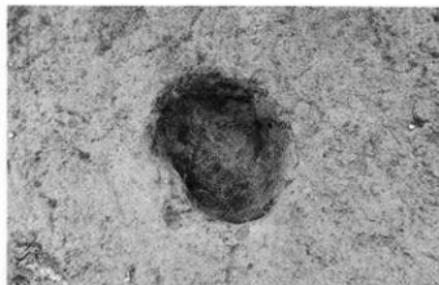
7. 39・40号ビット



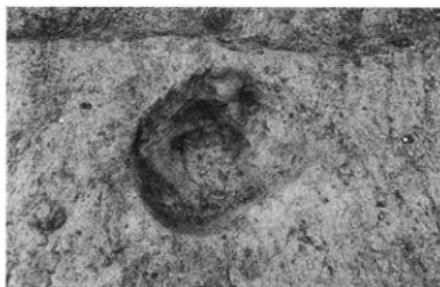
8. 45・46号ビット



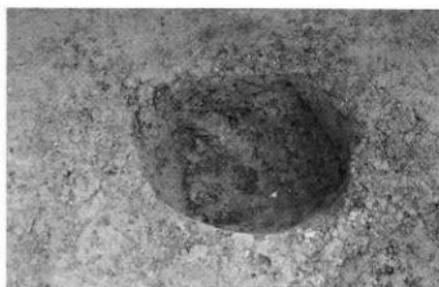
1. 47号・48号ピット



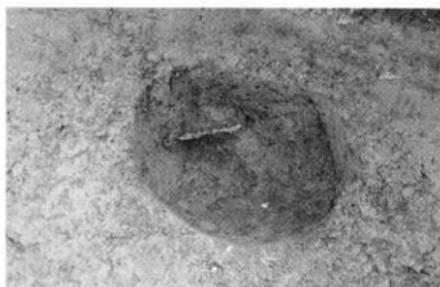
2. 51号ピット



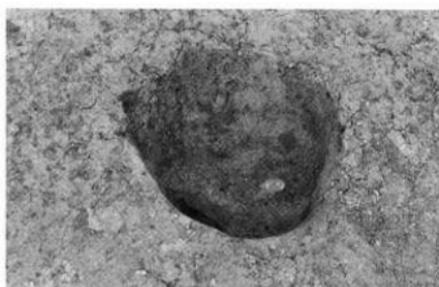
3. 52号ピット



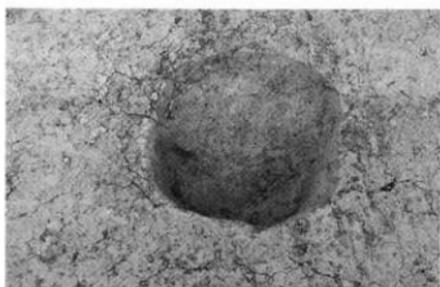
4. 76号ピット



5. 76号ピット 遺物出土状況



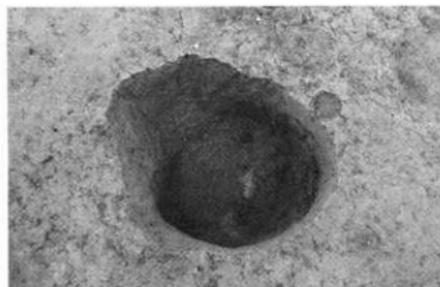
6. 77号ピット



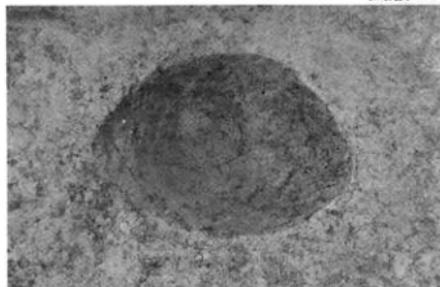
7. 78号ピット



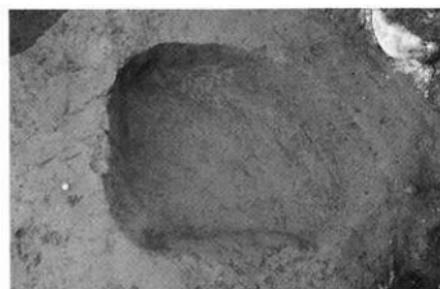
8. 84・85号ピット



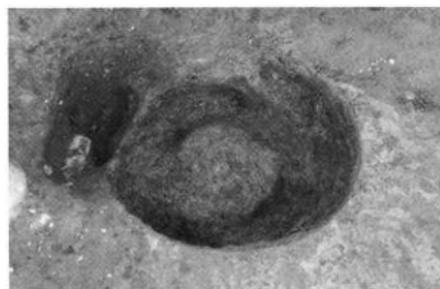
1. 89号ピット



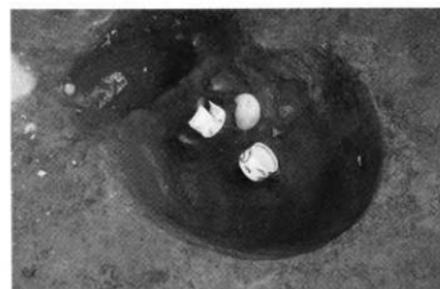
2. 90号ピット



3. 92号ピット



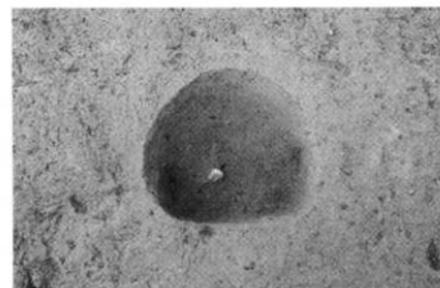
4. 93号ピット



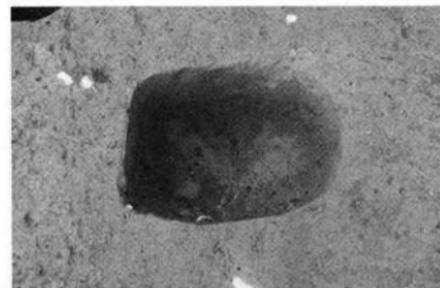
5. 93号ピット 遺物出土状況



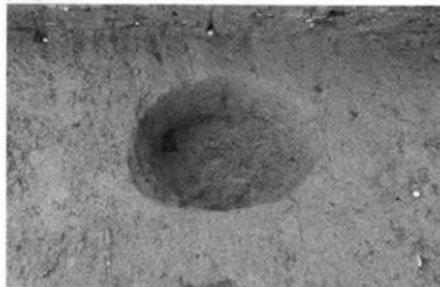
6. 100号ピット 礫検出状況



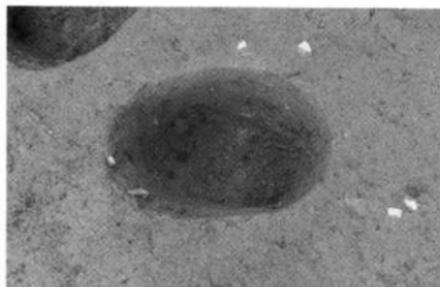
7. 120号ピット



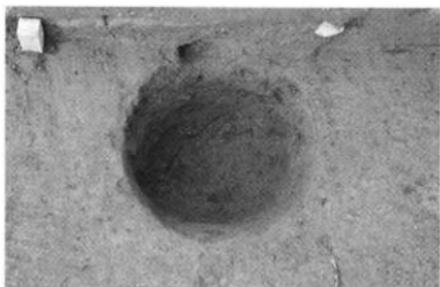
8. 121号ピット



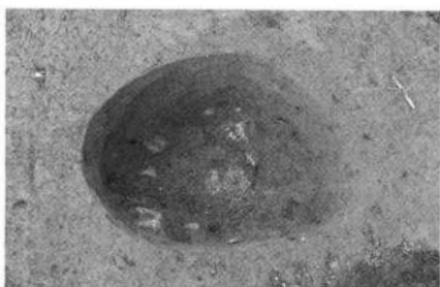
1. 123号ビット



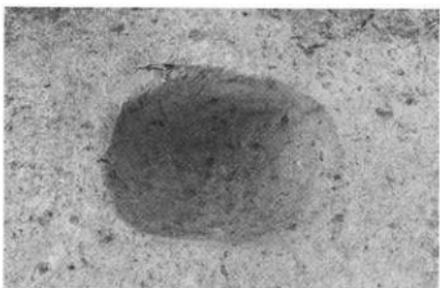
2. 124号ビット



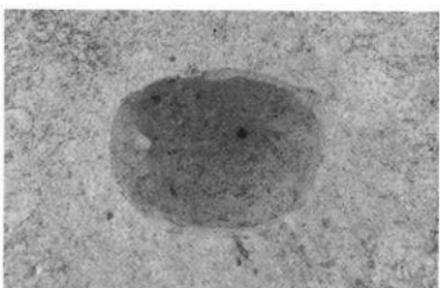
3. 127号ビット



4. 128号ビット



5. 131号ビット



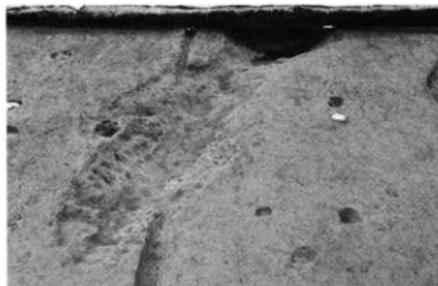
6. 132号ビット



7. 焼土遺構



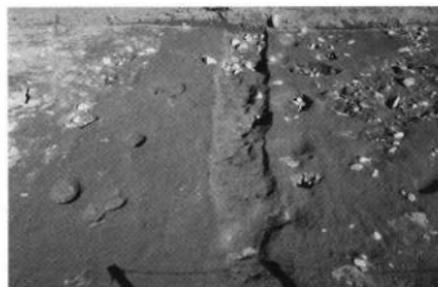
8. 1～3号溝



1. 4号沟



2. 5号沟



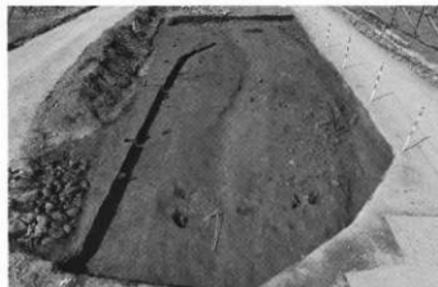
3. 7号沟



4. 9号沟



5. 10号沟



6. 12·13号沟



7. 14号沟



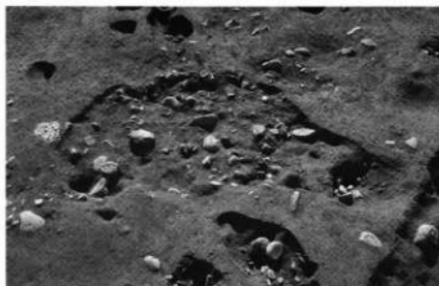
8. 14号沟 礫検出状況



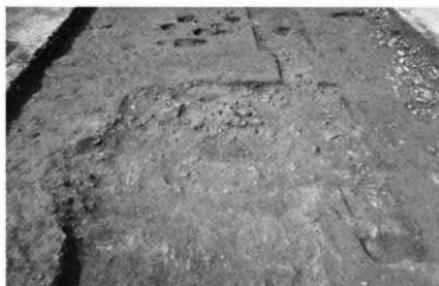
1. 15号溝



2. 19号溝



3. 1号性格不明遺構



4. 2号性格不明遺構



5. 調査風景(1)



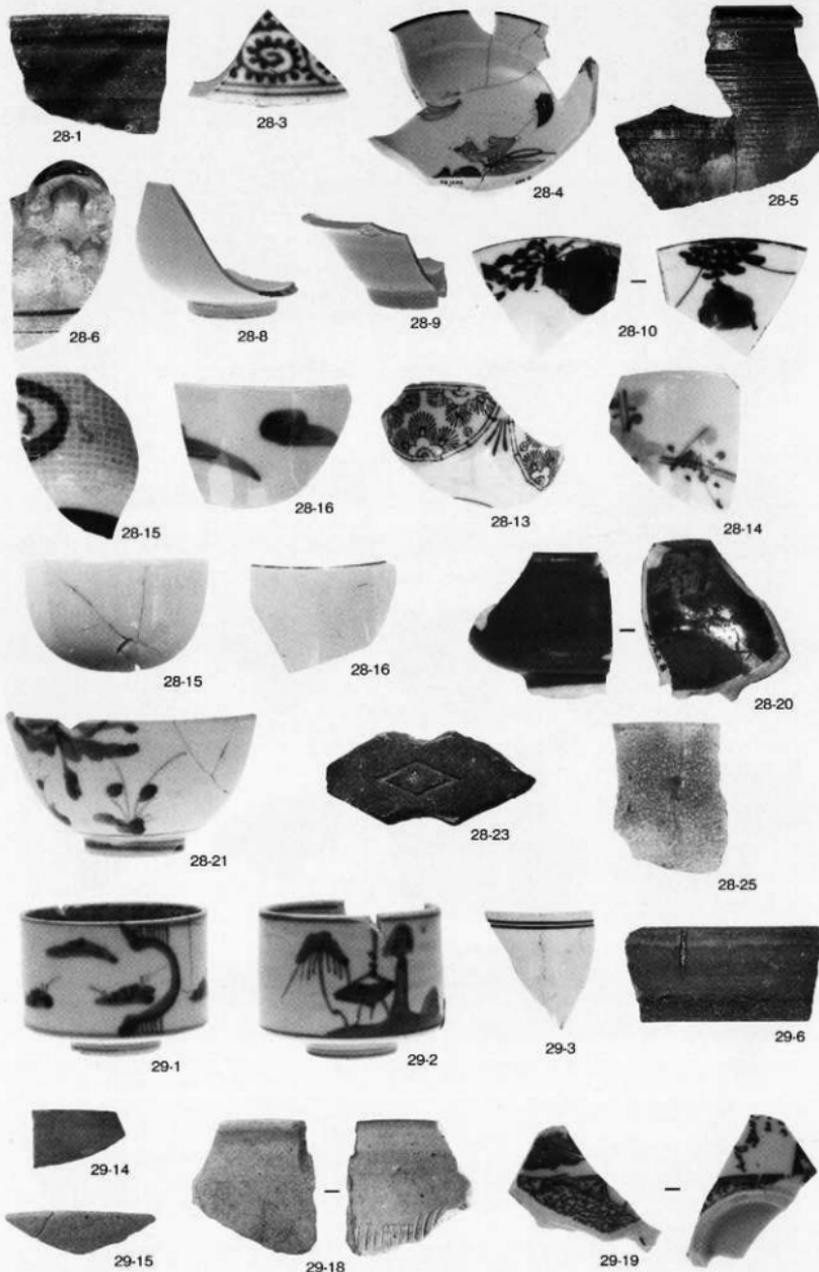
6. 調査風景(2)



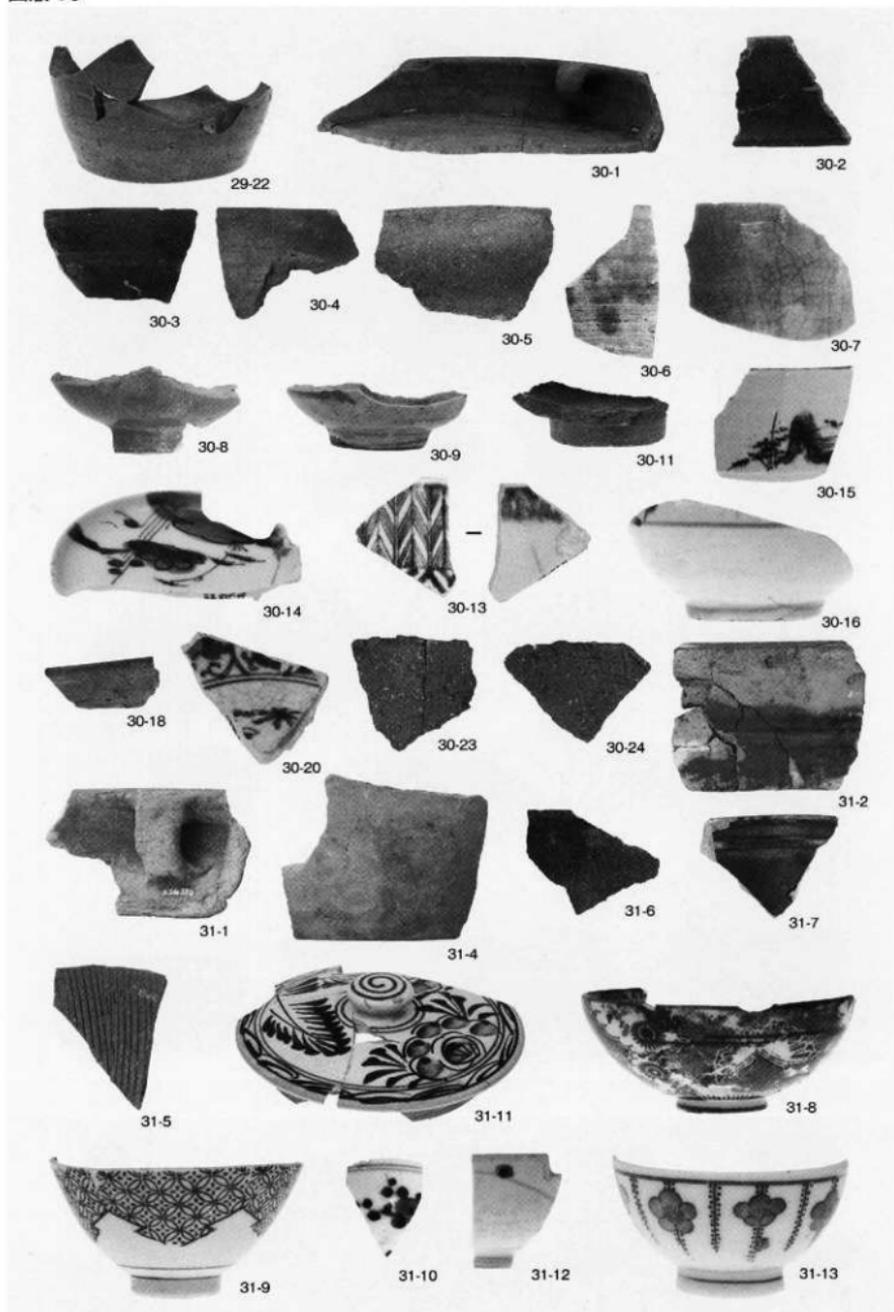
7. 写真測量

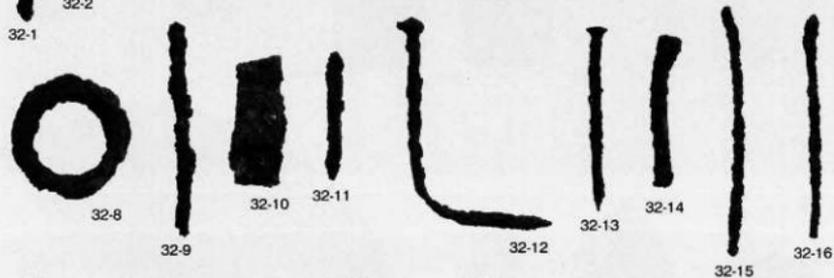
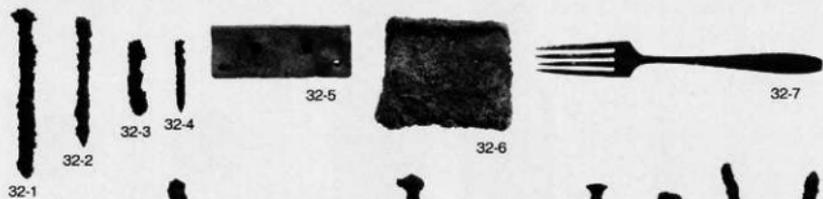
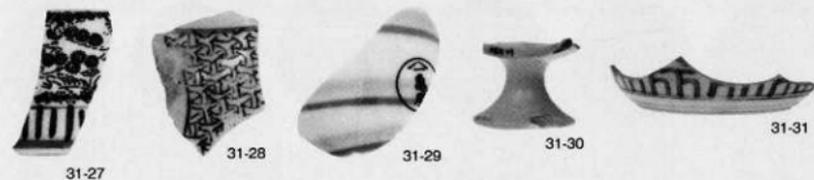
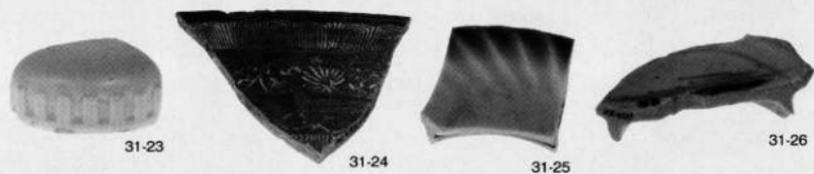


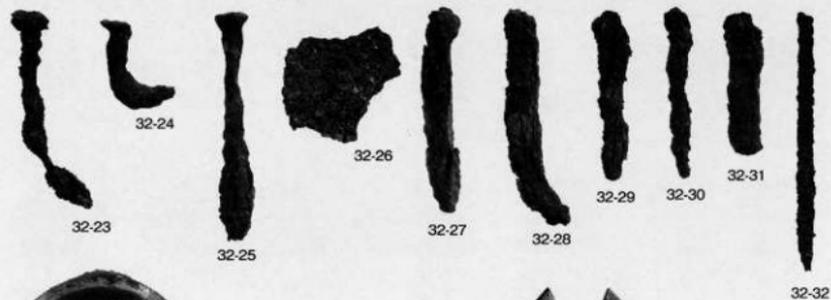
8. 神輿石



出土遺物(1)







## 三ヶ所遺跡（第2次調査地点）報告書抄録

ふりがな	さんがしよいせき（だい2じちようさちてん）	
書名	三ヶ所遺跡（第2次調査地点）	
副書名	市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書	
著者名	宮澤公雄	
発行者	山梨市・山梨市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所	
編集機関	財団法人山梨文化財研究所	
住所・電話	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL.055-263-6441	
印刷日	2011年3月10日	
発行日	2011年3月15日	
所在地	山梨県山梨市三ヶ所	
地図名	25,000分の1地形図 塩山	
位置	北緯35度41分32秒、東経138度42分21秒	
標高	362m	
市町村コード	19205	
調査原因	市道小原東東後屋敷線改良工事	
調査期間	2009年12月21日～2010年3月25日	
調査面積	1,251㎡	
遺跡概要	主な時代	縄文時代～近代
	主な遺構	中・近世の溝、近代の掘立柱建物跡
	主な遺物	縄文時代中期の土器、中・近世の土器・陶磁器、近代の陶磁器
	特殊遺構	築石土坑

---

山梨市文化財調査報告書 第13集

三ヶ所遺跡（第2次調査地点）

— 市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書 —

平成23年（2011）3月15日 発行

編集 榎山梨文化財研究所

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566 Tel. 055-263-6441

発行 山梨市・山梨市教育委員会・榎山梨文化財研究所

印刷 特帝京サービス

---

